

30301 ✓

教科書文庫

3

920

52-1902

20000
67396

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

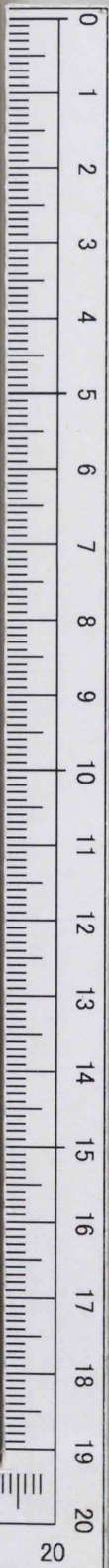
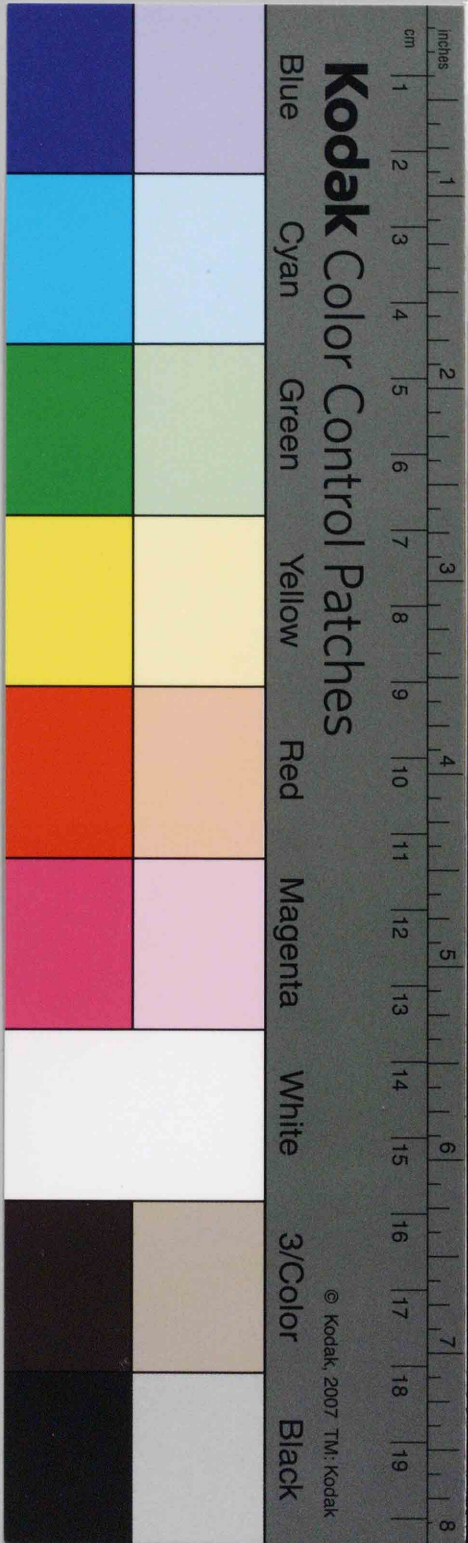


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



4b
930
明41

裁縫教科書

谷田部順子著
下巻



46
930
明41

資料室
明治三十五年七月廿二日
文部省檢定濟

谷田部順子著
下卷

裁縫教科書

東京

目黒書房
成美堂
合梓



裁縫教科書下卷目次

第一章	本裁單羽織男物	一頁
第一	部分縫	一
第二	裁ち方積り方	四
第三	標附け方	八
第四	縫ひ方順序	九
第二章	改良前掛西洋前掛	一二
第一	各部の名稱	一二
第二	部分縫	一二
第三	裁ち方	一九
第四	縫ひ方順序	二一

第三章 しゃつ……………二二

 第一 各部の名稱……………二三

 第二 大人物裁ち方積り方……………二五

 第三 縫ひ方順序……………二九

 第四 小供物裁ち方積り方……………三二

 第四章 すぼん下……………三五

 第一 各部の名稱……………三五

 第二 大人物裁ち方積り方……………三六

 第三 縫ひ方順序……………三九

 第四 小供物裁ち方積り方……………四一

 第五章 小裁、中裁、折返し羽織……………四三

 第一 裁ち方積り方……………四三

 第二 普通仕立上寸法……………四七

 第三 標附け方……………四九

 第四 縫ひ方順序……………四九

 第六章 本裁、小裁、中裁、被布……………五〇

 第一 裁ち方積り方……………五〇

 第二 普通仕立上寸法……………五四

 第三 標附け方……………五七

 第四 縫ひ方順序、綿入及び裕……………五八

 第七章 片面物及び中幅、大幅物にて羽織被布の裁ち方……………六一

 第八章 被布合羽女物……………八二

 第一 裁ち方積り方……………八二

第二章	普通仕立上寸法	八四
第三章	標附け方	八四
第四章	縫ひ方順序	八六
第九章	大人女袴	九〇
第一章	各部の名稱	九〇
第二章	裁ち方積り方	九一
第三章	縫合及び襷取り方	九四
第四章	普通仕立上寸法	九八
第五章	標附け方及び縫ひ方順序	九九
第十章	小裁、中裁女袴裁ち方積り方	一〇二
第十一章	大人男袴	一一一
第一章	各部の名稱	一一一

第二章	裁ち方積り方	一一二
第三章	縫合及び襷取り方	一一八
第四章	腰立系掛の順序	一二〇
第五章	普通仕立上寸法	一二六
第六章	標附け方	一二六
第七章	縫ひ方順序	一二八
第十二章	小裁、中裁男袴裁ち方積り方	一三五
第十三章	帯仕立方	一五四
第一章	丸帯	一五四
第二章	男帯	一五五
第十四章	小袖仕立方	一五七
第十五章	夜着	一六一

第一	裁ち方積り方	一六一
第二	普通仕立上寸法並に綿の分量	一六四
第三	標附け方	一六五
第四	縫ひ方順序	一六五
第十六章 單重		
第一	本重	一七三
第二	半重	一七六
第十七章 比翼		
第一	部分縫	一七七
第二	裁ち方積り方	一八四
第三	標附け方	一八九
第四	縫ひ方順序	一九〇

第十八章 股引及び半股引

第一	股引裁ち方積り方	一九三
第二	同縫ひ方順序	一九五
第三	半股引裁ち方積り方	一九九
第四	同縫ひ方順序	一九九
第十九章 脚裨及び足袋		
第一	脚裨裁ち方	二〇一
第二	同縫ひ方順序	二〇二
第三	足袋裁ち方	二〇三
第四	同縫ひ方順序	二〇五

裁縫教科書下卷目次終

裁縫教科書下卷

谷田部順子著

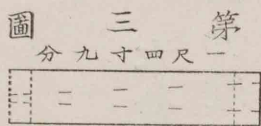
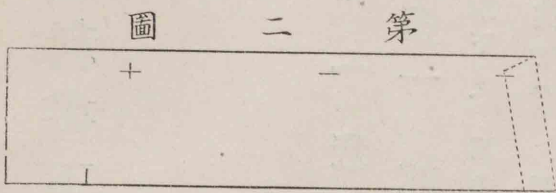
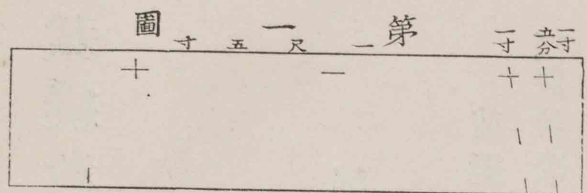
第一章 本裁單羽織男物

第一 部分縫

前縫前下り、襦の入れ方、 衿の附け方

一、前身頃及び襟 標附け方 半幅の運針用布一枚を取り
前身頃と見做し裁板の上に置き手前を衿附向を脇と定
め丈脇明紐附前幅前下りの標を附け(第一圖)次に裾を三
つ折りにして折り目の上に亦前幅の標をつく(第二圖)

但し縞物にて裾掛幅の廣きものは裾掛の處も前幅の通り眞直に標し折り返したる處の袷き分は襠幅の方にて廣くすべし



次に袖口布（襠）一枚を取り襠と見做し丈をはかり上下とも縫ひ込みを三つ折りになし幅及び後前の曲りの標をつくべし（第 三 圖）

但し丈の下方の折り込みは身頃と同じ幅にし残りは上方に縫ひ込むべし又曲りの割合及び丈のつめかた等は總

べて折り返し羽織に異なることなし

次に並幅の運針用布一枚を取り衿と見做し袷羽織の時と同じく折りを付け合標をなすべし

二、縫ひ方 前下りの處を標の通り三つ折りにして襠をか
け紐附をつけ衿の一枚の方を表に合せ上より三寸程縫
ひ（實物ならば衿肩廻し左右とも脊より五寸程即ち最初
の合標の所まで縫ひ置くべし）次に袷羽織の通り衿の中
に前身頃を折り込み左前は表を右前は裏を見て何れも
上より付け下げ衿の弛めかたは袷羽織に同じ衿先を縫
ひ裏に返して綴ち付け引き返して前にあけ置きたる所
を小針に縮けつくべしそれより前脇及び襠に標の通り
折りを付け前下りの襠をとり襠を稍張りめに前身頃に

合せ待針をなして縫ひ裾掛の折り込みの中になるべき
 處は縫はずして折りめの一針先きまで縫ひ置くべし前
 身頃の方に返し襜の縫ひ込みを折りて身頃の縫ひ込み
 に綴ち附け七八分の針目にて裾掛をなし袷羽織の通り
 衿に躰をかくべし

第二 裁ち方積り方

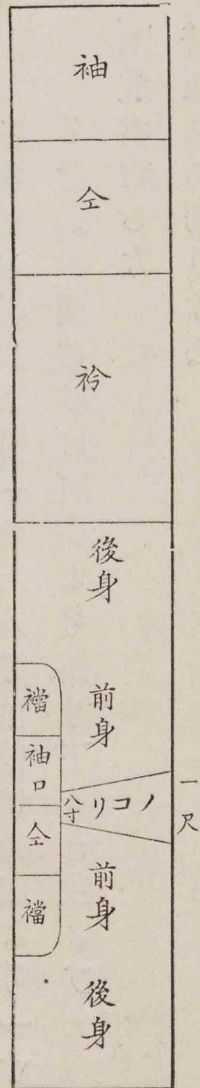
一、角襜裁ち方 用布 二丈五尺二寸

普通裁ち切り寸法

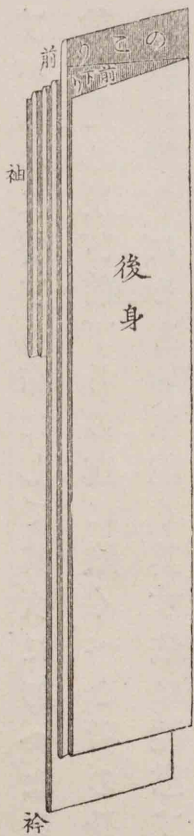
袖丈	一尺五寸	身丈	二尺九寸
衿丈	六尺六寸	前下り	一寸
袖口丈	一尺八寸	衿肩明	二寸七分 <small>内四分廻し</small>

裁ち方の圖

第一圖



第二圖



積り方

袖丈及び身の丈を知りて總丈を求むる法

$$\text{袖丈} \times 4 + \text{身丈} \times 6 + 10 + 8 = \text{總丈}$$

總丈及び袖丈を知りて身の丈を求むる法

$$[\text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + 18)] \div 6 = \text{身丈}$$

總丈及び身の丈を知りて袖丈を求むる法

$$\{ \text{總丈} - (\text{身丈} \times 6 + 18) \} \div 4 = \text{袖丈}$$

$$\text{後丈} \times 2 + 8 = \text{衿丈}$$

注意 第一式總丈を求むるに於て袖丈の四倍と身丈の六倍とに一尺を加へたるは前下り及び角襜となすが爲めに要する布にして其次に加へたる八寸は衿肩廻し及び前下りの處に附くべき衿の分なり又紋の附きたるものは能く其寸法に注意すべし即ち脊紋は衿肩より一寸七八分袖紋は袖山より一寸八分前身頃の紋は肩山より四寸下るを法とす

二、裁違襜裁ち方

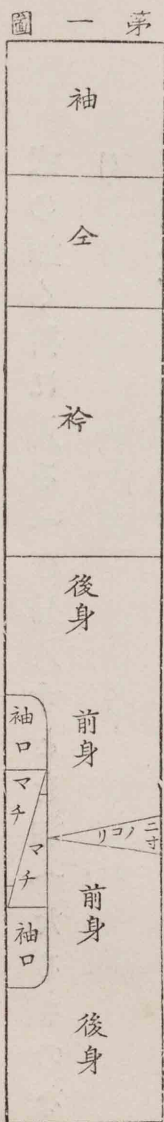
普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺四寸五分 身丈 二尺八寸

衿丈 六尺四寸 前下り 一寸

袖口丈 一尺八寸 衿肩明 二寸七分内四分廻し

裁ち方の圖



積り方



袖丈×4+身丈×6+10=總丈

{總丈-(袖丈×4+10)}÷6=身丈

{總丈-(身丈×6+10)}÷4=袖丈

注意 第一式總丈を求むるに於て袖丈の四倍と身丈の六倍とに一尺を加へたるは前下りの分二寸と前式の如く衿に入るべき分八寸とを加へたるものなり

第三 標附け方

一、袖 表を中にして二つに折り(外袖の方を一分長くす)山丈、口明幅の標を附け次に袖口布を取り表を中にして二つに折り山、口明、縫代の標をつくべし
但し袖口布の口明は表より丈五厘をつむべし

二、身頃 表を中にして二枚揃へ下に置き袷羽織の如く幅の兩側を綴ち山標をつけ後丈を極め縫ひ込みを上に戻し衿肩より二つに折り後身を上に出して袖附け、後幅、肩幅をはかり次に後身を左に開き前身頃に幅、紐附、丈(後丈より五厘長くす)及び前下りの標を附け次に裾を三つ折りにして部分縫の通り裾の折り込みに更に前幅の標を附くべし

三、襠 表を中にして二枚揃へ真中處々に待針をなし丈幅を度り上下を三つ折りになし袷羽織の通り後前の曲りの標をつくべし

四、衿 衿の折り方心の入れかた等總て袷羽織に同じ

第四 縫ひ方順序

一袖 袖口布の下の縫代を折りて隠躰をかけ標の通り表に合せ口明を縫ひ五厘の着せにて表の方に折りを附け口明に四つ留をなし此糸にて袖下まで縫ひ廻はし袖口布のある所までは返し縫ひにす袂の丸を拵へ躰をかけ次に袖口布の奥及袖下の縫代を折りて七八分の針目にて表に縮け附くべし

但し袖下は割糸わいを用ふ

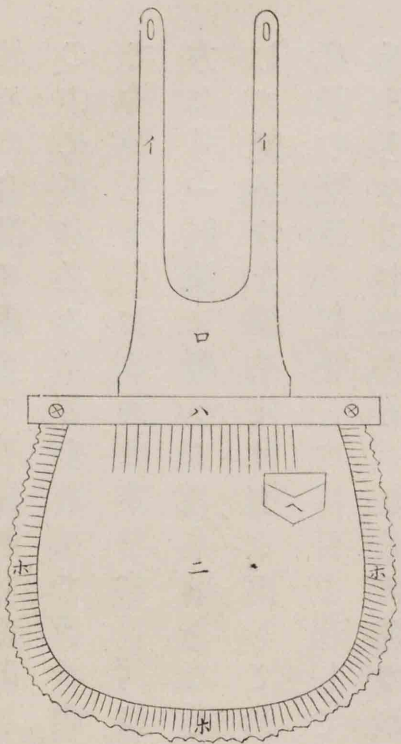
二身頃 脊を縫ひ耳の色異なるもの或はつりて缺を入れたるもの等は袋縫にすべし襠の上方を三つ折り縮けにして標の通り後身頃に合せて之れを縫ひ紐附をつけ次に前身頃の裾を三つ折にして躰にてとめ身頃の表を見て脊線と衿の裏即ち一枚の方の真中とを合せ待針をな

し袷羽織と同じく衿の方をや、弛めになして左右とも始めの合標の處まで衿肩廻しを縫ひ此處より前身を衿の中に折り込み衿の表裏にて前身頃を袂み合標を合せて待針をなし左の衿は表を右の衿は裏を見て何れも上方より一針抜に縫ひ下り糸留をなし衿先を縫ひ裏に返して縫込みを綴ち附け引き返して衿肩明を縮け次に前身頃の裾掛の躰をとり折目を起して前襠をつけ裾掛の折り込みの中に入るべき分は縫はぬ方宜し後前共に襠の縫ひ込みを身頃の縫ひ込みにとちつけ襠の裁ち目の方は折りてとちつく七八分の針目にて裾かけをなし次に身頃の縫ひ込みを折りて袖をつけ地質厚きものは折らずして縫ひ別に割躰をかく衿及び襠袖附に躰をかけ

仕上をなすべし

第二章 改良前掛 (西洋前掛)

第一 各部の名稱



イ 紐
ロ 胸部
ハ 帯
ニ 帯下布
ホ ぎやだ
ヘ かくし

第二部分縫

みしん縫 まつり縫 千鳥縫 穴かゞり
しやつ、ずぼん下又は改良前掛など近來外國より入りたる衣類は裁ち方縫ひ方共に從來用ひ來りし我國の衣類と其方法異れりされば是れ等のものを學ぶには實物を仕立つるに先ち豫め其縫ひ方に通せざるべからざること我國の各種の縫ひ方縮け方等に於けるが如し左に其方法を述べし

但し用布は長さ一尺幅一尺の天竺金巾、糸は三十番六十番の白かたんを用意すべし

一、みしん縫

みしん縫には一寸程つゝを縫ひて返針をなすものと一針毎に返針をなすものとの二様あり前なるはしやつ

脇縫前掛のぎやた布を附くる所等の如き縫ひ目の表に
 顯れぬ所に用ひ後なるはしやつの衿袖口又は前掛の紐
 の廻りなど表よりみしんを掛くべき所に用ふる仕方な
 り之れを練習するには前に用意せし用布の右の端より
 (たちめの方)幅三寸の處を縦に眞直に折り一分五厘の縫
 代にて一方を掛針に張り針目五厘つゝにて一寸おきに
 返針をなして縫ひ行くべし(糸は三十番を用ふ)次に此處
 より又二寸程をはなして眞直に折りを附け一分五厘の
 縫代にて合せ縫ひをなし手前の方に折りを附け表を見
 て折り目より一分程下の處へ五厘以下の針目にて一針
 毎に返針をなして縫ひ行くべし(糸は六十番を用ふ)
 但しみしん器械を用ふるときは此縫ひ方を要せず

二、まつり縫

用布の下端二寸程の間を圖の如く丸く裁ち落し縫代一
 分位にて程能く縫ひ縮め次に上方より二分五厘に折り
 を附け更に之を二つに折り五厘程の針目にて最初裏の
 折り目の處より出し表は極めて小針に抄ひて亦裏の折
 り目に出し順次此の如くしてまつり行くべし此は前掛
 又はしやつの裾縫脇縫の伏せかた等に用ふる仕方なり
 (糸は六十番を用ふ)

三、千鳥縫(ちどりかけ又はあやかどり)

前にみしん縫をなしたる處より幅二寸程をはなして縦
 に裁ち切り二分の縫代にて細かに合せ縫をなし縫ひ目
 を開き裏を見て左の方より圖の如くイロの順にて(針目

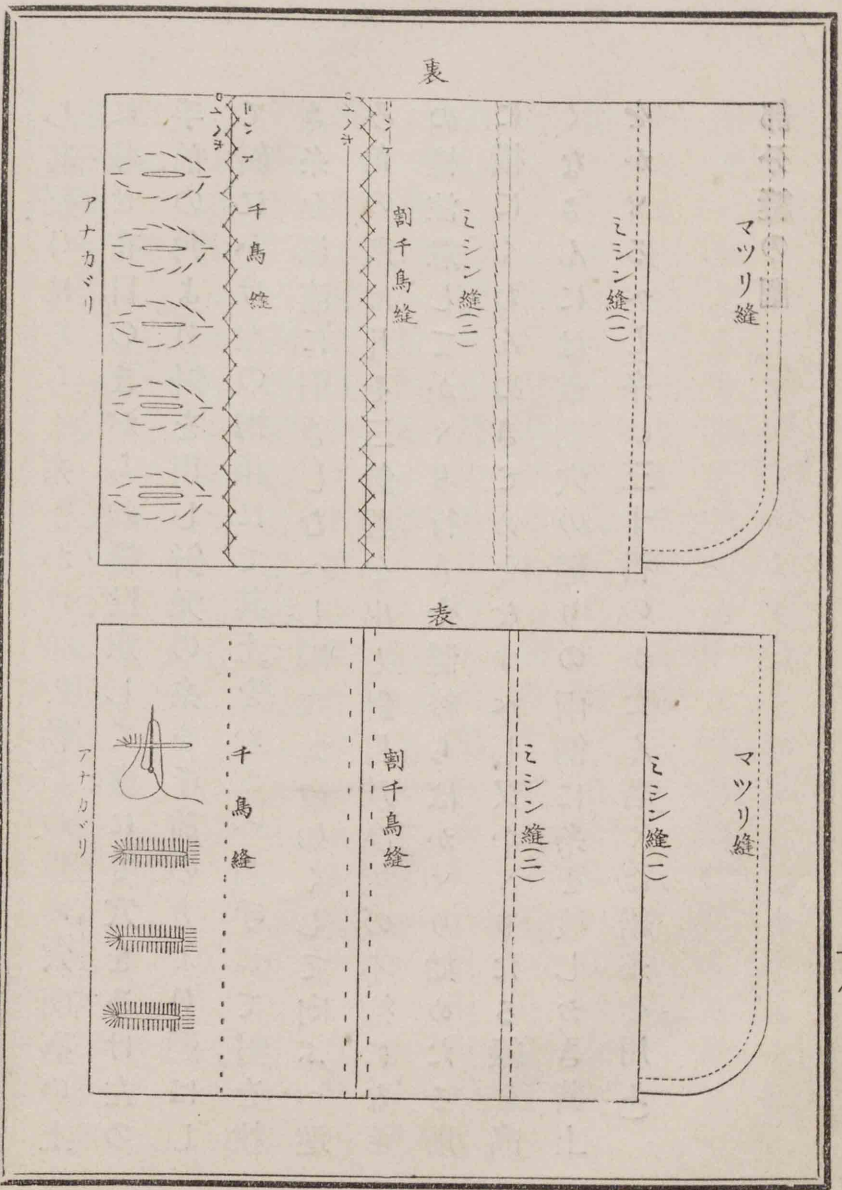
は一分或は一分五厘斜に糸をかけ表には極めて小針に出すべし之れを割千鳥縫といふ少き縫代のものをを割りたる時に施す仕方なり次に用布の左の端より幅一寸を縦に折り折り目を手前にして耳の處に割千鳥縫の時の如く左の方より縫ひ始め一枚の方は表に細かき針目を出し一分斜に手前の方に移り此處は表に針目を出さずして裏の一枚のみを抄ひ亦斜に向ふへ移ること割千鳥縫の時の如くすべし此縫ひ方は多くはふらねるのしやつ単衣等の裾掛袖口又は縫ひ目の伏せかた等に用ふるなり(糸は六十番を用ふ)

四、穴かゞり

部分縫用布の一寸に折りたる所を圖の如く六つに等分

し其廻りにあらく糸をかけ(布の動かぬ爲め)穴明臺の上に載せ布目のまがらぬ様注意して鑿のにて穴をあけ左の手前の角より針を出し針元の糸を手前の方より廻はして針にかけ左の拇指にて其上をおさへ右手にて針を抜き糸を眞直に引きしむべし順次此の如くして向ふへ進み角の所は凡そ三針程を出し針目及ひ玉の不揃にならぬ様注意してかゞり行き全體終らばかゞり始めたる所に横にくわんぬきごめをなすべし又かゞりたる縁を高くなさんには最初穴の廻りの兩側に糸を渡しおき其上をかゞるべし(糸は三十番のかたん若くは絹糸を用ふ)

部分縫の圖



第三 裁ち方

用布 大幅(二尺長さ二尺五寸

但し四五歳の小供用

普通裁ち切り寸法

胸弁に紐布 幅七寸長さ一尺四寸五分二枚

但し胸の高さ四寸紐幅一寸二分左右のくりは下

方一寸を除き其上より凡そ幅六分を自然に裁

ち落す

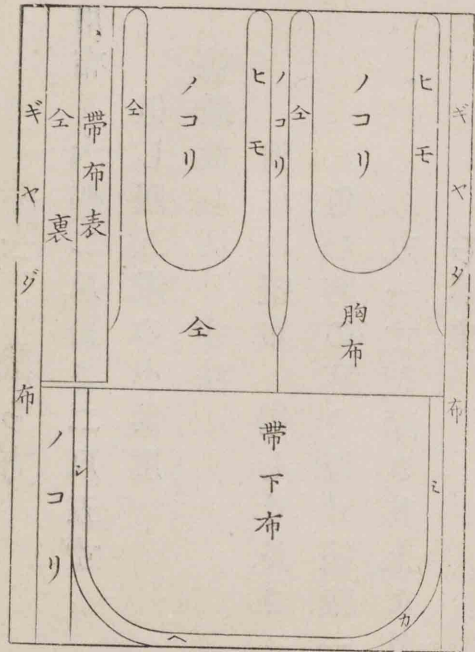
帯布 幅一寸五分長さ一尺四寸二枚

帯下布 幅一尺六寸長さ一尺五分

但し裾のくりは角より左右へ三寸の間に於て一

寸二分程を丸く裁落す

みかへし布 幅五分
 但し帯下布の三方より裁落す
 ぎやた布 幅一寸五分長さ二尺五寸二枚
 裁ち方の圖



かくしを附くるときは
 残りの布にて丈三寸幅
 三寸五分にして
 如く裁ち左方の帯下凡
 を一寸五分程下りたる
 所に附くべし又其廻り
 にぎやた若くは襷を附
 くるも可なり

ぎやたの長さは何品にても其附くべき廻りの一倍半
 襷は三倍を定法とす

第四 縫ひ方順序 手縫の仕方

表裏の胸布を取り其廻りを(下部を除く)一分五厘に折り襷
 をかけみしん縫(二)をなし(紐の上の丸き處は裏より縫ひ廻
 りを少しく縮めて引返す)次にぎやた布をはぎ帯下布の廻
 りに較べて程能く縫ひちぎめ帯下布と見返し布との間に
 狭みて處々に待針をなしあらく縫ひ廻はし次に見返しの
 端を折りて帯下布にまつり附け表を出してみしん縫(二)を
 なしそれより其上部の幅を帯の丈に合せ真中より二つに
 折り其三分二の間に於てぎやた若くはひだを取り帯の裏
 表にて狭みあらく縫ひ次に胸布を取りて帯布の表に合せ

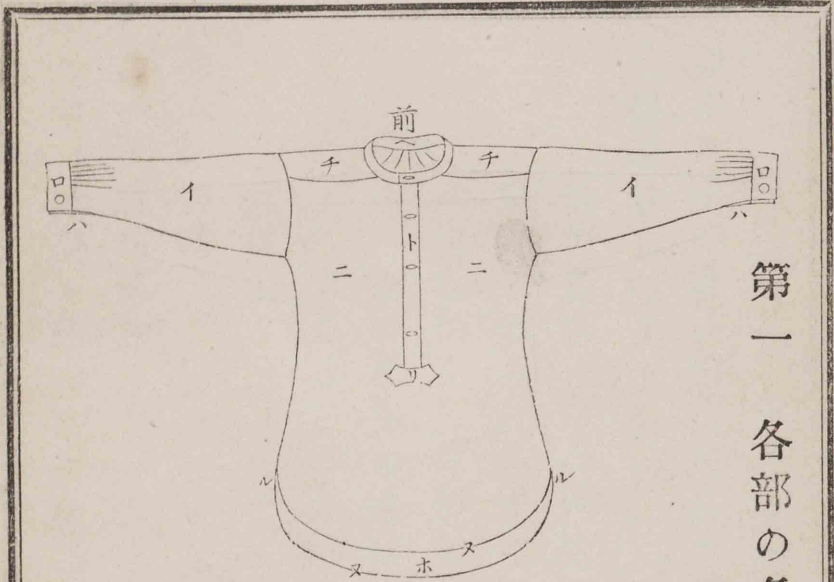
て縫ひ折りは帯の方に返し裏の縫代を折りて之れに合せ
 躰をかけ帯の廻りにみしん縫二をなし左右の紐先きへ穴
 をあけ穴かゞりをなし次に帯の兩端に釦びんをつく
 又かくしを附くるものはぎやたをつけざる前にかくしを
 拵へ帯下布につけ置くべし

注意 此前掛は年齢一歳を増すごとに丈幅共に一寸
 を加ふべし

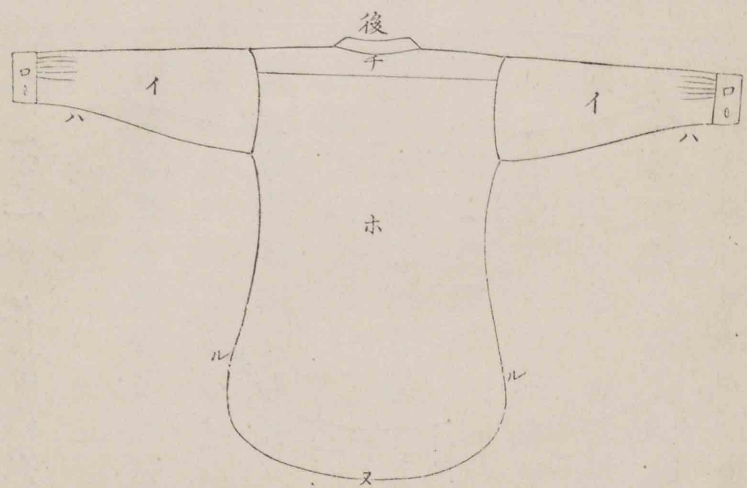
此他改良前掛には種々なる形ありて従ひて裁縫の
 方法も異れともこゝには簡單なるものを掲けたり
 餘は續編を参照すべし

第三章 しやつ

第一 各部の名稱



- | | | | | | | | | | | |
|----|---|------|----|------|---|-----|-----|-----|-----|---|
| ル | ヌ | リ | チ | ト | へ | ホ | ニ | ハ | ロ | イ |
| 馬乘 | 裾 | 留めきれ | 肩當 | みかへし | 衿 | 後身頃 | 前身頃 | 袖下明 | 袖口先 | 袖 |



ル ヌ ホ ハ ロ イ
 馬 裾 後 袖 袖
 乘 裾 身 下 口
 頂 明 先

第二 大人物裁ち方積り方

用布 両面物大幅(二尺)長さ五尺五寸

普通裁ち切り寸法

袖の長さ 一尺三寸

袖幅 奥一尺一寸三分 前八寸七分

但し口先きの所は二寸の間に於て五分斜に裁ち
 切り又奥の處は袖附の方下より二寸程の間に
 於て袖下の方へ八分斜に裁ち切る

袖口丈 六寸五分

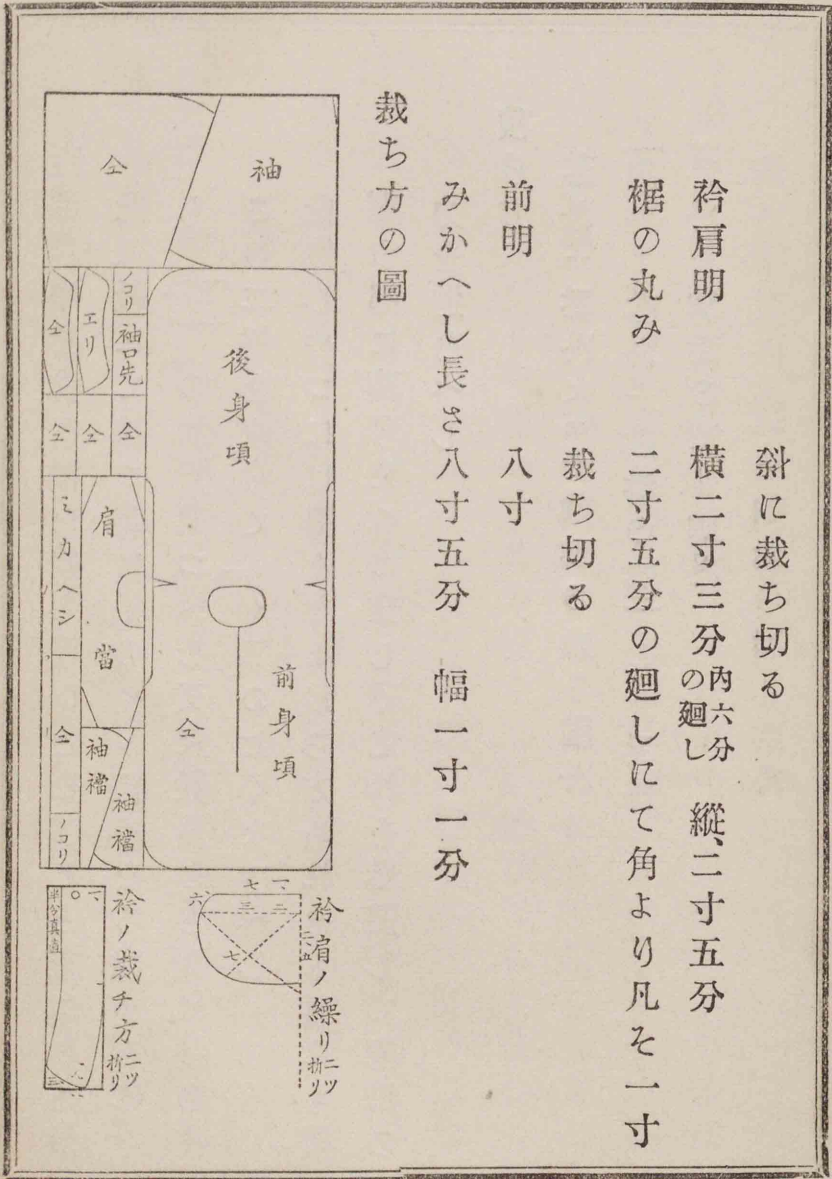
同幅 一寸五分



袖襠長さ 一尺一寸

同幅 奥二寸七分 前三分

身頃後丈 二尺二寸
 同 前丈 二尺
 身幅 一尺五寸五分
 肩當の長さ 一尺二寸五分
 同幅 三寸兩端二寸
 但し端より三寸の間に於て兩方幅五分裁ち切る
 衿丈 一尺二寸
 同幅 一寸五分
 袖附の繰り 肩山より長さ六寸五分幅一寸
 胴の繰り 袖附の繰りの下より六寸の間に於て幅四分裁ち切る
 肩山の繰り 袖附の方より幅三寸の間に於て三分

裁ち方の圖



注意 片面物は袖を裁ち違ひとなすこと能はざる故
 此尺數にて裁つ時は袖のやゝ細くなる嫌ひあれど
 も  の如く裁つべし又尺數長きときは袖の長
 さの二倍を取りて  の如くなすべし
 此他しやつには種々なる裁ち方あれども何れも續
 編の部に譲りたれば宜しく之れを参照して應用の
 力を進むべし

積り方

$$\begin{aligned} & \text{袖丈} + \text{前丈} \times 2 + \text{後前の差} = \text{總丈} \\ & \{ \text{總丈} - (\text{袖丈} + \text{後前の差}) \} \div 2 = \text{前丈} \\ & \text{前丈} + \text{後前の差} = \text{後丈} \\ & \text{總丈} - (\text{前丈} \times 2 + \text{後前の差}) = \text{袖丈} \end{aligned}$$

第三 縫ひ方順序

一袖 口先布の表に心を綴ち附け裏の丈をやゝ張り目に
 して三方を縫ひ次に袖布の内側に袖襠をはぎ襠の方幅
 一分五厘いだし袖布の方に返し襠を折りて縫ひ目をま
 つり次に口下の明一寸八分程を三つ折りにしてまつり
 口明きを口先布の長さにて合せて縫ひ縮め(真中より二つ
 に折りて山より三分二の間に於て)口先布の表を袖の口
 先きに縫ひ附け次に裏を折りて躡をかけ口先の廻りに
 みしん縫(二)をなす

二身頃 前後の裾を袖附の下より脇縫一尺を除きたる殘
 り三つ折りにしてまつり最初丸みの處を程能く縫ひ縮
 め置くそれより前明の處上前はみかへしを表に下前は

裏に縫ひ付け廻りにみしん縫(二)をなし下の處に止めぎれをつけ其廻りにも亦みしん縫をなし次に衿肩の處脊の眞中より左右一寸の間に於て五分つゝにそれより一寸五分程下りて左右二寸の間に於て一寸五分つゝに縫ひちゝあ次に肩山の裁ちたる處を表より小針に縫ひ縫ひ目をひらきて割千鳥縫をなし肩當の後前を折りて身頃に合せ表より躰をかけみしん縫(二)をなし次に衿の表に心を綴ち付け表裏にて前身頃をはさみあし下したの處は衿をやゝ張り目にして縫ひ付け左右の衿先を縫ひ裏の方に折り上を一分五厘に折りて躰をかけ廻りにみしん縫をなす

次に袖の方を一分五厘出して袖山と肩山とを合せ待針

をなし袖の方を見てみしん縫(一)をなし付け始め及び終り一寸五分程の間は袖をやゝ弛めになす折り目は身頃の方に返し端を折りて縫ひ目をまつり後前の脇を合せ袖附の處に待針をなし袖口下の明きより脇明までみしん縫(一)をなし折り目は外袖及び後身の方に返し端を折りて縫ひ目をまつり次に袖口明脇明等にくわんぬきどめをなしそれより上前(四つ)并に外袖(一つ)に釦穴をあけ之をかゞり下前及び内袖に釦をつくべし

但しふらなるなどの如き地厚の品は袖口及び衿に心こころを入れず又袖襠のはぎ袖下脇縫等は最初五厘程出してみしん縫(一)をなし裏はまつらずして千鳥縫をなすべし又衿は表裏合せて上を拵へ置き表を身頃

につけ裏を千鳥縫にし廻りにみしん縫をなすべし

第四 小供物裁ち方積り方

用布 片面物大幅(二尺)長さ三尺五寸

但し十歳位の小供用

普通裁ち切り寸法

袖の長さ 八寸五分

同幅 奥八寸 前七寸 袖下二寸の間に於て斜に四分裁ち切る

袖口丈 五寸五分

同幅 三寸八分

袖襠の長さ 七寸

同幅 奥二寸五分 前いつぱい

但し袖下の繰りは袖附の方より壹寸五分の間に

於て袖下の方六分裁ち切る

身頃後丈 一尺七寸

同前丈 一尺五寸五分

同幅 一尺二寸

袖附の繰り 肩山より五寸幅五分

肩當の長さ 一尺五分

同幅 二寸五分

衿丈 九寸

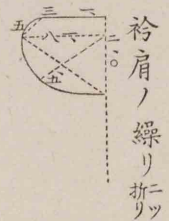
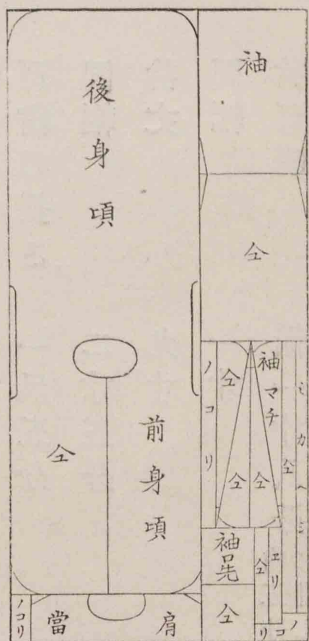
同幅 一寸

衿肩明 横一寸八分 内五分の廻し 縦二寸

裾の丸み 二寸の廻しにて角より凡そ七分程裁

ち切る

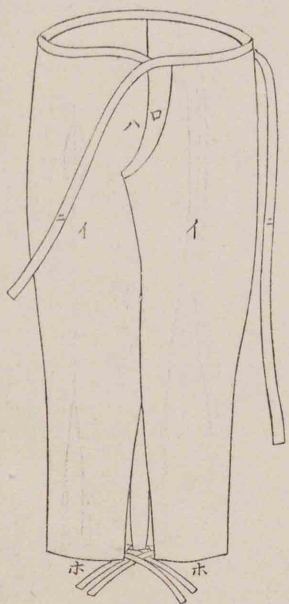
見返し長さ 一尺四寸 幅一寸一分
裁ち方の圖



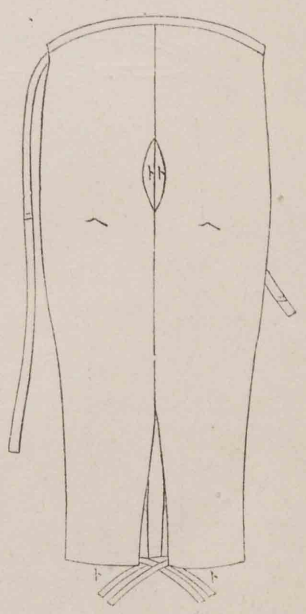
注意 肩當はなるべく縦布を用ふるを宜しとすれど
用布の都合によりては左圖の如く横布を用ふるこ
とあり但し無地ならば格別見苦しからず又縞物な
るときは裏の方に附け置くべし
袖襠は片面物故四つに裁ちたれとも兩面ならば

第四章 ずぼん下
第一 各部の名稱

□ の如く二つにきりて袖の内外にはぎ袖下を縫
はすして輪のまゝになし置くべし



イ 前身
ロ 見返し
ハ 前明
ホ 裾口



ト 後身
尻當

第二 大人物裁ち方積り方

用布 大幅(二尺)長さ五尺二寸

普通裁ち切り寸法

丈 二尺八寸 脇にてはかる

後幅 六寸五分

前幅 六寸五分内 脇の上方より四寸の間に於て幅五分裁ち切る

股幅 後九寸 前八寸五分

裾口幅 前三寸八分 後四寸三分

膝上 前八寸 後九寸内 脇の方へ斜に一寸裁ち切る

膝下 二尺

膝幅 前五寸八分 後六寸三分

但し膝は膝下より裾口までの長さの真中より一寸程上りたる處

腓腸幅 膝幅に同じ

但し腓腸は膝より裾口に至る長さの三分の一よりたる處

見返しの幅 上二寸 下一寸四分

尻當 凡三寸五分 兩邊の長さ及び真中の幅とも

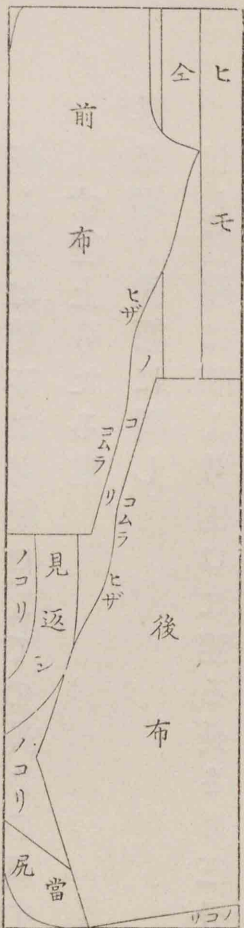
紐丈

五尺七寸

幅一寸五分

裁ち方の圖

幅二つ折り



裁ち方の順序は最初幅を二つに折り左の方より前丈二尺八寸を取りそれより寸法通り膝上前幅股幅裾幅を極め圖の如く斜に線をひき次に膝こむら等の標を附くべし斯くして前布を裁ち終らば脇を合せて之れを後布の上に置き股より裾口に至るまで全體に幅五分を出し前布の形に準

して裁つべし

但し膝上の繰り込みは前より淺くすべし又見返しは前の膝上を其上に尻當は後布の尻の處を其上に置き何れも身頃に倣ひて裁ち切るべし

積り方

丈 $\times 2$ + 後上り $-$ 裁_薄 = 總丈

(裁丈 $-$ 後上り $+ 裁薄$) $\div 2 =$ 丈

第三 縫ひ方順序

前布の膝上を下より一寸五分の間表を見てみしん縫(二)をなし縫ひ目を開きて割千鳥縫をなし次に見返しぎれの裏を見て同じ様に縫ひ膝上の表に合せ廻りにみしん縫(二)をなし次に後身の表に尻當を附け廻りにみしん縫(二)をなし

後の脰上を合せ裏を見てみしん縫(二)をなし其縫代は左右にひらきてまつり縫若くは割千鳥縫をなし次に左右の脇を合せ(後を一分五厘出す)みしん縫(一)をなし(左の脇は上より五分程下りたる所に紐を通すべき穴一寸程明け置くべし)折りは前の方に返し縫代の端を折りて縫ひ目をまつり次に内脰を合せ(前一分五厘出す)裾口より四寸を除きて其他をみしん縫(一)にし後身の方に折りを附け端を折りてまつり次に縫ひ残したる四寸の處及び裾口を(幅四分)三つ折りにしてまつり夫れより胴廻り二尺一寸を取り残りの幅を度りて其分たけ脇の縫ひ目より後の方へ凡二寸程よりたる處に襷を取り紐をはぎて上前を短く下前を長くつけ裏にてくけ前明及び裾明にくわんぬきどめをなし次に左

前の脰上の真中に釦穴をあけ之をかゞり下前に釦をつけ夫れより裾口に細き紐若くはてつぶを一尺一寸程通し置くべし又小供物は後前とも脰上を縫はずして後の方を幅一寸程重ね合せて紐を附くることありかゝる時には胴の廻りに襷を取らぬをよしとす

注意 すぼん下もしやつと同じく其裁ち方種々あれども此には最普通なるものをかゝげ他は續編の部にゆづれり

第四 小供物裁ち方積り方

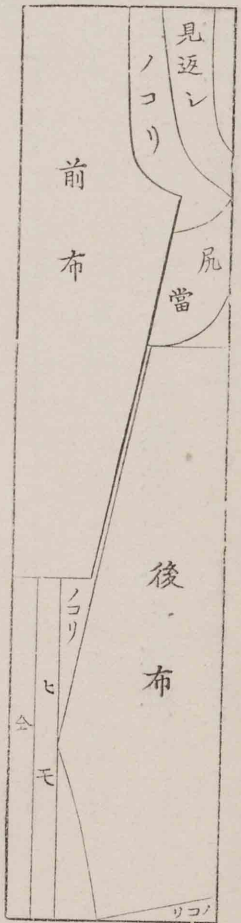
用布 大幅(二尺)長さ三尺五寸

但し十歳程の小供用

普通裁ち切り寸法

丈 二尺二寸
 後幅 五寸五分
 前幅 五寸
 股幅 後七寸 前六寸五分
 裾口幅 後三寸八分 前三寸五分
 膝上 前七寸 後八寸内脇の方へ斜に
 見返し幅上二寸 下一寸三分
 尻當 凡三寸 兩邊の長さ及び
真中の幅とも
 紐丈 五尺 幅一寸五分

裁ち方の圖
 幅二つ折り



積り方

丈 $\times 2 +$ 後上り $-$ 裁違 $=$ 總丈
 (總丈 $-$ 後上り $+ 裁違) \div 2 =$ 丈

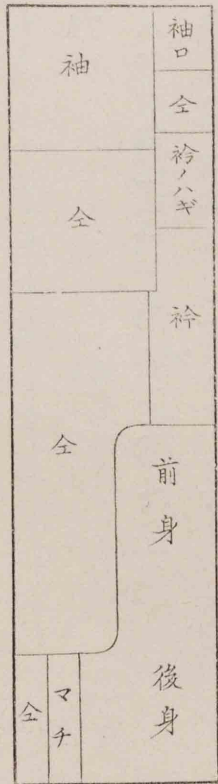
第五章 小裁、中裁折返し羽織

第一 裁ち方積り方

一、並幅長さ一丈四尺を以て小裁羽織(三つ身)の裁ち方
 普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺四寸五分 同幅 七寸二分
 後丈 二尺五寸 前丈 三尺二寸
 後幅 六寸 前幅 四寸五分
 衿肩明 一寸六分内三分の廻し 衿幅 三寸
 衿丈 四尺三寸 袖口丈 一尺一寸

裁ち方の圖



積り方

袖丈 × 4 + 身丈 × 3 + 後前の差 = 總丈

{總丈 - (袖丈 × 4 + 後前の差)} ÷ 3 = 後丈

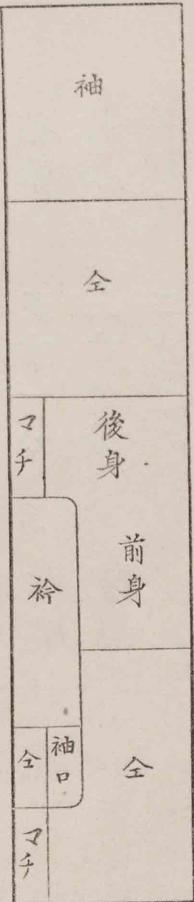
後丈 + 後前の差 = 前丈

{總丈 - (後丈 × 3 + 後前の差)} ÷ 4 = 袖丈

二、常幅長と一丈八尺を以て中裁羽織前衿裁の裁ち方
普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸五分
 後丈 二尺五寸五分
 前丈 三尺三寸五分
 後幅 七寸一分
 前幅 五寸一分
 衿幅 三寸九分
 衿肩明 二寸内三分の廻し
 袖口丈 一尺二寸

裁ち方の圖



積り方

$$(\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 4 + \text{後前の差} \times 2 = \text{總丈}$$

$$\{\text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{後前の差} \times 2)\} \div 4 = \text{後丈}$$

$$\text{後丈} + \text{後前の差} = \text{前丈}$$

$$\{\text{總丈} - (\text{後丈} \times 4 + \text{後前の差} \times 2)\} \div 4 = \text{袖丈}$$

三、常幅長と一丈四尺八寸を以て中裁筒袖羽織前衿裁の裁ち方

普通裁ち切り寸法

袖丈 七寸五分

他は總て前題に同じ

裁ち方の圖積り方算式亦前題に同じ

注意 幅九寸以上あるときは小裁中裁とも今少しく

衿幅襠幅等をひろくすべし

第二 普通仕立上寸法

一、小裁羽織

袖丈 一尺四寸 同幅 六寸七分

袖口明 四寸一分 同附 四寸二分

身丈 一尺八寸 後幅 一ツぱい

前幅 一ツぱい 前下り 六分

身の八つ口二寸 紐附 五寸五分肩より

二、中裁羽織
 襟幅 下いっぱい上三分衿幅 一寸二分
 袖丈 一尺五寸 同幅 七寸七分
 袖口明 四寸六分 同附 四寸六分
 身丈 二尺 後幅 六寸五分
 前幅 いっぱい 前下り 七分
 身の八つ口二寸 紐附 六寸肩よ
 襠幅 下いっぱい上四分衿幅 一寸四分
 三、中裁筒袖羽織
 袖丈 七寸二分 同幅 七寸七分
 袖口明 三寸七分 同附 五寸一分
 他は總て前題に同じ

第三 標付け方 中裁筒袖衿

一、袖 裏袖の上に袖口布を載せ縫代の標をつけ次に表裏の袖に寸法通り山丈幅、口明附、袖下の標を附べくし
 二、身頃 上巻第十六章第四本裁綿入羽織に同じ

第四 縫ひ方順序

一、袖 裏袖に袖口をかけ表裏の袖下を別々に縫ひ内袖の方に返し縫ひ込みを開きて割襷をかけ袖口明を合せ表裏の袖下を綴ち口明に襷をかく
 二、身頃 縫ひ方の順序は上巻第十七章第五本裁衿羽織に同じ

但し衿は四つ縫ひにせずして身頃の表にて拵け身の八つ口は襠を附けたる時に縫ひ置き袖の八つ口は

袖を附けたる後に拵け上ぐべし

第六章 本裁、小裁、中裁、被布

第一 裁ち方積り方

一、並幅長さ二丈八尺(一反)を以て本裁女物被布の裁ち方
普通裁ち切り寸法

袖丈	一尺六寸	後丈	三尺八寸
前丈	四尺一寸	小衿丈	一尺三寸
豎衿丈	二尺二寸五分	衿肩明	二寸八分 <small>内四廻</small>
袖口丈	一尺六寸		

圖の方ち裁

袖	全	衿 <small>小</small>	豎衿	全	後身	前身	襦 <small>袖口</small>	全	襦
---	---	--------------------	----	---	----	----	---------------------	---	---

積り方

差の前後 $\times 4 + 後丈 \times 4 + 後前の差 \times 2 + 豎衿丈 \times 2 + 小衿丈 \times 4 + 袖丈 \times 4$

$\times 2 = 總丈$

{ 總丈 - (袖丈 $\times 4 + 小衿丈 + 豎衿丈 \times 2 + 後前の差 \times 2$) } $\div 4 = 後丈$

後丈 + 後前の差 = 前丈

{ 總丈 - (後丈 $\times 4 + 小衿丈 + 豎衿丈 \times 2 + 後前の差 \times 2$) } $\div 4 = 袖丈$

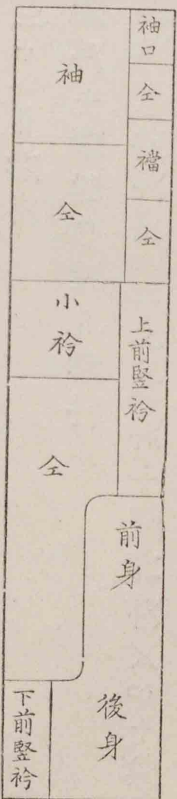
二、常幅長さ一丈四尺を以て小裁被布の裁ち方

普通裁ち切り寸法

袖丈	一尺四寸五分	同幅	七寸二分
後丈	二尺四寸二分	前丈	二尺五寸六分

後幅 六寸
 前幅 四寸五分
 衿肩明 一寸六分内三分の廻し
 小衿丈 八寸
 小衿幅 六寸
 衿丈 上前三尺二寸二分
 袖口丈 一尺一寸
 下前二尺四寸二分

裁ち方の圖



但し下前衿丈の短き分へは胴裏と同じ布をばぐものとする

積り方

袖丈 × 4 + 小衿丈 + 後丈 × 3 + 後前の差 = 總丈

{總丈 - (袖丈 × 4 + 小衿丈 + 後前の差)} ÷ 3 = 後丈
 後丈 + 後前の差 = 前丈

{總丈 - (後丈 × 3 + 小衿丈 + 後前の差)} ÷ 4 = 袖丈

三常幅長と一丈八尺を以て中裁被布の裁ち方

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸五分 後丈 二尺六寸二分五厘
 前丈 二尺八寸二分五厘
 後幅 七寸 前幅 五寸
 衿肩明 二寸内五分の廻し 小衿丈 九寸
 衿丈 二尺八寸二分五厘
 袖口丈 一尺二寸

裁ち方の圖



積り方

袖丈 $\times 4 +$ 小衿丈 $+ 後丈 \times 4 + 後前の差 \times 2 = 總丈$
 { 總丈 - (袖丈 $\times 4 +$ 小衿丈 $+ 後前の差 \times 2) \div 4 = 後丈$
 後丈 $+ 後前の差 = 前丈$
 { 總丈 - (後丈 $\times 4 +$ 小衿丈 $+ 後前の差 \times 2) \div 4 = 袖丈$

第二 普通仕立上寸法

一本裁被布(女物)

袖丈 一尺五寸七分 同幅 八寸七分
 袖口明 六寸六分 同附 六寸七分

身丈 二尺五寸 後幅 七寸五分
 前幅 五寸 肩幅 七寸八分
 前下り 一寸 身八つ口二寸五分
 襦幅 上四分七分 豎衿下り六寸
 下四分 小衿丈 いつぱい
 上四分 上三寸五分
 小衿幅 四寸

二、小裁被布

袖丈 一尺四寸 同幅 六寸七分
 袖口明 四寸一分 同附 四寸一分
 身丈 一尺八寸 後幅 いつぱい
 身の八つ口 二寸 前下り 六分
 襦幅 上四分 豎衿下り 三寸五分
 下四分

豎衿幅 上は二つばい 下は下より三分をつむ
 小衿丈 いつばい 小衿幅 いつばい

三、中裁被布

袖丈 一尺五寸 同幅 七寸七分
 袖口明 四寸六分 同附 四寸六分
 身丈 二尺 後幅 六寸五分
 身八つ口 二寸 前下り 七分
 襠幅 下は二つばい 上は四分 豎衿下り 四寸五分
 豎衿幅 下は二つばい 上は下より三分をつむ
 小衿丈 いつばい 小衿幅 三寸五分

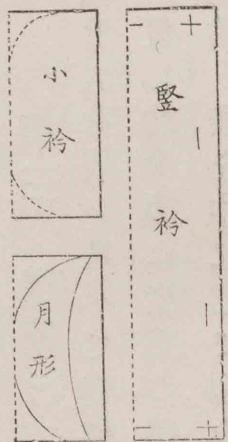
注意 被布寸法につき大凡の割合を擧ぐれば豎衿下りは大人物は着物の衿下りと同しく小供物は五分

多く幅は大凡衿幅に同しく小衿の丈は豎衿下りの二倍幅は豎衿の幅とほぼ同様なり其他は大方羽織に同しく只前幅襠幅等は寸法にも示せる如く羽織より少しく廣くなすのみなり

第三 標附け方

- 一、袖及び身頃 凡べて羽織に同し
- 但し前身頃は紐附の標を除き豎衿下りの標をつく
- 二、豎衿 表を中にして幅を二つに折り幅狭くして丈長きものは丈を折る二枚重ね折り目を手前に裾を右にして下に置き丈及び上下の幅標を附け次に定木を置きて其中間にも二ヶ處程標を附く
- 三、小衿 表を中にして幅を二つに折り更に真中より丈を

折り丈及び幅の標を附け次に角の處に丸みの標をつくる丸みの仕方は身頃につくる方の幅標より凡幅七分程を除き其余の幅を度り丈の方へも同様の寸法に度り其間に於て程能く丸みの標を附く



又月形とて圖の如く附の方へ五分程繰り入るゝことあり中年以上の人には此形を宜しとす

第四 縫ひ方順序

綿入

一、袖 綿入羽織に同し

二、身頃 標の通り後前の胴裏をはぎ脊を縫ひ襟を掛け次に

に前下りを縫ひ又襟を掛け左右の後襟及び前襟をつけ襟を掛け表の方に豎衿をつけ(地質軟かなるものは心を入る)折りは豎衿の方に返し上下を縫ひ縫ひ込みは裏の方に返し襟を掛け次に左右とも表裏の袖をつけ羽織の如く疊みて綿を入れる

綿を入れたらば裾口に假綴をなし次に袖口及び八つ口を縮け又左右とも豎衿下りを縮け衿附を綴ち裏にて縮けそれより小衿の表となるべき方の裏に心を綴ち附け(心は初め表の通り標を附け衿附の方を除き他は總體に一分ひきて廻りを裁ち切る)表は標の通り裏は標より丈幅とも一分ひきて合せ待針をなし之を縫ひ丸みの處は袂形の時の如く縫ひ縮め裏の方に折りをつけ引き返し

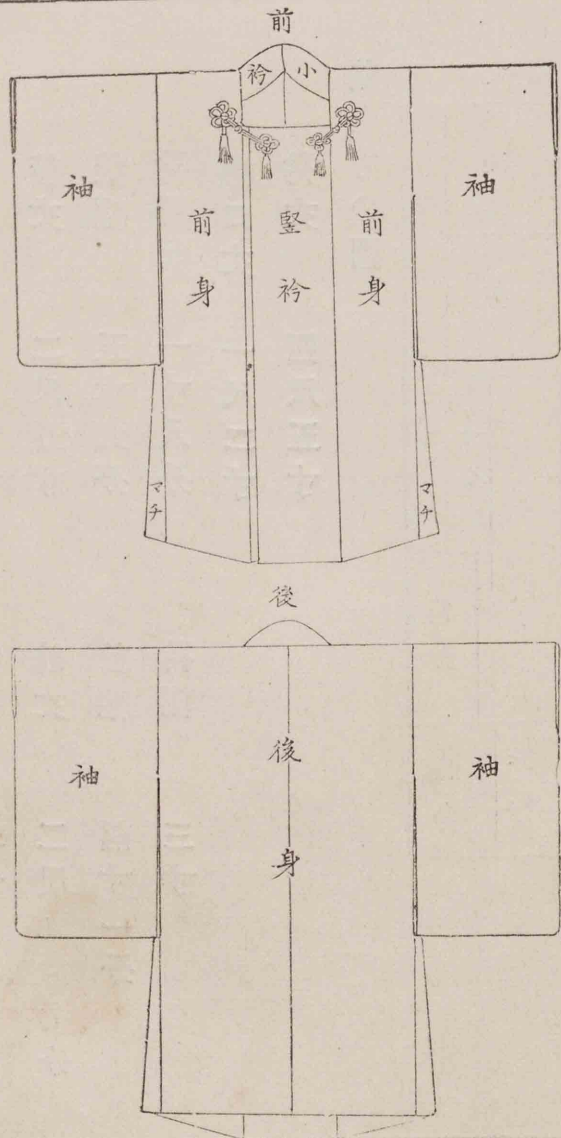
て隠躰をかけ小衿の表をやゝ弛るめにして身頃の裏の方
方に合せ一針抜きに心と共に縫ひ薄く綿を入れ表にて
細かに紵け後襟に縦綴をなし飾紐を附くべし

衿

一、袖 衿羽織に同し

二、身頃 大方衿羽織に同しく只その異なる所を擧れば後襟
を入れたる後堅衿下りを縫ひ次に堅衿の表裏にて前身
頃を狭み一針抜きに四つ縫ひになし衿下を縫ひ裏に返
して綴ち附け引返して衿上を細かに紵け夫より前襟及
び袖を附くべし小衿の縫ひ方及び附け方は綿入に同し

被布仕立上の圖



第七章

片面物及び中幅、大幅物にて
羽織被布の裁ち方

裁ち切り寸法
一、幅一尺長さ一丈四尺の片面物を以て小裁羽織の裁ち方

裁ち方の圖



袖丈	一尺五寸	同幅	七寸
後丈	二尺五寸	前丈	二尺九寸七分
後幅	五寸九分	前幅	四寸一分
衿肩明	一寸八分	衿幅	三寸
袖口丈	一尺二寸		
衿丈	四尺五寸		

積り方

第五章第一、二に同じ但し外に衿肩廻の分三分を加ふ
二、幅一尺長さ一丈三尺六寸の片面物を以て小裁被布の裁

ち方

裁ち切り寸法

袖丈	一尺五寸	同幅	七寸五分
後丈	二尺四寸四分	前丈	二尺五寸八分
後幅	五寸九分	前幅	四寸一分
衿肩明	一寸八分	袖口丈	一尺二寸
襷丈	一尺五寸		
小衿丈	八寸		

裁ち方の圖



積り方

袖丈 $\times 4 +$ 後丈 $\times 3 +$ 後前の差 $\times 2 =$ 總丈
 [總丈] (袖丈 $\times 4 +$ 後前の差 $\times 2$) $\div 3 =$ 後丈
 [總丈] (後丈 $\times 3 +$ 後前の差 $\times 2$) $\div 4 =$ 袖丈

三幅一尺長さ五尺五寸の布を以て袖無被布の裁ち方
 裁ち切り寸法

- 後丈 一尺五寸五分 前丈 一尺六寸五分
- 堅衿丈 一尺一寸五分 同幅 六寸五分
- 小衿丈 七寸 衿肩明 一寸一分

襠丈 一尺六寸

裁ち方の圖

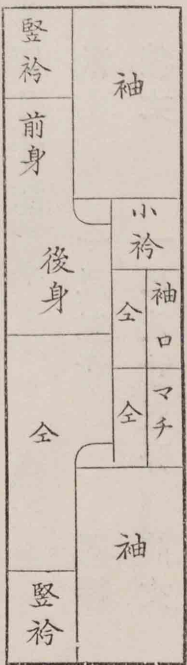


四幅一尺一寸五分長さ一丈七寸の布を以て小裁被布の裁ち方

裁ち切り寸法

- 袖丈 一尺五寸 同幅 七寸一分
- 後丈 一尺八寸五分 前丈 二尺
- 後幅 六寸 前幅 四寸四分
- 衿肩明 一寸六分 小衿丈 七寸五分

裁ち方の圖
豎衿丈 一尺五寸
袖口丈 一尺一寸



積り方

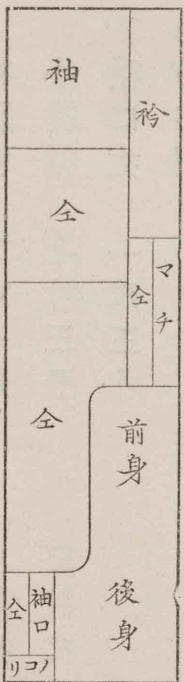
後丈 $\times 4 +$ (後前の差 + 豎衿丈) $\times 2 =$ 總丈
[總丈 - (後前の差 + 豎衿丈) $\times 2$] $\div 4 =$ 後丈

五、幅一尺二寸長と一丈五尺の布を以て中裁羽織の裁ち方
裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸 同幅 八寸
後丈 二尺六寸 前丈 三尺四寸

後幅 八寸 前幅 六寸
衿幅 四寸 衿肩明 二寸
衿丈 五尺二寸 袖口丈 一尺二寸

裁ち方の圖



積り方

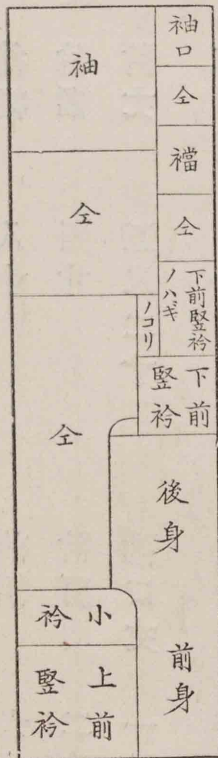
第五章第一、二に同じ

六、幅一尺二寸五分長と一丈四尺九寸の片面物を以て中裁
被布の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈	一尺六寸	同幅	八寸五分
後丈	二尺七寸	前丈	二尺九寸
後幅	七寸三分	前幅	五寸二分
衿肩明	二寸一分	小衿丈	九寸五分
小衿幅	七寸三分	堅衿丈	一尺九寸五分
袖口丈	一尺三寸		

裁ち方の圖



積り方

第七章二に同じ

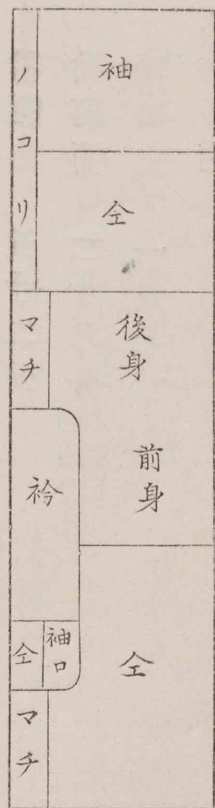
七、幅一尺二寸長さ二丈二尺の布を以て本裁男物折り返し

羽織の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈	一尺五寸	同幅	九寸八分
後丈	三尺五寸	前丈	四尺五寸
後幅	九寸五分	前幅	六寸八分
衿幅	五寸二分		
衿肩明	二寸七分 <small>内四分の廻し</small>		
袖口丈	一尺七寸		

裁ち方の圖



積り方

第五章第一、二に同じ

八幅一尺二寸長さ二丈四尺の布を以て本裁女物被布の裁

ち方

裁ち切り寸法

- 袖丈 一尺六寸五分 同幅 九寸五分
- 後丈 四尺二寸 前丈 四尺五寸
- 後幅 八寸八分 前幅 六寸

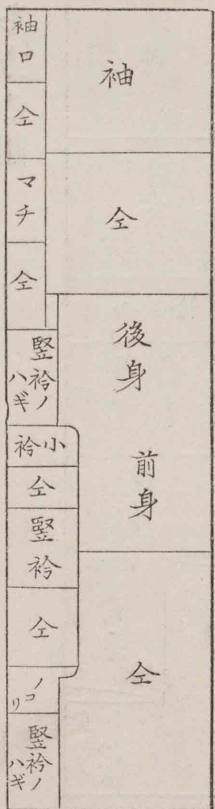
衿肩明 二寸八分

小衿丈 一尺四寸

豎衿丈 二尺三寸

袖口丈 一尺六寸

裁ち方の圖



積り方

前題に同じ

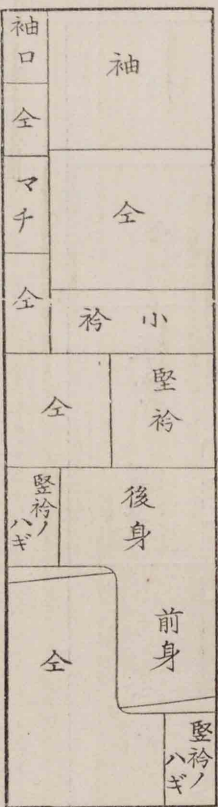
九幅一尺二寸長さ一丈八尺五寸の布を以て本裁女物單被

布の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸 同幅 九寸五分
 身丈 二尺九寸 後幅 八寸八分
 前幅 六寸 衿肩明 二寸八分
 小衿丈 一尺四寸 同幅 九寸五分
 豎衿丈 二尺三寸 袖口丈 一尺六寸

裁ち方の圖



積り方

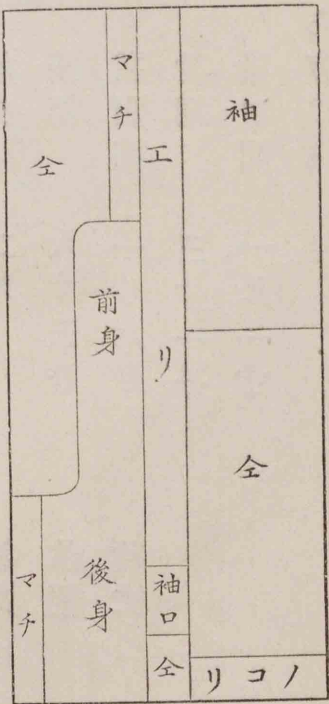
袖丈 × 4 + 身丈 × 3 + 小衿丈 + 豎衿丈 + 前下り = 總丈

[總丈 - (袖丈 × 4 + 小衿丈 + 豎衿丈 + 前下り)] ÷ 3 = 身丈
 [總丈 - (身丈 × 3 + 小衿丈 + 豎衿丈 + 前下り)] ÷ 4 = 袖丈
 一〇、幅二尺長と六尺五寸の兩面物を以て小裁羽織の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈 一尺五寸 同幅 七寸五分
 後丈 二尺 前丈 二尺五寸
 後幅 六寸三分 前幅 四寸七分
 衿肩明 一寸六分 衿丈 四尺三寸
 衿幅 三寸一分
 袖口明 一尺一寸

裁ち方の圖



積り方

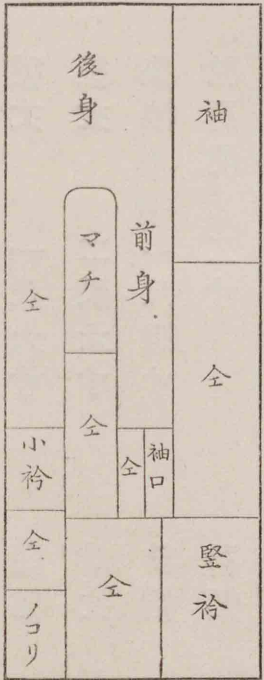
後丈×3+後前の差=總丈

(總丈-後前の差)÷3=後丈

後丈+後前の差=前丈

一一幅二尺長と七尺五寸の布を以て小裁被布の裁ち方
裁ち切り寸法

裁ち方の圖



積り方

袖丈×4+豎衿丈=總丈

袖丈 一尺五寸

同幅

七寸五分

後丈 二尺三寸七分

前丈

二尺五寸三分

後幅 一尺二寸五分

小衿丈

八寸

衿肩明 一寸六分

袖口丈

一尺一寸

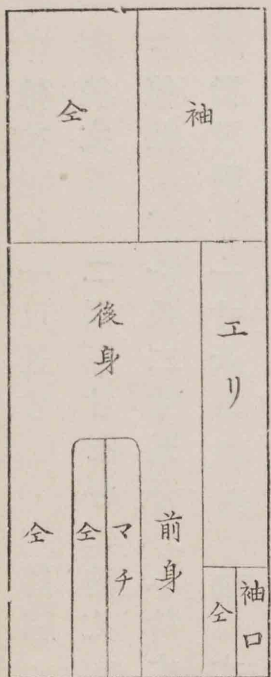
豎衿丈 一尺五寸

同幅

六寸二分五厘

一二、幅一尺八寸長さ九尺を以て中裁羽織の裁ち方
裁ち切り寸法

裁ち方の圖



袖丈	一尺六寸	同幅	九寸
後丈	二尺六寸	前丈	三尺二寸
後幅	一尺四寸	前幅	五寸
衿肩明	二寸	衿幅	四寸
袖口丈	一尺二寸	襜幅	二寸

積り方

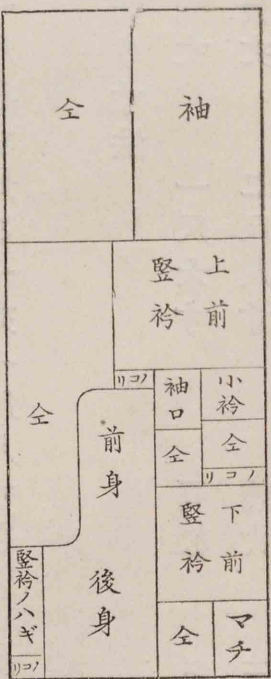
袖丈 $\times 2$ + 後丈 $\times 2$ + 後前の差 = 總丈
 {總丈 - (袖丈 $\times 2$ + 後前の差)} $\div 2$ = 後丈
 後丈 + 後前の差 = 前丈
 {總丈 - (後丈 $\times 2$ + 後前の差)} $\div 2$ = 袖丈
 一三、幅一尺七寸長さ一丈一尺八寸を以て中裁被布の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈	一尺六寸	同幅	八寸五分
後丈	二尺八寸	前丈	三尺
後幅	七寸五分	前幅	五寸五分
衿肩明	二寸	豎衿丈	二尺

小衿丈 九寸五分 同幅 三寸七分
 袖口丈 一尺二寸 同幅 二寸三分

裁ち方の圖



積り方

袖丈 $\times 2$ + 後丈 $\times 3$ + 後前の差 = 總丈
 {總丈 - (袖丈 $\times 2$ + 後前の差)} $\div 3$ = 後丈
 後丈 + 後前の差 = 前丈
 {總丈 - (後丈 $\times 3$ + 後前の差)} $\div 2$ = 袖丈

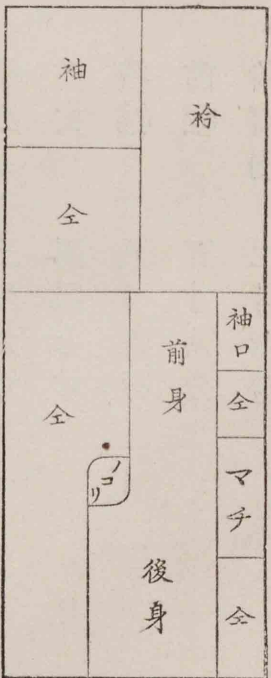
一四幅一尺六寸五分長さ一丈五尺の布を以て本裁女物羽

織の裁ち方

裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸
 同幅 九寸五分
 後丈 三尺九寸
 前丈 四尺七寸
 後幅 八寸五分
 前幅 五寸八分
 衿肩明 二寸七分
 衿幅 七寸
 袖口丈 一尺六寸

同幅 二寸四分
裁ち方の圖



積り方

袖丈 $\times 4$ + 後丈 $\times 2$ + 後前の差 = 總丈
 {總丈 - (袖丈 $\times 4$ + 後前の差)} $\div 2$ = 後丈
 後丈 + 後前の差 = 前丈
 {總丈 - (後丈 $\times 2$ + 後前の差)} $\div 4$ = 袖丈

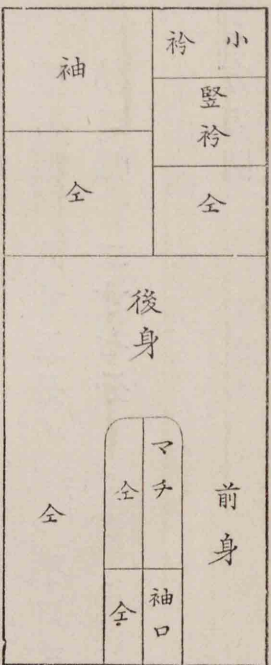
一五幅一尺八寸長と一丈四尺の布を以て女物被布の裁ち

方

裁ち切り寸法

袖丈	一尺五寸五分	同幅	九寸五分
後丈	三尺八寸	前丈	四尺
後幅	九寸	前幅	六寸二分
衿肩明	二寸八分	小衿丈	一尺四寸
小衿幅	八寸五分	豎衿丈	二尺四寸
豎衿幅	八寸五分	袖口丈	一尺六寸
袖口幅	二寸七分		

裁ち方の圖



積り方

袖丈 $\times 4 +$ 後丈 $\times 2 +$ 後前の差 = 總丈
 [總丈 - (袖丈 $\times 4 +$ 後前の差)] $\div 2 =$ 後丈
 後丈 $+ 後前の差 =$ 前丈
 [總丈 - (後丈 $\times 2 +$ 後前の差)] $\div 4 =$ 袖丈

第八章 被布合羽女物

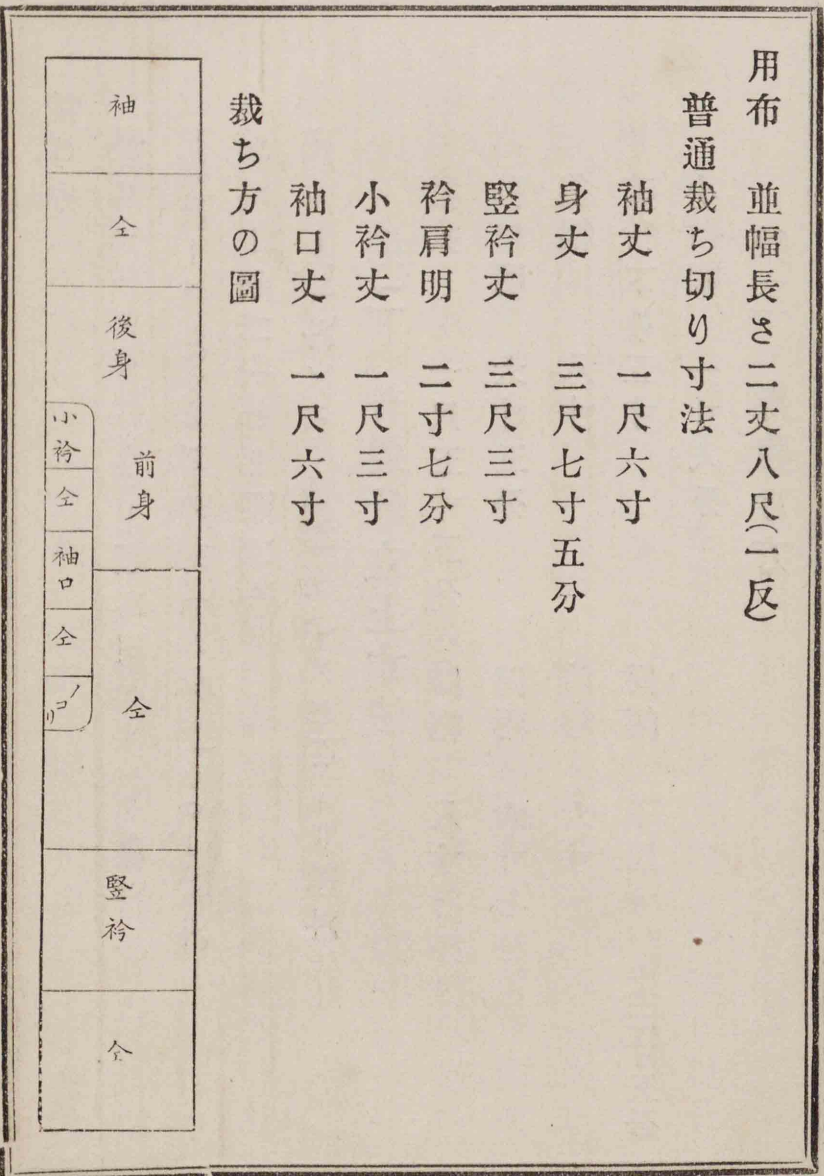
第一 裁ち方積り方

用布 並幅長と二丈八尺(一反)

普通裁ち切り寸法

- 袖丈 一尺六寸
- 身丈 三尺七寸五分
- 豎衿丈 三尺三寸
- 衿肩明 二寸七分
- 小衿丈 一尺三寸
- 袖口丈 一尺六寸

裁ち方の圖



積り方

袖丈×4+身丈×6- 1 摺衿下り×2= 總丈

{總丈- 1 袖丈×4}+ 1 摺衿下り×2}÷6= 身丈

身丈- 1 摺衿下り= 摺衿丈

{總丈- 1 (身丈×6- 1 摺衿下り×2)}÷4= 袖丈

第二 普通仕立上寸法

袖丈 一尺五寸五分 同幅 八寸七分

袖口明 六寸五分 同附 六寸七分

後幅 八寸 前幅 六寸

摺衿下り 五寸 同幅 下四寸 上三寸五分

小衿幅 一寸八分

第三 標附け方

一、袖 左右の袖を山より二つに折り二枚重ね山丈、口明、附幅の標を附け次に袖口布を二つに折り山口明及び縫代の標をつく

二、身頃 表を中にして二枚揃へ衿肩より二つに折り裾口を右に脊を手前に後布を上にして裁板の上に置き山丈(裾掛八分を除き長さときは男服の如く胴の所に内揚の標をなす)袖附、脇明、後幅、肩幅の標を附け次に後身を左に開き前身頃に摺衿下り前幅の標をつく

但し衿ならば裏も表と同様に標を附け丈は裏を五分短くし長き分は肩にて揚をなす

次に摺衿の幅を二つに折り二枚重ね折り目を手前に裾を右にして下に置き丈及び上下の幅標を附けそれより

小衿を取り真中より二つに折り丈及び幅の標をつけ次に角の處に丸みの標を附くべし又天鷲絨等の如き地厚の品を小衿に用ふるときは幅を狭くして一寸四分となし折らすして着するを普通とす

第四 縫ひ方順序

一、單合羽

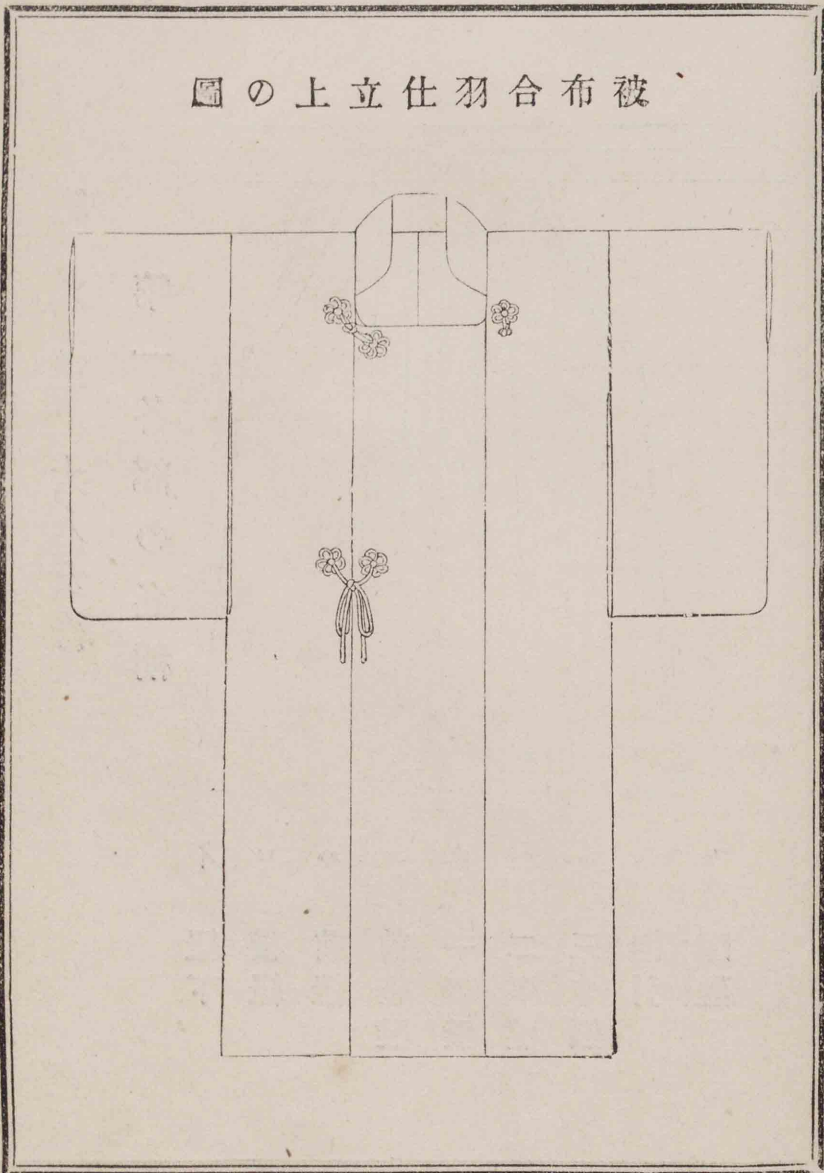
單羽織の通り左右の袖に袖口を掛け袖下を袋縫にして袖を拵へ次に身頃の脊を縫ひ肩當をつけ前身頃の裾を三つ折りにして躰を掛け豎衿下りの明を肩當と合せて裏より縫ひ豎衿の表裏にて前身頃を狭み一針抜きに三つ縫になし衿先を縫ひ裏に返して縫ひ込みを綴ち附け引き返して上を小針に緝け次に兩脇を縫ひ裾口一尺二

三寸上より後前とも幅を五分程自然に縫ひ出す次に裾掛をなし衿肩廻しを綴ち小衿の表に心を入れ被布の小衿の如く之れを縫ひ身頃の表に合せて一針抜きに縫ひ裏にて緝け附け次に左右の袖を附け折りは身頃の方に返し八つ口を緝け次に左脇の裏并に右豎衿の表に肩より一尺五寸程下りて長さ七八寸の細き紐を附け仕上をなしそれより被布の如く飾紐を附くべし
但し下の飾紐は前に附けたる處より凡そ三寸程下りたる所に附くべし

二、裕合羽

裕の通り袖を縫ひ次に身頃の四裾を表裏縫ひ合せ折りは裏の方に返し表を二分五厘裏に返して隠躰を掛け次

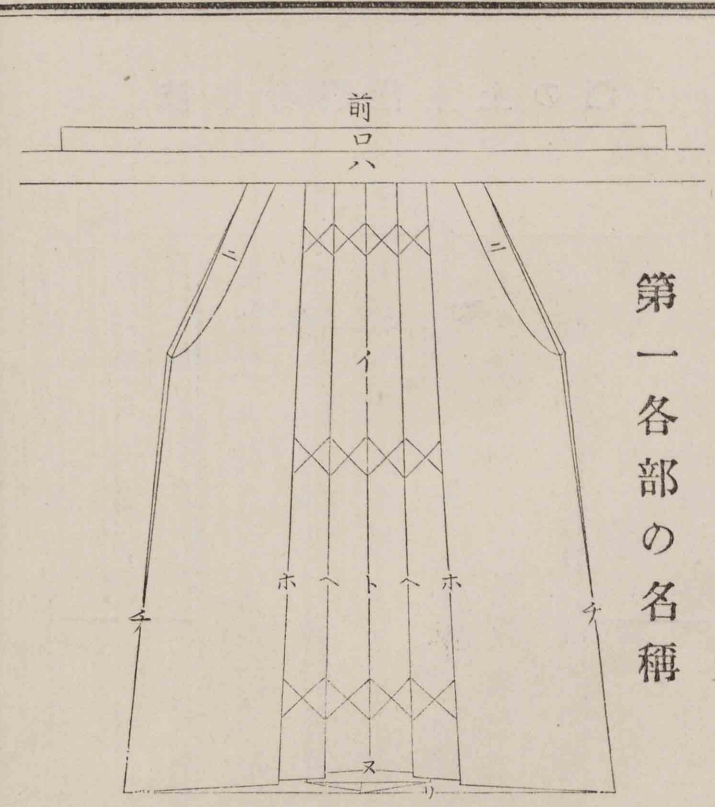
被布合羽仕立上の圖



八十八
 に脊を四つ縫ひになし左右の脇を表裏別々に縫ひ縫ひ
 込みを開きて之れを綴ち脇明を留め表裏の身頃にて袖
 を狭み一針抜き返して四つ縫ひになし身八つ口を縫ひ折り
 を附け引き返して能く表裏を合せ豎衿下りの明を縫ひ
 衿附を躰にて綴ち次に豎衿の上下を縫ひ折りは裏の方
 に返し豎衿の表と表裏の前身頃とを合せて三つ縫ひに
 なし豎衿の方に折りを附け裏にて細かに縮け次に單合
 羽の通りに衿を附け紐及び飾紐を附くべし
 但し前身頃まるはゞなるときは單衣にても衿にても
 豎衿附の標より二分程先きを折りて裏の方に返し
 次に標の通り豎衿を附くべし又其折り込みは單衣
 ならば表の方にあらく綴ち附け置くべし

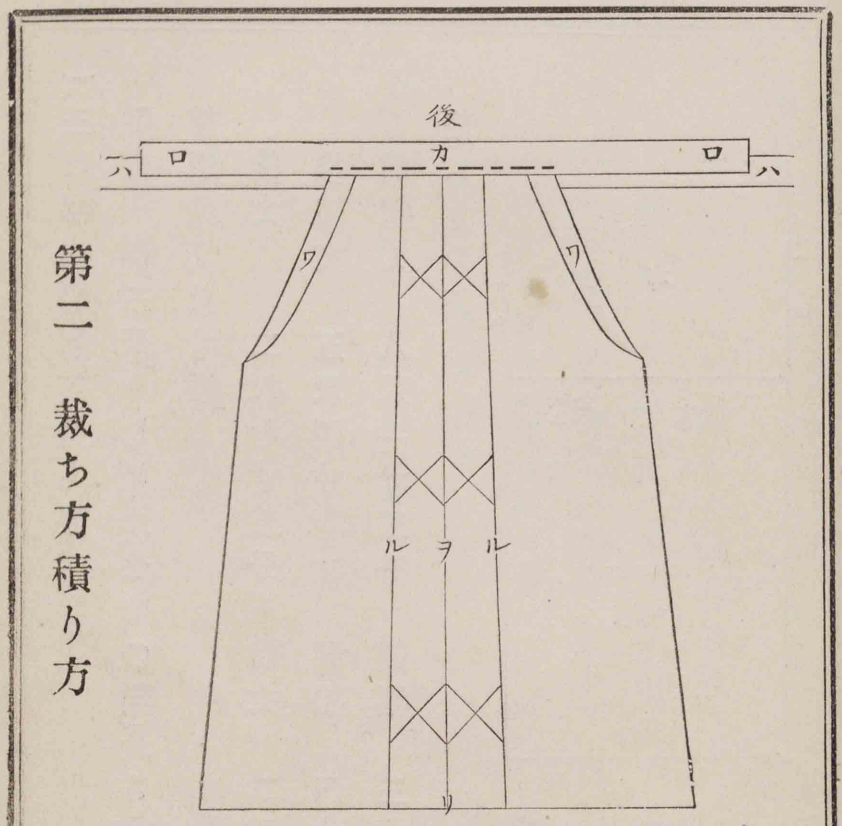
第九章 大人女袴

第一各部の名稱



リ	テ	ト	ハ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ
蹴廻	相引	三の襷	二の襷	一の襷	前襷	前紐	後紐	紐下

第二 裁ち方積り方



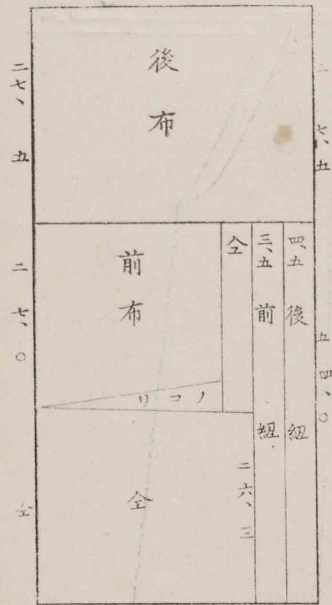
カ	ワ	ヲ	ル	ヌ
飾系	後襷	後二の襷	後一の襷	切り上

一、三尺幅物襦無袴裁ち方

用布 幅三尺(かしめや、せるの類)長さ八尺一寸五分
普通裁切り寸法

- 後丈 二尺七寸五分 前丈 二尺七寸七分内切上
- 後紐丈 五尺四寸 同幅 四寸五分
- 前紐丈 八尺一寸五分 同幅 三寸五分

裁ち方の圖



積り方

後丈を知りて總丈を求むる法

$$\text{後丈} \times 3 - \text{後前の差} \times 2 = \text{總丈}$$

總丈を知りて後丈を求むる法

$$(\text{總丈} + \text{後前の差} \times 2) \div 3 = \text{後丈}$$

$$\text{後丈} - \text{後前の差} = \text{前丈}$$

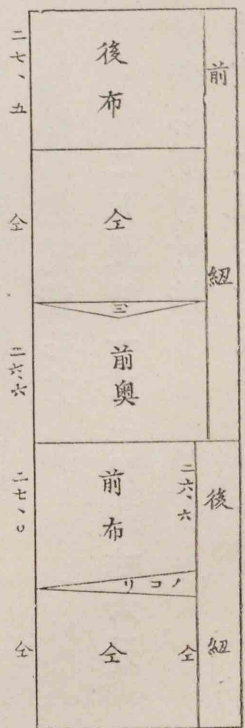
二、二尺幅物襦無袴裁ち方

用布 幅二尺長一丈三尺五寸六分

普通裁ち切り寸法

- 後丈 二尺七寸五分 前布 二尺七寸内切上
- 前奥 二尺六寸六分内切上
- 後紐 五尺四寸 同幅 四寸五分

前紐 八尺一寸六分 同幅 三寸五分
裁ち方の圖

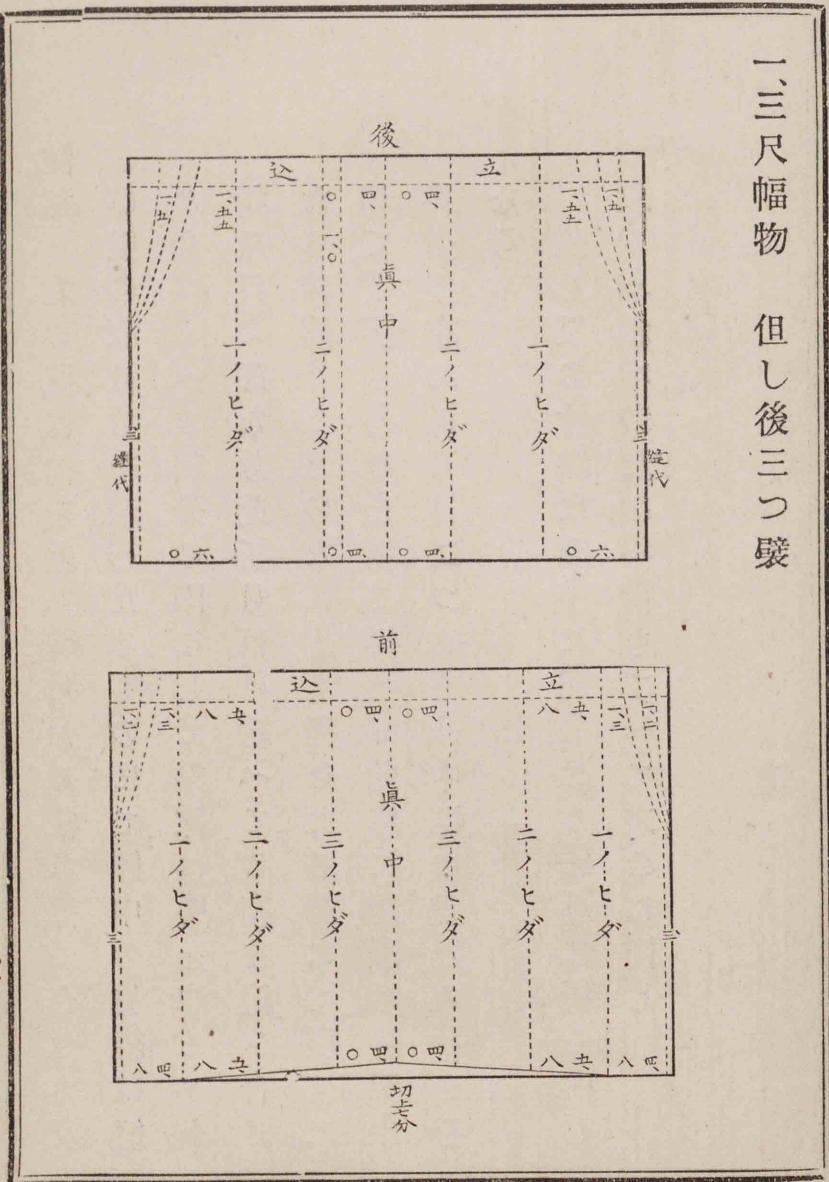


積り方

後丈 $\times 5 - 1$ (後前の差 $\times 3 + 前布の切上) = 總丈$
 (總丈 + 後前の差 $\times 3 + 前布の切上) \div 5 = 後丈$
 後丈 - 後前の差 = 前丈

第三 縫合及び襷取り方

一、三尺幅物 但し後三つ襷

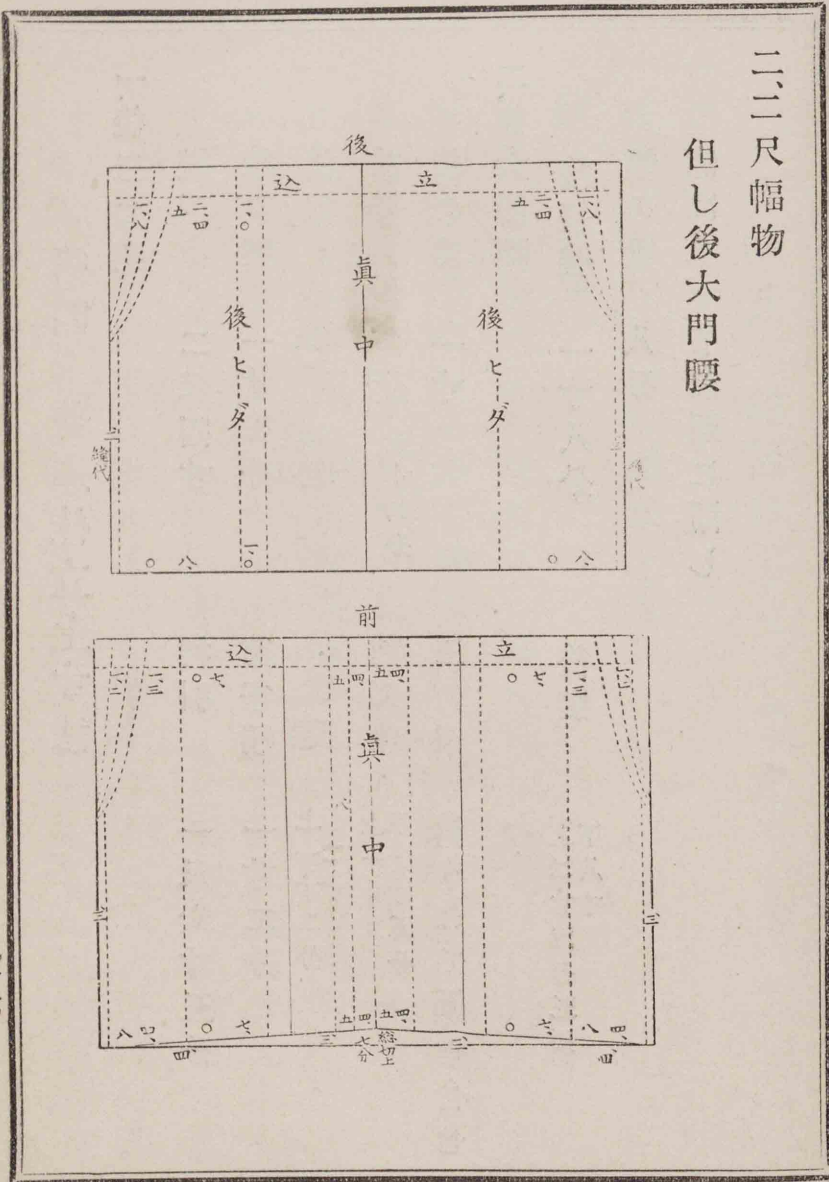


注意 右の圖は袴を裁ち切りたる後各部の合せ方及び襷の取り方を示したるものにて圖中の眞線は縫ひ合はすべき部分の印にして點線は襷を取るべき折り目の印なり此折り目は總べての布を縫ひ合せたる後附くるものなれとも開きたる圖にて現すは却て了解し易きを以て併せて此處に記載せり又左脚の後布に折り目二つあるは中襷の重なるべき分なり

但し襷の寸法は圖中に記載せる通りに折るべし
以下小裁中裁及び男袴もすべて之れに同じ

二、二尺幅物

但し後大門腰



第四 普通仕立上寸法

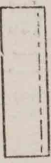
- 一、後三つ襷
 - 紐下 二尺四寸
 - 後笹襷 一寸五分
 - 後幅 上八寸五分 下八寸六分
 - 前幅 上九寸 下一尺五寸六分
 - 後の重 一寸
 - 二、後大門腰
 - 後笹襷 一寸八分
 - 懐の重 八分
 - 他はすべて前題に同じ
-
- 相引 一尺六寸五分
 - 前笹襷 一寸二分
 - 後寄襷 上一寸二分 下二寸
 - 前寄襷 上一寸 下一寸五分
 - 三の襷 真中にて衝き合せ
 - 後襷 上二寸四分五厘 下八寸

第五 標付け方及び縫ひ方順序

- 一、標付け方
 - 後前の布に相引の標をつく
- 二、縫ひ方順序
 - 前布を二枚はぎて折り伏せ縫をなし折りは右脚の方に返し左右の相引を縫ひ前布の方に折りを付け裾かけを六分の縫代にて三つ折り縮にし相引の上にくわんぬきどめをなし前に示したる圖の如く襷の折りを付け(折りめつき難きものは折りたる處へ躰をかく)裾口を右にして下に置き後の二の襷即ち中襷より順次に折り次に紐附の標より五分下りたる處と真中と裾口より五分上りたる處とに千鳥かゞりをなし次に前を返して亦三の襷

即ち懷の襷二の襷一の襷と順次に折り後の如く千鳥か
がりをなし後の笹襷を寸法通り折り中を開きて七分程
の針目にあらく縫ひ下方はやゝ小針になして末端三分
程縫ひ残り次に其上部を表裏合せて縮けつけ夫れより
前の笹襷を笹の葉形に折りて後の如く縫ひ全體に鋏又
は火慰斗をかけて能く折りをつけ襷を整へ前を上にし
て裁板の上のべ襷の重なり少くして低き所には新聞
紙若くは小さきを挟みて平になし壓を置き(壓板小さと
きは裾口と相引との真中より五分程上の所に二尺指を
置きて裾を上方に返し此處より五分程離して上部を其
上に折り重ね三つに疊みて壓を置く)後前の紐に心を入
れ真中一尺程を残して之れを縮け後腰に後幅だけの厚

紙(半紙十枚程を合せたるものにて左右の角を五六分程
丸く裁ち落す)を入れ太白の捻糸ねい二本にて大人物ならば
雌針五つ雄針四つ小供物ならば雌針四つ雄針三つを

の如く厚紙を通して表に貫き飾糸をかけ置き
夫れより後紐を付け(二本糸裏にて縮け次に前紐に美濃
紙三枚程を折りて入れ後の如く之れをつけ次に後紐を
折りて後腰の上に置き別に前紐を折りて左右を交叉し
後前共に其真中を二本糸にて綴ち置くべし

但し後紐は前紐より大人物は五分小供物は二分上に
之れをつく

注意 女袴にても襠を入れるゝもあれども近時普通に
行はるゝものは大方襠無のみなるを以て本書には

襠無の裁ち方のみをかゝげ襠有の裁ち方は續編の部に譲りたり又懷の襷即三の襷は前二例の如く衝き合せになすも八分重ねて後の如く開くも何れにても人々の好みに従ふべきなれども前布のはぎ真中にあるものは第二例の如く重ねて開くを宜しとす

第十章 小裁中裁女袴

一幅二尺長さ五尺二寸を以て小裁襠無し袴の裁ち方

但し五歳位の小供用

裁ち切り寸法

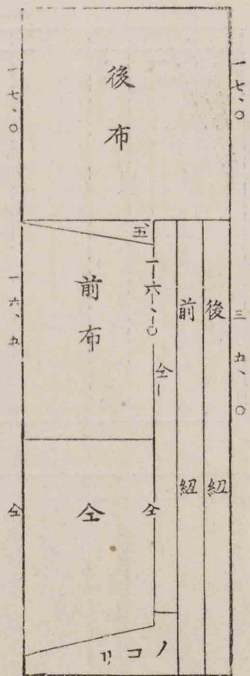
後丈 一尺七寸

前丈

一尺六寸五分 内切上五分

後紐 三尺五寸 同幅 三寸
前紐 六尺 同幅 一寸八分

裁ち方の圖



積り方

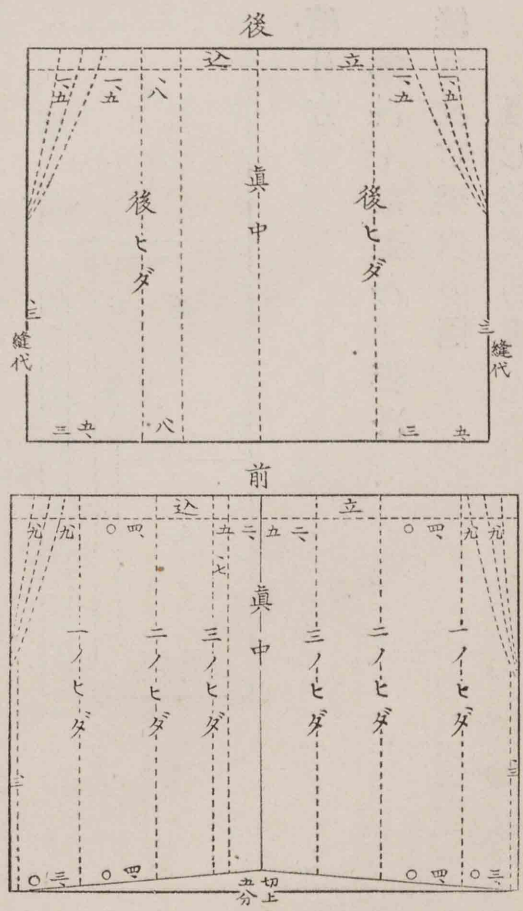
後丈 + 後紐丈 = 總丈

縫合及び襷取の圖

但し後大門腰

普通仕立上寸法

紐下 一尺四寸
相引 一尺



後笹襷 一寸五分

前笹襷 九分

後幅 上六寸 下一尺六分

前幅 上六寸四分 下一尺四分

前寄襷 上七分 下一寸一分

後の重 八分

懐の重 七分

二幅二尺長さ七尺四寸五分の両面物を以て小裁襦無し袴の裁ち方

但し八九歳の小供用

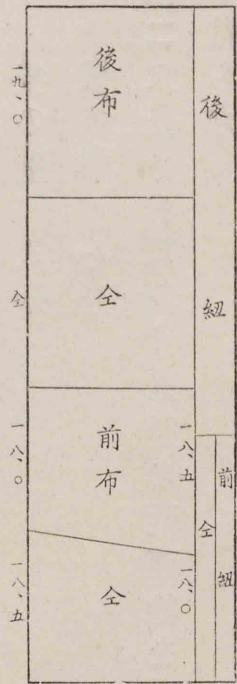
普通裁ち切り寸法

後丈 一尺九寸

前丈 一尺八寸五分内切上

後紐 四尺
前紐 七尺
裁ち方の圖

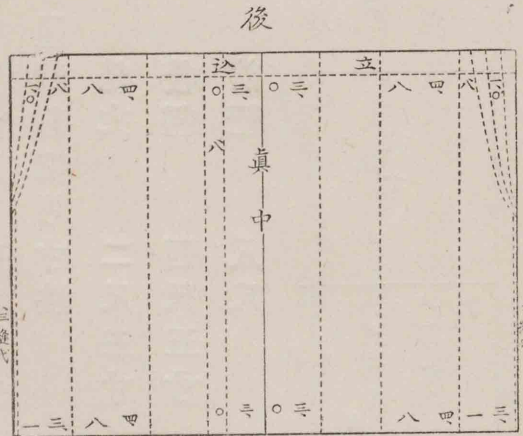
同幅 三寸五分
同幅 五つぱし



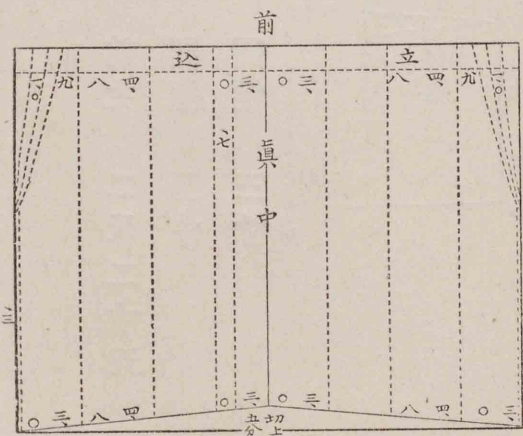
積り方

後丈 $\times 4$ - (後前の差 $\times 2$ + 裁違) = 總丈
 (總丈 + 後前の差 $\times 2$ + 裁違) $\div 4$ = 後丈
 縫合及び襷取の圖
 但し後前五つ襷

普通仕立上寸法



紐下 一尺五寸
後笹襷 一寸一分
後幅 上六寸四分
下 一尺一寸四分



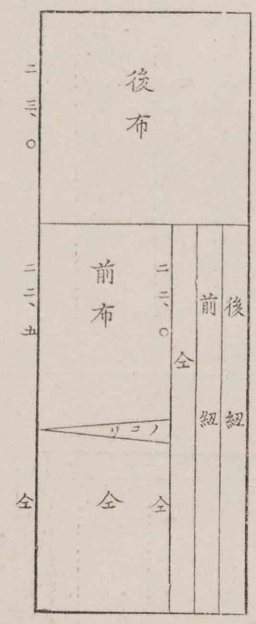
相引 一尺五分
前笹襷 一寸
後寄襷 上七寸
下 一尺二分

前幅 上七寸
 下一尺八分
 前寄襷 上八分
 下一寸二分
 後の重 八分
 懐の重 七分

三幅三尺長さ六尺八寸の布を以て中裁襤無し袴の裁ち方
 但し十三四歳の小供用
 普通裁ち切り寸法

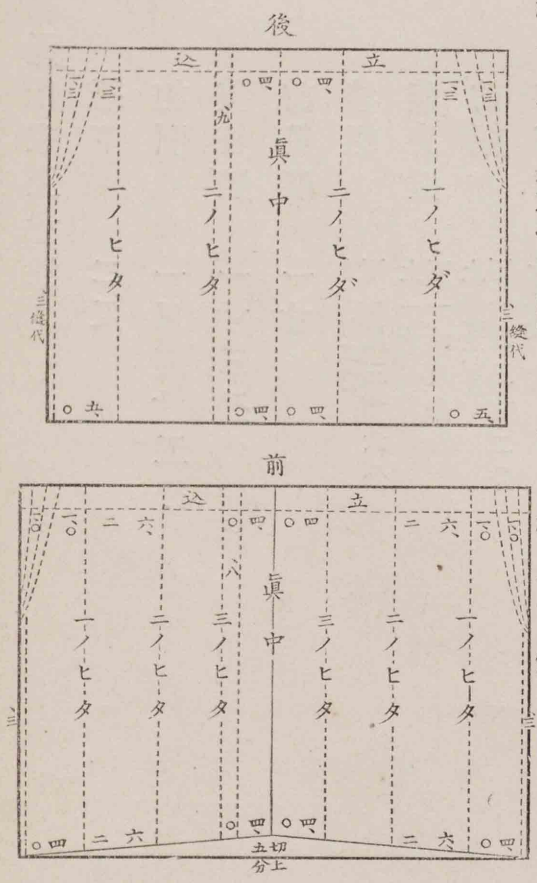
後丈 二尺三寸 前丈 二尺二寸五分 内切上
 後紐 四尺五寸 同幅 四寸
 前紐 八尺 同幅 三寸

裁ち方の図



積り方

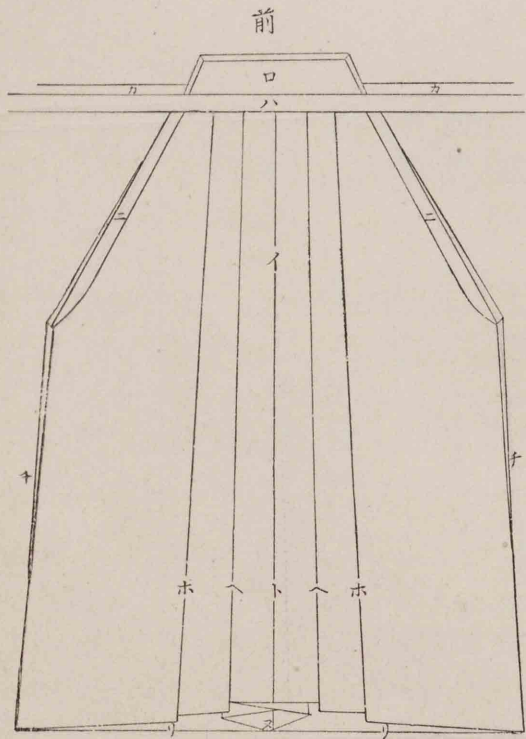
後丈×3 - 後前の差×2 = 總丈
 (總丈 + 後前の差×2) ÷ 3 = 後丈
 縫合及び襷取の圖 但し後三つ襷



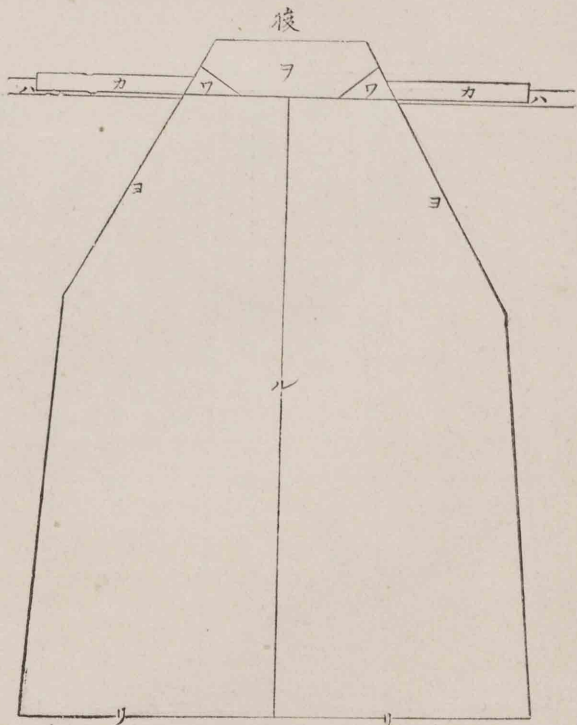
普通仕立上寸法

紐下	二尺
相引	一尺四寸五分
後笹襷	一寸三分
前笹襷	一寸
後幅	上七寸二分 下一尺三寸六分
後寄襷	上一寸 下一寸八分
前幅	上七寸六分 下一尺三寸二分
前寄襷	上九分 下一寸三分
後の重	九分
懐の重	八分

第十一章 大人男袴
第一 各部の名稱



又 リ チ ト ヘ ホ ニ ハ 口 イ
 切 蹶 相 三 二 一 笹 前 裏 紐
 上 廻 引 の の の 襷 紐 腰 下



第二 裁ち方積り方

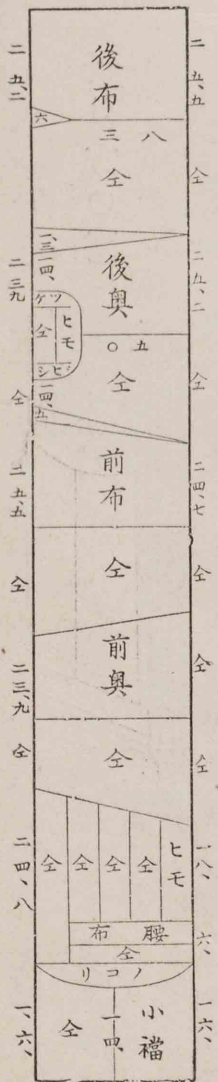
一、十番馬乗袴裁ち方 用布 並幅長さ二丈四尺二分

ヨ カ ワ ナ ル
 投 後 附 腰 後
 紐 菱 板 襷

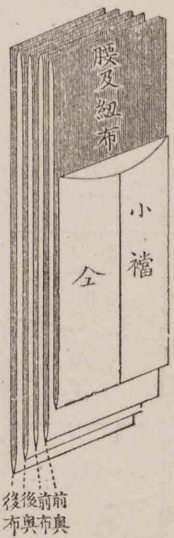
普通裁ち切り寸法

後丈	二尺五寸五分内	幅八寸三分	切上
後奥	二尺五寸二分内	切上	一寸三分
前布	二尺五寸五分内	切上	一寸三分
前奥	二尺四寸七分内	切上	八分
腰布	六寸		
紐丈	一尺八寸		
小襠丈	一尺六寸内	襠の高	一尺四寸

裁ち方の圖



折り方の圖



積り方

後丈を知りて總丈を求むる法

後丈 × 8 - 裁違 + 紐丈 + 腰布 + 小襠丈 = 總丈

總丈を知りて後丈を求むる法

[總丈 - (紐丈 + 腰布 + 小襠丈) + 裁違] ÷ 8 = 後丈

出來上りの紐下を知りて裁ち切りの後丈を求むる法

紐下 + 切上 + 襷掛 + 立込 = 裁ち切の後丈

注意 袴の丈は紐下即ち前の三の襷の處にて度るを

普通とすされば單に丈と云はゞ紐下にての事と知るべし又袴の腰板は前紐を附くる所より三分上りたる所へ附くるを以て前に一寸三分の立込みあるときは後は一寸の立込みとなる此立込みは縫ひ直しの時など切上を附け代ふるに必要なるものなれば新に裁つ時にはなるべく多く餘裕を入れ置くべし又用布充分ならざる時にては後の立込は五分より少からざらんことを要す但し後前の差は着る人の形によりて多少の差異あるものなれば其場合に應じて宜しく斟酌すべし

又腰布は殊に破れ易きものなれば用布の丈充分あるときは裁ち方の最初に於て三四寸程別に殘し置

くを良しとす

二、並馬乗袴裁ち方 用布並幅長と二丈一尺九寸四分
普通裁ち切り寸法

後丈 二尺四寸九分 内幅八寸三分の處より切上三分

後奥 二尺四寸六分 内切上一寸三分上の幅四寸

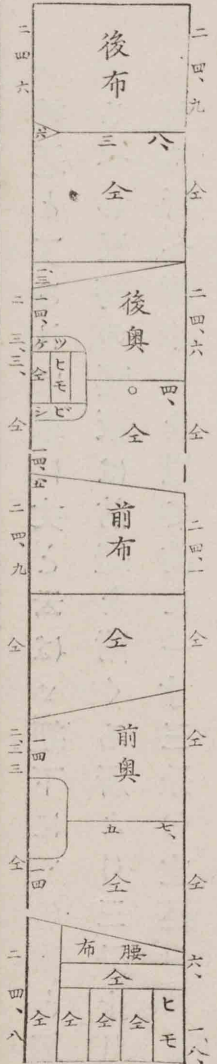
前布 二尺四寸九分 内切上八分

前奥 二尺四寸一分 内切上一尺四寸の幅七寸五分

腰布 六寸

紐丈 一尺八寸

圖の方ち裁



折り方の圖

積り方

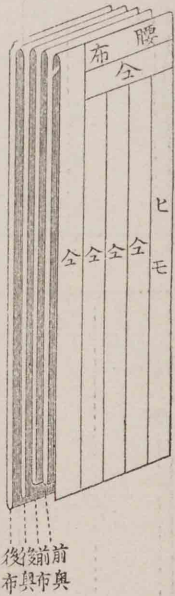
後丈を知りて總丈を求むる法

後丈 × 8 - 裁違 + 紐丈 + 腰布 = 總丈

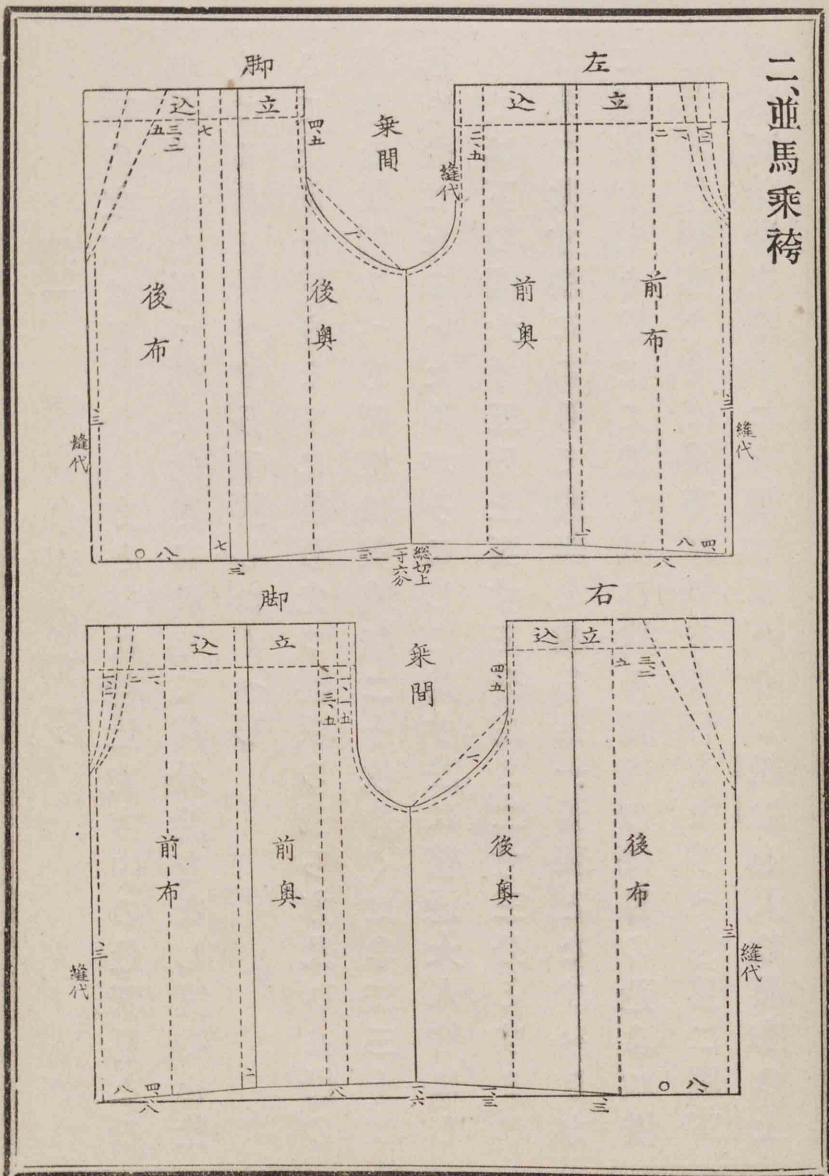
總丈を知りて後丈を求むる法

{總丈 - (紐丈 + 腰布) + 裁違} ÷ 8 = 後丈

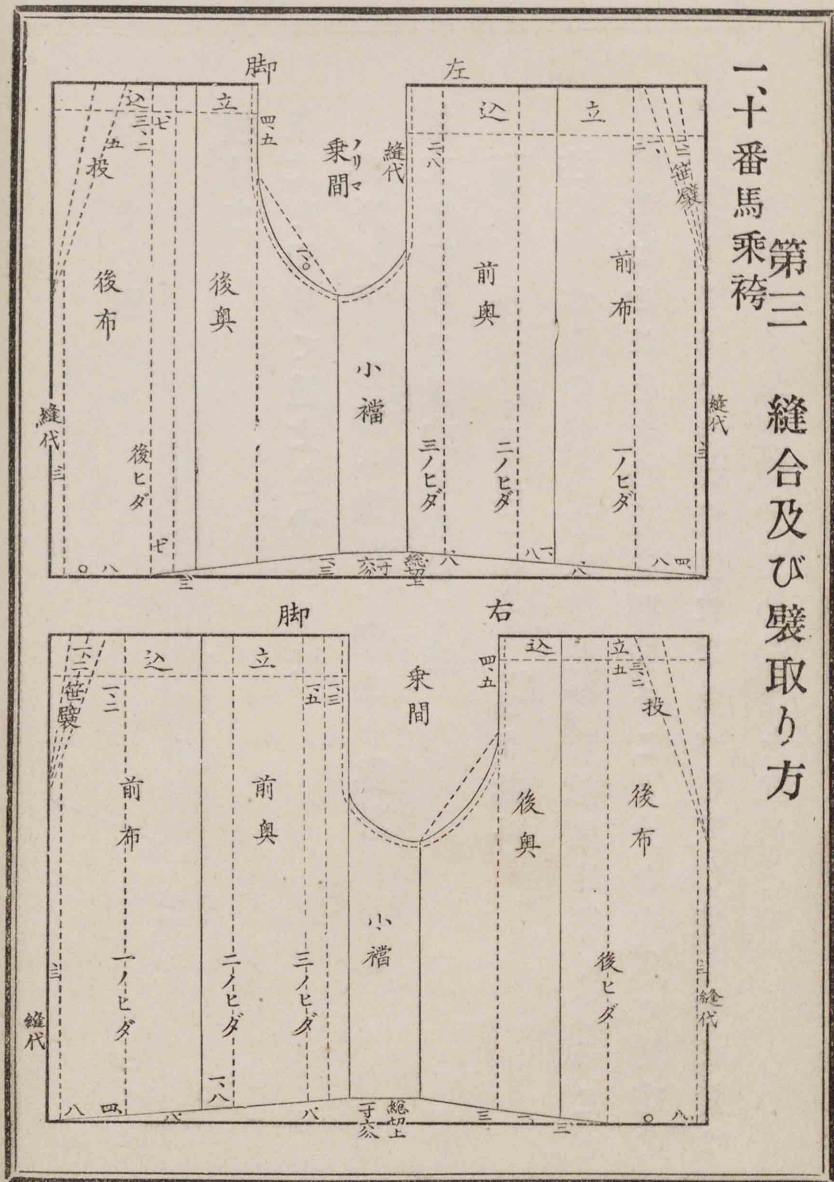
注意 本題の裁ち方は蹴廻狭き故襷を深くすること能はざれとも布地を要すること少きを以て用布の足らざるときは此法によるべし概して云へば袴はなるべく蹴廻廣く襷の深きを宜しとす



二並馬乗袴



第三 一十番馬乗袴 縫合及び襷取り方

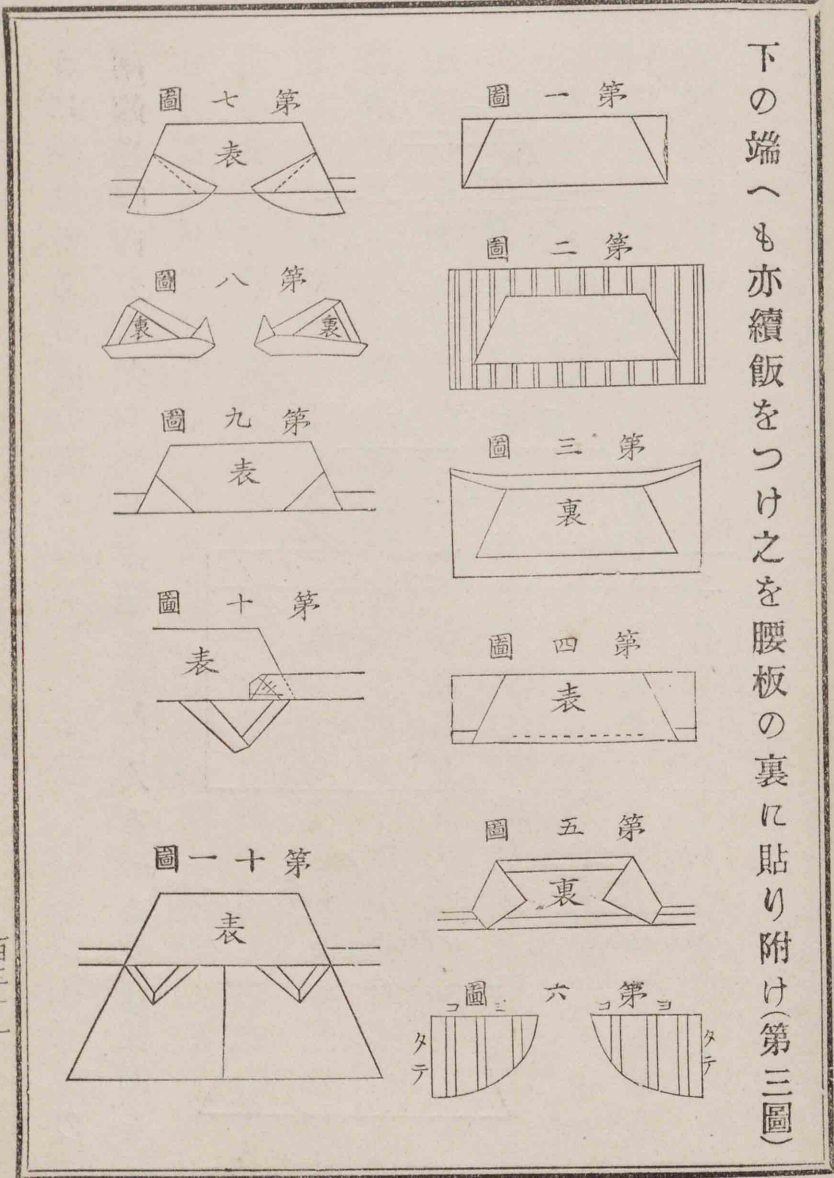


第四 腰立糸掛の順序

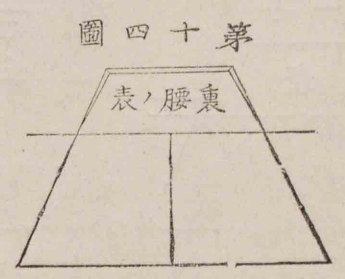
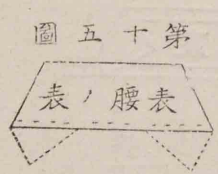
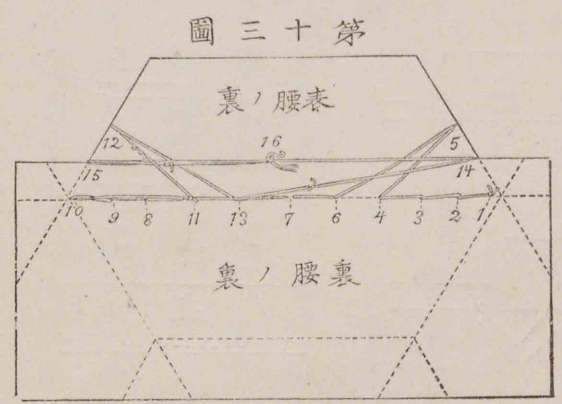
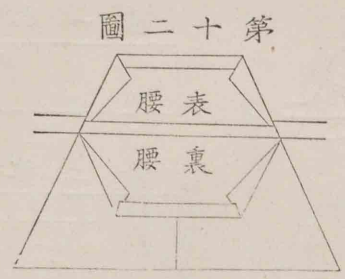
袴腰の立方は襷の取り方と共に袴仕立方中の最肝要なる部分なるを以て特に此處に就きて部分縫をなし實物を仕立つる前に於て充分了解しておくべし

さて此部分縫をなすに當り先づ腰板の裁ち方及び糸掛の順序を説明すべし腰板は美濃紙二十枚若くは半紙三十枚程を合せたるいためがみにして其寸法は普通大人物にありては下の幅六寸五分上四寸三分高さ二寸三分とすされば先づ此寸法によりて腰紙を裁ち(第一圖表となすべき方に續飯を引き篋にて能く拭ひ取り腰布の縞目の歪まぬ様貼り付け絹布ならば腰布に紙の裏打をなすべし)(第二圖下の處に續飯を附けたる四寸ばかりの紙捻かみよを入れ腰布の上

下の端へも亦續飯をつけ之を腰板の裏に貼り付け(第三圖

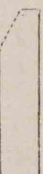


次に紙捻のある處の際に表よりや、深く線をつけ下部の
 兩端を幅四分に裁ち切り後紐の中に入るべき分(第四圖)を

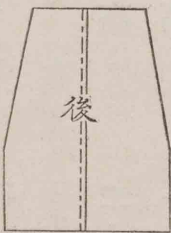
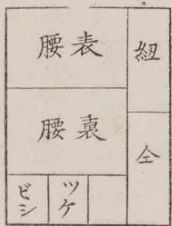


の餘の布に續飯を付け角を能く整へて腰紙に張り付け(第
 五圖)次に附菱及び裏腰に紙の裏打をなすべし
 但し附菱に裏打をなすときは同じむきにならざる様注
 意すべし(第六圖)

それより附菱の縦を縞目通り眞直に幅二分程に折り次に
 上の角の處も亦二分程に折り此處より下の方へ高さ一寸
 二分に度り折を付け又腰板の表を見て下の幅を角より二
 寸二分に度り附菱の下部を此處に合せ下の幅を極め次に
 此處と高さの角の所とをつなぎて斜に標を付け横の幅を
 極め(第七圖)左右同しく折を付け(第八圖)次に下部の残り
 に續飯を付け腰板の裏に張りつくべし(第九圖)
 それより左右の後紐をつく其仕方は先つ後紐の端六七分

の間山の處を切り斜に折りて  の如くし其中に腰板の下方の隅を入れ表の附菱を除く縫糸を二本各せ捻糸になして表裏に通し堅固に留め置くべし(第十圖)次に之を袴の後の腰板を附くべき所に表を見て眞直にあて(第十一圖)裏を返して裏腰布を合せ(第十二圖)左方の端より圖の如き針の順序にて裏を見て腰を立て(第十三圖)終りに裏の兩側及び上部を折り(幅丈共に表より凡そ五厘をひく)續飯にて張りつくべし(第十四圖)但し512の針は腰板と附菱の上の角とに通し1415の針は表裏腰及び附菱と共に綴ち附くべし(絹布類は附菱を除き表裏のみを綴ち合はす)次に16の針は一度表にぬき出し直ちに元の穴より斜に裏に通し腰紙にのみ針目の出づる様にして裏にて14の糸にかけて打

留をなす又腰板の表には何れも小針に出すべし(第十五圖)右の順序により腰立の部分縫をなすには並幅長さ八寸の縞きれを用意し圖の如く表裏の腰布幅七寸五分長さ六寸附菱幅三寸長さ二寸及び紐を取り別に並幅二尺五寸の運針用布を後布と見做し眞中に七分の襞を取り(後の重の積



り右の方に返して襞をかけ次に左右へ三寸二分五厘をはかり残りを裏の方に斜に折りて綴ち附け投と見做し之れよりすべて前に述べたる説明により腰立をなすべし

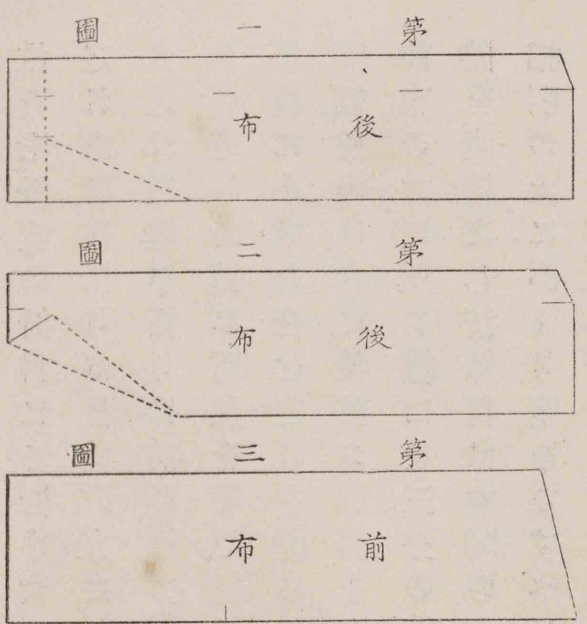
第五 普通仕立上寸法

紐下	二尺二寸	相引の高	一尺五寸
後幅	上六寸五分 下一尺六寸	前幅	上八寸 下一尺五寸六分
笹襷幅	一寸二分	前寄せ襷	上八分 下一寸五分
後の重	七分		
腰板幅	上六寸五分 下四寸三分	同高	二寸三分
附菱幅	二寸二分	同高	一寸三分

第六 標附け方

後布の表を中にして二枚揃へ相引の方を手前に裾口を右にして下に置き丈及び幅(八寸三分)の標を付け上の丈標の處より手前の方へ腰板幅の半分の寸法に標を付け次に相引の標を付け此標と腰板幅の標とに定木をあて斜に標を

き紙を張り置くを宜しとす



附け(第一圖)裏の方に返し次に之れを二つに折りて罫を掛け折り目を正しくなし置くべし(第二圖)それより前布も亦二枚合せ裾口を右にして下に置き相引の標を附く(第三圖)但し絹布類は布の伸びぬ様投の折り目と裾口との處に二分幅程の細

第七 縫ひ方順序

一、單袴

投を七分程の針目にて紵け次に後布と後奥とを合せて之れを縫ひ折りは後奥の方に返し次に前布に前奥を合せ之れを縫ひ折りは前奥の方に返し次に前奥に小襠を合せ之れを縫ひ隠躰をなし折りは小襠の方に返し次に後奥に小襠を合せ之れを縫ひ折りは亦小襠の方に返し隠躰をかけ次に後前の相引を合せて之れを縫ひ折りは前布の方に返し裾口を五分の縫代にて三つ折り紵に乘間を袋縫にし折り目は右脚の方に返し次に表を出して相引の上にかゝり留をなすべし
 夫れより襷取りの圖に示せる寸法により後前の布に折

りを附け前身を外にして左右の相引を合せ四枚揃へて裾口を右に相引の上を左に持ちて之れをふり襠を向にして下に置き外側の相引を向にはぬ膝上の真中の縫ひ代も始めの通り折りを向に返しそれより後奥の襠の處右脚の折りを左脚の折り線の上に載せ之を真中とし次に左脚の後布の二度目の折りを真中より七分向へ重ね又右脚の後幅の折りを左脚の後幅の折りの上に重ね上下及び真中に待針下は七枚を貫くをなし其上に雌針雄針に躰をかけ引き返して前を出し裾口は後の時と同じく右に置く懷の真中の縫ひ目を後の縫ひ目に合せ次に右脚の前奥一寸三分の折り目を取りて左脚の方に折り次に左脚の二寸八分の折り目を取りて右脚の二寸八分

の折り線の上に重ね之れを真中として後の真中の上に正しく合せ待針をなして後の如く雌針雄針に躰をかけ之れを三の襷とし次に左脚即ち向の方を前に附けたる折り目通り順次に二の襷一の襷と折り次に右脚即ち手前の方も同様に折るべし

次に紐附の標より五分程下りたる處と真中と裾口より五分程上りたる處とに千鳥かゝりをなしそれより左右の笹襷を寸法通り笹の葉形に折り中をひらきて七分程の針目に縫ひ下方はやゝ小針にして末端三分程縫ひ残り次に其上部を表裏合せて緘け行くべし

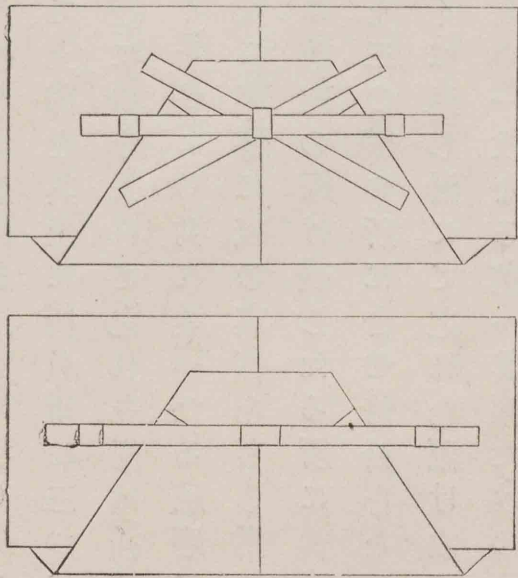
次に前を上にして裁板の上のべひくき所に布若くは紙を挟みて平になし裾口と相引との真中より五分程上

の所に二尺指を置き裾を上方に折り返し又此處より五分程離して上部を其上に折り重ね三つに疊みて壓を置き後前の紐に心を入れて之れを緘け前紐は一尺程真中をあげ置くそれより前に述べたる順序によりて腰板を張り附菱及び裏腰に紙の裏打をなし附菱を折りて之れを附け次に前紐の緘け残したる所に美濃紙を二枚程入れ其真中を三の襷の所に合せ待針をなし二本糸にて一針抜き若くは返し針にて之れを附け右脚の二の襷と三の襷との間の一枚なる處へ其幅たけの小布を折りて入れ全體の厚さを平にし裏にて小針に緘けつくべし

夫れより腰板に後紐を附け後布の上に真直に合せ前に述べたる順序によりて腰を立て裏腰を張り附け圖の如

く紐を疊み真中及び両端を厚紙にて封し置くべし
 但し紐の疊み方は左圖二種の中何れにても宜し又小
 供物の腰立は附菱までの間の針數を大人物より一

袴仕立上ノ圖



針少く即ち左右とも三針づゝとす

二、裕袴

裕袴の裏となすべき布表布の幅と同じきときは裏の裁
 ち切り丈を表より五分つむるのみにて可なれとも若し
 同じからさるときは先づ表を裁ち次に裏は之れに準し
 て切上を附け幅の挟き分は襠たもとの所にて足布たびをなし表と
 同じ幅にすべし
 さて之れを縫ふには單袴のごとく後布に後奥を縫ひ附
 け折りは後奥の方に返し次に表に準じて裏を縫ひ折り
 目にはすべて鏝をかけ次に表裏の裾口を合せ裏地の甲
 斐絹又は絹等には裾口に細き紙をあて其上を縫ふべし
 折りは裏の方に返し表の裾口を二分五厘裏に返してあ

らく躰をかけ次に裏の投の處に五分幅程の眞直なる布を綴ち附け表の標より一分外と裏の標より五厘内とを合せて之れを縫ひ裏の方に折りをつけ表を五厘程裏の方に折り返して躰をかけ次に前布に前奥を縫ひ附け前奥の方に折り返し次に小褶を縫ひ附け其折りは小褶の方に返し次に表に準して裏を縫ひ後と同じく表の裾口を二分五厘裏に返してあらく躰をかけ次に小褶にて後奥を狭み四つ縫ひになし(左脚は上方六七寸表裏別々に縫ふべし)次に相引の處前布の表裏にて後布の表裏を狭み四つ縫ひになし笹襷の處は表は標より縫代の方に一分裏は標より前幅の方に一分寄りたる所を合せて縫ひ折りは裏の方に返し躰をかけ胯の處は左脚の表裏にて右

脚を狭み眞中五六寸を三つ縫ひに其他を四つ縫ひになして眞中より引き返し縫ひ残りを紘け次に單袴の如く襷を取り壓を置き紐を紘け腰板を拵へ前紐を附け腰を立て紐を疊みて封し置くべし

但し地厚の品は各布の縫ひ合せを返し縫ひになし縫ひ目を割りて鏝をかけ又地薄の品にして表裏同幅なるときは總べて四つ縫ひになすべし

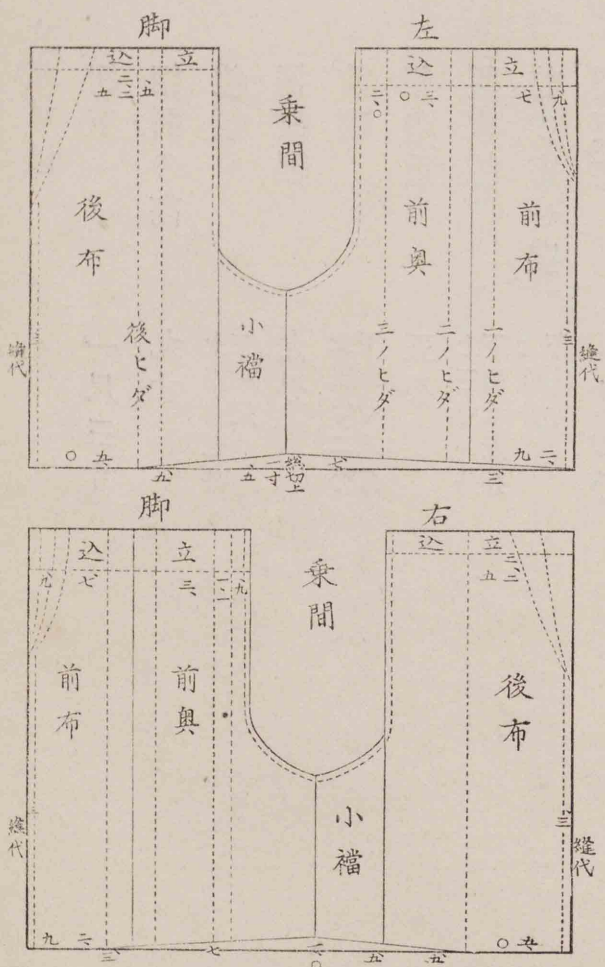
第十二章 小裁中裁男袴

一、常幅長さ一丈の布を以て小裁袴の裁ち方

但し五六歳の小供用

普通裁ち切り寸法

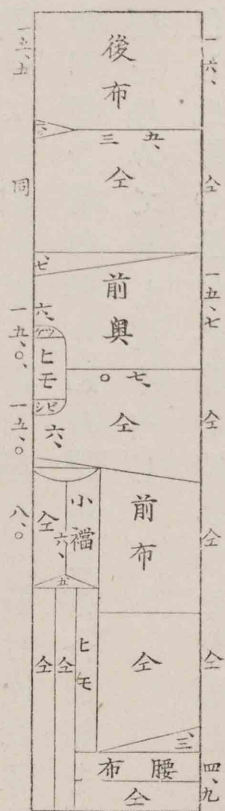
縫ひ合及及び取のり圖



後丈×6一裁連+腰布=總丈
 (總丈一腰布+裁連)÷6=後丈

裁ちの方圖

積り方



後丈	一尺六寸	内切幅五分
前布	一尺六寸	内切五分
前奥	一尺五寸七分	内切七分
小襦	八寸	内切五分
腰布	四寸九分	内切五分
後紐丈	一尺四寸	内切五分
前紐丈	六尺	内切五分

の幅七寸

仕立上寸法

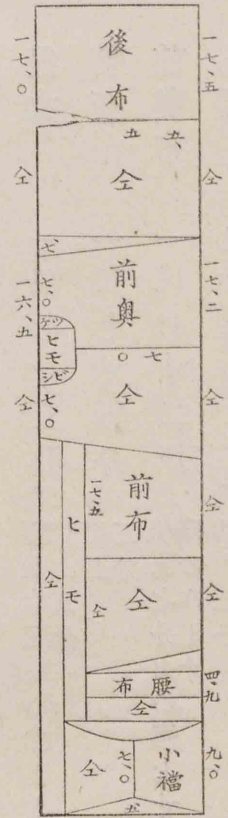
紐下	一尺三寸
相引の高	九寸
後幅	上四寸五分 下一尺
笹襷幅	九分
前幅	上五寸二分 下九寸八分
後の重	五分
腰板幅	上三寸一分 下四寸五分
前の寄せ襷	上五分 下一寸
腰板高	一寸七分
附菱幅	一寸五分
附菱高	九分

縫ひ方順序
縫ひ方順序は總べて前章大人物に同じ以下何れも同様なり

二、常幅長さ一丈一尺八寸の布を以て小裁袴の裁ち方
但し七八歳の小供用
裁ち切り寸法

後丈	一尺七寸五分	内幅五寸五分の處より切上五分
前布	一尺七寸五分	内切上三分
前奥布	一尺七寸二分	内切上七分上の幅七寸
小襠	九寸	内切上五分
腰布	四寸九分	襠の高七寸
後紐丈	一尺五寸	

前紐丈 七尺
裁ち方の圖

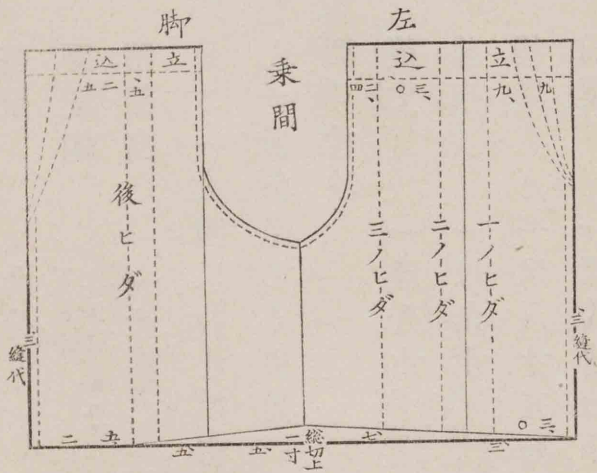


積り方

後丈 $\times 6$ + 腰布 + 小襷 - 裁違 = 總丈
 總丈 - (小襷 + 腰布) + 裁違 = 後丈

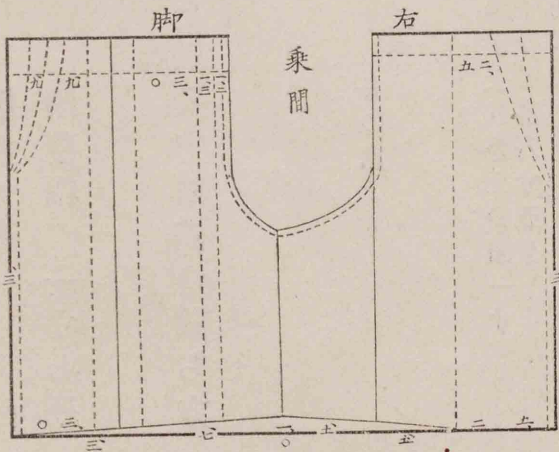
縫ひ合及び襷取りの圖

仕立上寸法



紐下 一尺五寸

相引 一尺五分



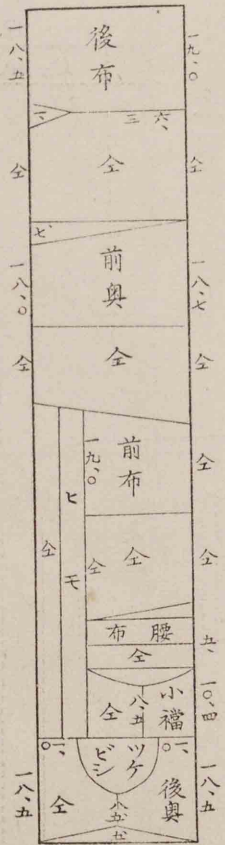
前幅	上五寸六分 下一尺	後幅	上五寸 下一尺四分
前の寄せ襷	上五分 下一寸	後の重	五分
笹襷	九分	腰板の高	一寸八分
腰板幅	上五寸 下三寸四分	附菱幅	一寸七分
附菱高	一寸		

三、常幅長と一丈四尺七寸の布を以て中裁袴の裁ち方
但し十歳餘りの小供用
裁ち切り寸法

後丈	一尺九寸 内幅六寸三分の處より 切上五分
前布	一尺九寸 内切上三分
後奥	一尺八寸五分 内切上五分上の幅一寸 襷の高八寸五分
前奥	一尺八寸七分 内切上七分

裁ち方の圖

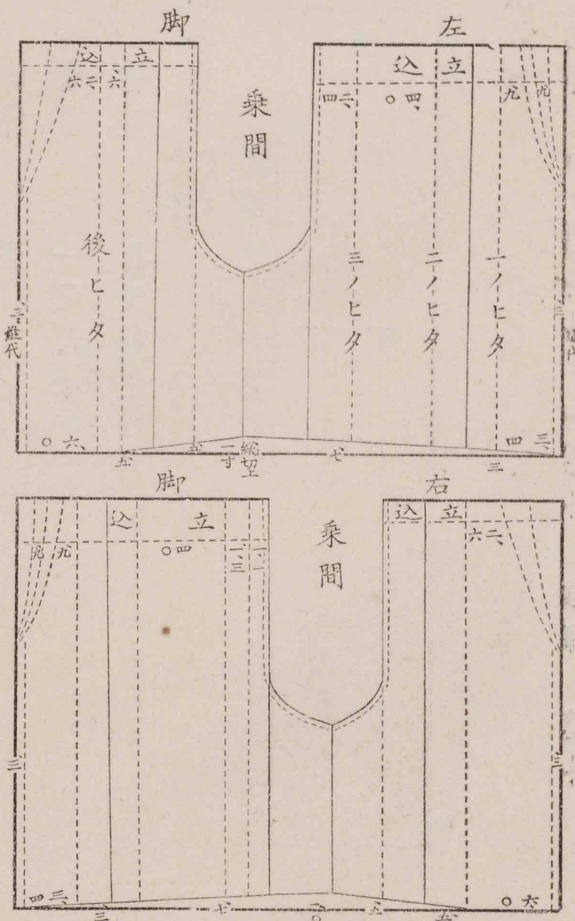
小襠	一尺四分
腰布	五寸
後紐	一尺六寸
前紐	七尺五寸



積り方

後丈×7+腰布丈+小襠丈+裁違=總丈
{總丈-(腰布+小襠)+裁違}÷7=後丈

縫合及び襷取りの圖



仕立上寸法

紐下 一尺六寸五分
 後幅 上五寸二分 下二寸
 後の重 六分
 前の寄襷 上六分 下一寸二分
 腰板の高 一寸九分
 附菱高 一寸一分

四、常幅長一丈七尺五分の布を以て中裁袴の裁ち方
 但し十二三歳の小供用

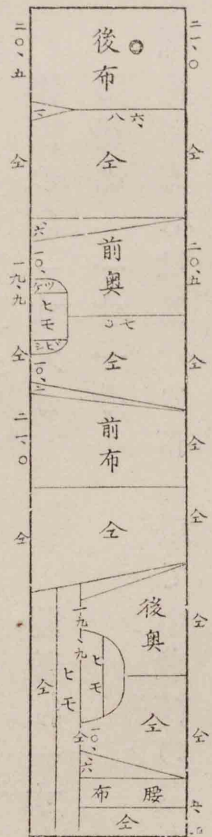
裁ち切り寸法

後丈 二尺一寸 内幅六寸八分の處より
 前布 二尺一寸 内切上五分
 後奥 二尺五分 内切上六分上の幅一寸五分

相引 一尺一寸
 前幅 上六寸二分 下一尺一寸六分
 笹襷幅 九分
 腰板幅 上三寸六分 下五寸二分
 附菱幅 一寸七分

前奥 二尺五分 内切上六分上の幅七寸
 腰布 五寸五分 襦の高一尺
 後紐 一尺七寸
 前紐 七尺五寸

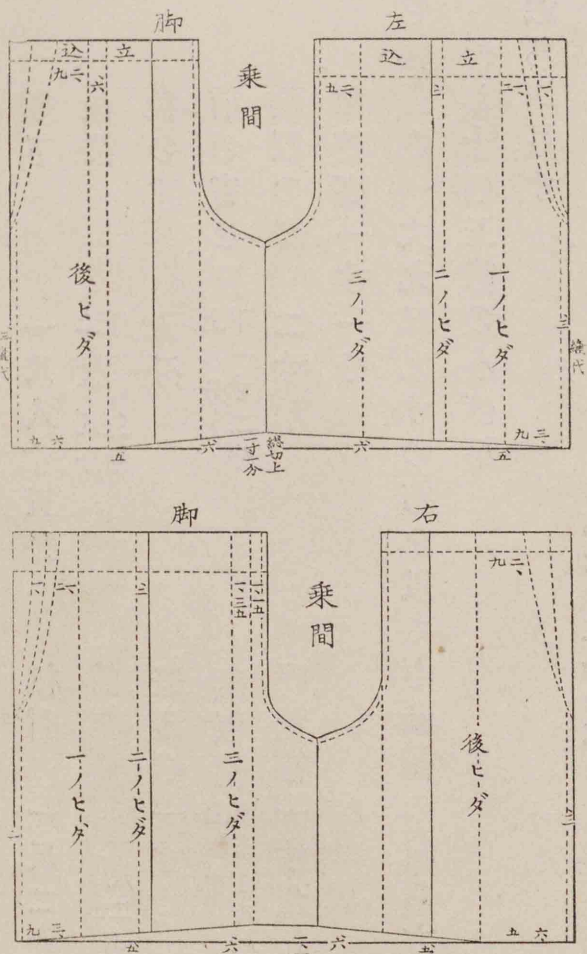
裁ち方の圖



積り方

後丈 $\times 8 +$ 腰布一裁違 $=$ 總丈
 (總丈 - 腰布 + 裁違) $\div 8 =$ 後丈

縫合及び襷取りの圖



仕立上寸法

紐下 一尺八寸五分
 後幅 上五寸八分 下二寸三分
 後の重 六分
 前の寄せ襷 上六分 下一寸二分
 腰板の高 二寸
 附菱高一寸一分
 相引 一尺二寸五分
 前幅 上六寸八分 下一尺二寸六分
 笹襷幅一寸
 腰板幅 上四寸 下五寸八分
 附菱幅一寸九分

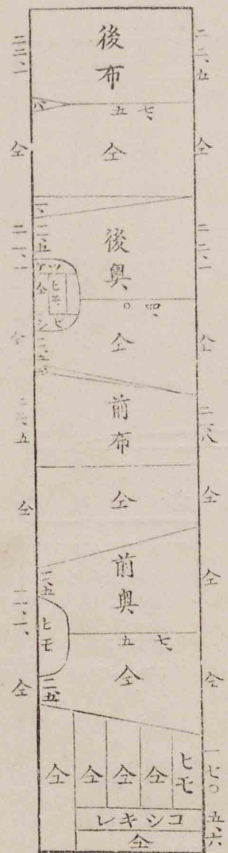
五常幅長と一丈九尺九寸の布を以て中裁袴の裁ち方
 但し十四五歳の小供用

裁ち切り寸法

後丈 二尺二寸五分 内幅七寸五分の處より
 前布 二尺二寸五分 内切上七分 襷の高一分 一尺一寸五分

裁ち方の圖

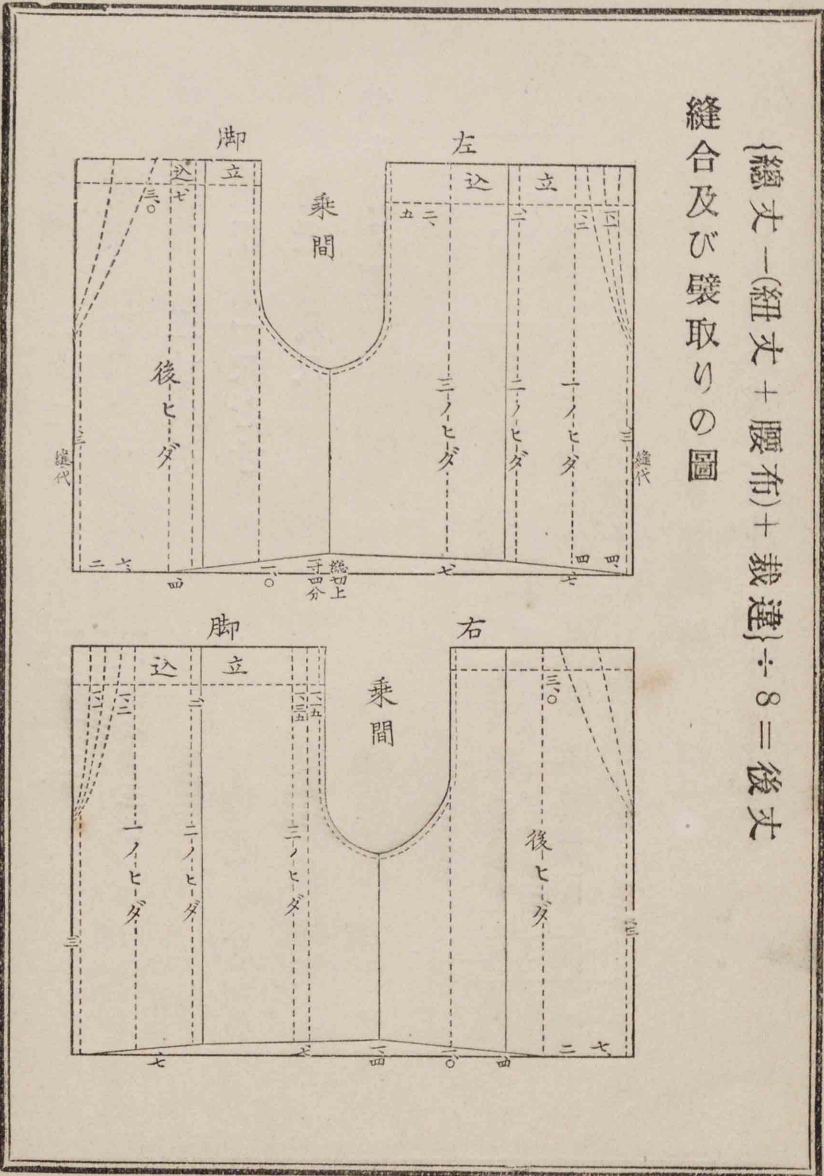
後奥 二尺二寸一分 内切上四分
 前奥 二尺一寸八分 内切上七分
 腰布 五寸六分
 後紐 一尺七寸
 前紐 八尺



積り方

後丈 × 8 = 裁違 + 紐丈 + 腰布 = 總丈

縫合及び襷取りの圖
〔總丈一(紐丈+腰布)+裁違〕÷8=後丈



仕立上寸法

紐下 二尺

後幅 上六寸 下一尺四寸六分

後の重 七分

前寄せ襷 上七分 下一寸三分

腰板の高 二寸一分

附菱高 一寸二分

相引 一尺三寸五分

前幅 上七寸四分 下一尺四寸

笹襷幅 一寸一分

腰板幅 上四寸 下六寸

附菱幅 二寸

注意 以上掲けたるは何れも普通の裁ち方なれども
 尙此他にも數種の方法あり又用布の長短により自
 ら裁ち方を異にせざるべからざることあり宜しく
 其場合に應じて適宜斟酌すべし
 縫ひ方は大方大人物に同じ但し小供物にて立込二

寸以上もある時は先づ襜の布に揚をなし然る後他の布とはぎ合すべし

袴各部の寸法割り出し方

袴各部の寸法は前に示したる如くなれども尙此他にも長短大小の異りたるものを裁縫することあるべきを以て左に其大凡の割り出し方を示すべし

紐下 衣服の着丈に男物はコンマ六を乗し女物はコンマ七を乗す

襜の高さ 紐下の三分二より一寸を減す

但し小供物は二寸若くは二寸五分を減す

相引の高さ 紐下の三分二に男物は五分を加へ女物は一寸を加ふ

但し小供物は紐下の三分二とす

乗間 八寸以上一尺以下

但し小供物は其大小に準し六寸以上八寸位までとす

後幅 着物の後幅に同じ

脇襷 後幅の五分の三

上の寄せ襷 男物は後幅の十分の一女物は之れに二分を加ふ

下の寄せ襷 後幅の五分の一より一分を減す

笹襷 脇襷幅の四分の一

袴腰 幅は後幅の四分三に五分を加へ高は幅の三分一に一分或は二分を加ふ又上の幅は下の幅の六分一を左右に於て斜に裁ち落したるものとす

附菱 幅は腰板幅の三分一高は腰板の高の二分一に二分を加へたるものとす

第十三章 帶仕立方

第一 丸帶

布の伸び縮みを直し(兩側の縫代の處はや、伸はし置く)表を中にして幅を二つに折り小供帶の時の如く待針を打ち假綴をなし幅及び兩端に標をつけ真中帶幅程を残して豎を半返に縫ひ縫ひ目を割りて鍔をかけ(地質軟かきものは一針抜きに縫ひ縫ひ目も割らずして片返になすべし)次に兩端を半返に縫ひ此處に亦鍔をかけ角を綴ち次に心は帶

の縫ひ込みたけ狭く裁ち落とし真綿を引きて帶の上に載せ友色の糸を二本に割りてあらく表に綴ち附け(表の方に糸を出さぬ様にすべし)引き返して鍔をかけ縫ひ残りを細かに衞け仕上をなすべし

但し布の取扱方心の拵へ方弛めかげん飾糸の掛け方等は上巻第七章及第十四章を参照すべし

第二 男帶

布の伸び縮みを直し表を中にして二つに折り幅を度り標を附け横の兩端を極め縦に標の通り折りを附け鍔をかけ次に丸帶の如く心拵へをなし友色の糸を割りて表に綴ち附け兩端を半返に縫ひ引き返して角を整へ縦の折り目を合せて待針をなし極めて細かに衞け火熨斗若くは鍔をか

けて仕上をなし壓を置き八つに疊み真中一寸兩端五分幅程の細紙にて三所を封し置くべし
 此他つきじんの仕立方とて前の仕方と異なるものあり品によりては此法を用ふることもあれば左に之れを述ぶべし
 布の伸び縮みを直し真中より二つに折り假綴をなし幅及び兩端を極め縦を半返若くは一針抜きに縫ひ縫ひ込みを折りて鏝をかけ引き返して表を出し前の如く心を拵へ豫め丈をはかりて弛みを入れ(一寸五分程)其一端を帶幅丈の厚紙にて狭み能く之れを綴ち又厚紙の他端には帶の長さに等しき細き紐を附け先つ之れを帶に通し其紐を引きて心の中に送り兩端を持ちて充分に引き心の中にてつれぬ様になし紙及び紐を取り兩端を丁寧

折り鏝をかけ極めて細かに拵け上げ前の如く仕上をなすべし

第十四章 小袖仕立方

標附け方縫ひ方共に大方木綿物に同しく只其異なる所は標の附け方に於て裏袖丈をや、少くつむると(木綿物は五厘)縫ひ方に於て女物ならば最初に袖の八つ口を縫ひおくと
 の差あるのみなり而して八つ口には稍弛めに裏の方に真綿を置きて縫ひ目に綴ち附け表を返してあらく躡をかへしかく八つ口を縫ひたる後に綿を入るゝには先つ表裏の兩前を中の方へ折り込み表の脊を上にして下に置き裾口四五寸上七八寸程綿を出して稍弛めに其上に載せ木綿

物の如く衽綿を拵へ裾綿を返して之れをくるみ肩の處より手を入れ兩脇の裾口を綿と共に持ち引き返して表の前身頃を下に裏の前身頃を上にして能く引き合せ次に左の裏袖を返して表の外袖の上に綿を入れ裏袖を載せ其上より前身頃にかけて綿を入れ衽綿をくるみ袂先及び衽下を拵へ表の前身頃を引き返し次に下前も同じ仕方にて入れ總體終らば表裏の縫ひ目を合せて能く引き合せ衽に假綴をなすべし但し眞綿の分量は一枚に就き凡そ二十五匁乃至三十匁を要す又拵け方も大方木綿物に同じ但し針目はやゝ細かに衽は衽下を拵る前に綿と共に中より綴ち次に袂先一寸程を縫ひそれより衽下を拵けつくべし
男物は八つ口なき故綿の入れ方木綿物に同じく又女物に

ても場合によりては八つ口を拵ることあれとも縫ひたる方仕上宜しき故絹布類は大方最初に縫ひ置くを良しとす斯くして總體仕立終らば火熨斗をかけ仕上をなす
重ね物下着のつめ方

- 袖丈 上着より三分 同幅一分
- 同口明 上着より一分五厘
- 同附 女物は上着より一分男物は二分
- 身丈 上着より一分
- 後幅 同前
- 前幅 同前
- 抱幅 同前
- 衽肩明 同前

衿丈 左右各二分
行き 上下同様

此他脇縫の處裾口より一尺程上より裾口までの間に於て一分をつめ又三枚重等の如き綿の厚きものは更に脊の裾口にて亦一分をつむ但し縞物は裾口にて曲くること能はざる故前幅にて三分をつむべし
以上は畧ほ同質のものに就ての割合にして若し其地質に硬軟の差あるときは又多少斟酌せざるべからず即ち下着の地質上着の地質より硬きもの例へば縮緬の下に羽二重を重ねる時の如きは却て下着の丈を一分若くは二分を長くせざるべからず之れに反して下着の地質いたく軟かなる品なるときは二分若くは三分をつめざる

可らざるか如し此は身の丈のみならず袖丈行き等も亦此割合に準して増減すべし

第十五章 夜着

第一 裁ち方積り方

用布 表並幅二丈八尺五寸 裏四丈六尺九寸
普通裁ち切り寸法

表

袖丈	一尺七寸	身丈	四尺
衿肩明	三寸	衿下	一尺六寸
衿幅	五寸五分	衿下り	四寸
燧布	五寸		

裏

袖丈	一尺七寸	奥袖丈	一尺六寸
身丈	六尺	衿肩明	三寸
衿丈	五尺六寸	衿下	三尺六寸
衿幅	五寸五分	衿下り	四寸
燧布	五寸		

裁ち方の圖

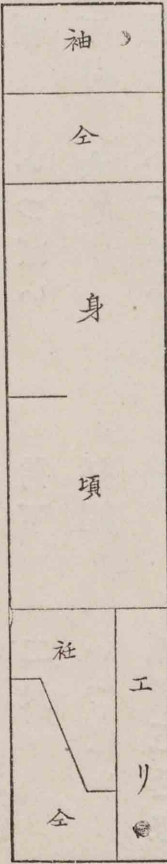


積り方

袖丈 × 4 + 身丈 × 4 + 衿丈 + 衿下 + 燧布 = 總丈

{總丈 - (袖丈 × 4 + 衿下 + 燧布) + 衿下り} ÷ 5 = 身丈
 {總丈 - (身丈 × 4 + 衿丈 + 衿下 + 燧布)} ÷ 4 = 袖丈

裏



足し
きれ



積り方

(袖丈 + 奥袖丈 + 身丈) × 4 + 衿丈 + 衿下 + 燧布 = 總丈
 總丈 - {(袖丈 + 奥袖丈) × 4 + 衿下 + 燧布} + 衿下り = 身丈

總丈一(身丈×4+衽丈+衿下+燧布+燧布の長)
8
= 奥袖丈

奥袖丈+1, = 袖丈

第二 普通仕立上寸法並に綿の分量

袖丈	いつぱい	同幅	いつぱい
身丈	いつぱい	後幅	いつぱい
前幅	いつぱい	衿下	二尺
衽下り	六寸	衽幅	いつぱい
衿幅	いつぱい	綿	貳貫五百匁
眞綿	十匁	肩當	三尺七寸
掛衿	三尺		

第三 標附け方

標附け方の順序は大方綿入に同じ 但し裏袖の袖下は幅の中程より斜にまげて奥袖丈と同じ長さ標し又裏の身幅は後前とも裾口を除くの外總べて表より一分を減し置くべし

第四 縫ひ方順序

- 一、袖 表裏の袖を合せて口明きを縫ひ五厘の着せにて表の方に折り襷をかけ次に表袖の附の方に燧ぎれを入れ袖下を縫ひ隠襷をかけ次に裏の奥袖に燧ぎれを附け亦袖下を縫ひ隠襷をかく
- 二、身頃 表身頃の脊脇及び衽を縫ひ襷をかけ袖を附け次に裏も表と同じく縫ひ裾を合せ折りは表の方に返し隠

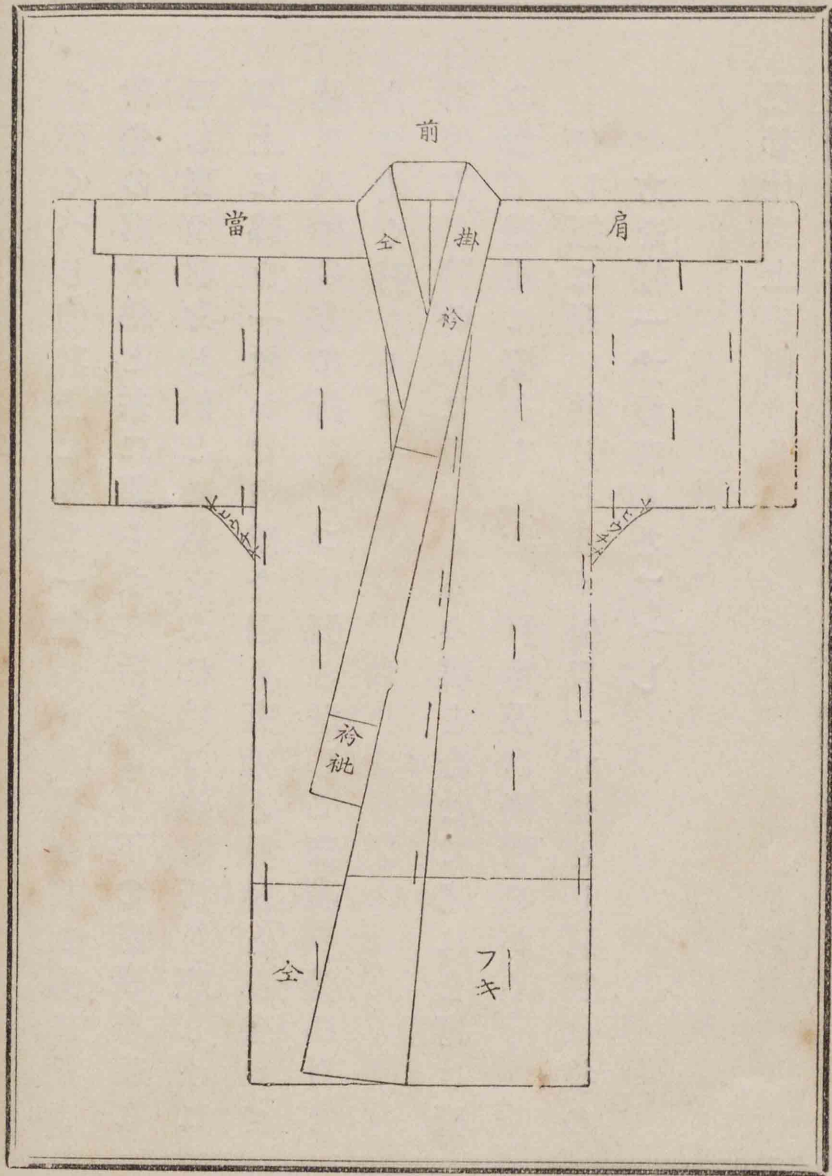
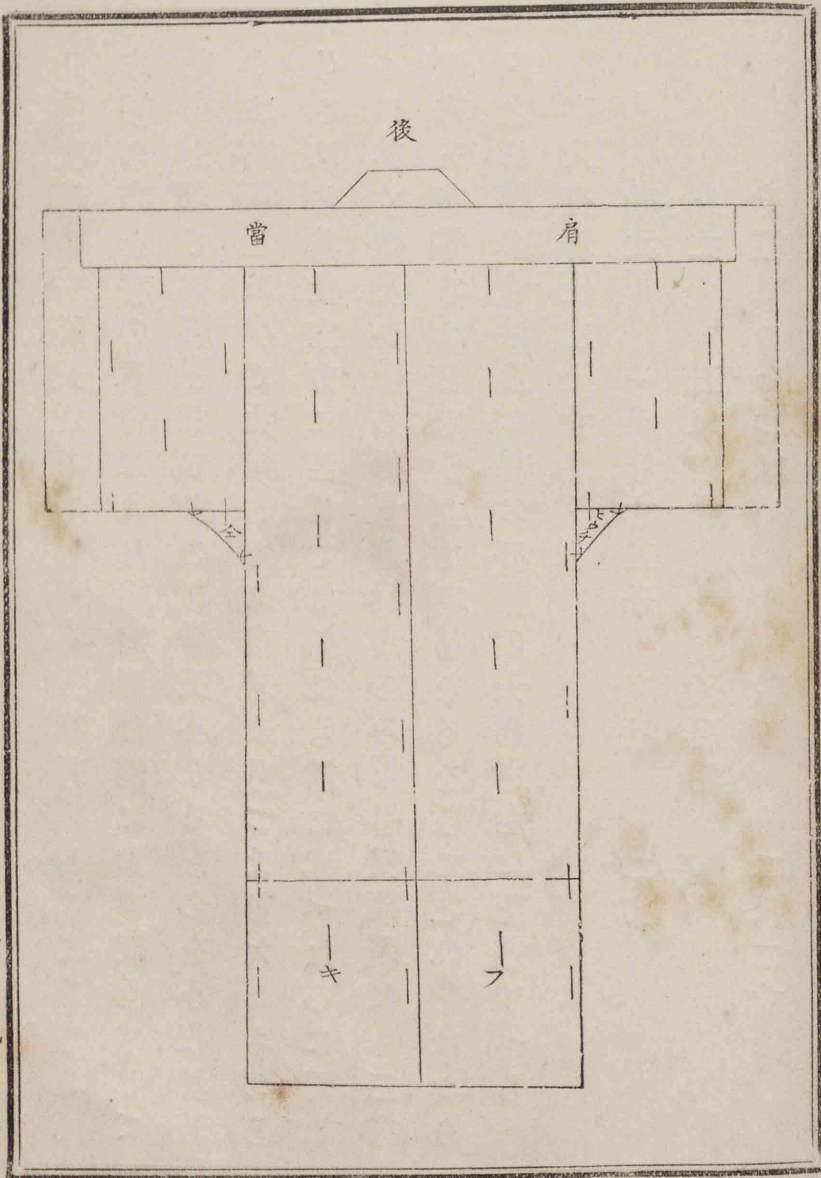
襖をかけそれより衿下を縫ひ表に返して隠襖をかけ表裏の衿先をはぎ表に返して亦隠襖をかけ表裏の衿を附け縫ひ始め及び縫ひ終りに四つ留をなし衿幅を極め裏衿幅は表衿幅より一分をつむ次に左右の衿先四五寸程を縫ひ裏の方に折り隠襖をかけそれより表裏とも裏を返して疊み置くべし

三、綿の入れ方 裏身頃の衿先を縫ひたる處より上を裾口の方に返し表身頃の後身を出して下に置き衿先より下は左右の前身も平にひろげ脊中より裾口及び衿下衿先等に綿を入れ裾口及び衿下は五六寸袖口及び衿は三四寸程出し置き程能く重ねたる後丈より一寸程出して之れを折り返し折り目の處へは中に狭き綿を二三枚多く

れ置くべし尚其上に綿を一枚かけ真綿を引き裾口、衿下衿先の處を綿と共に綴ち次に衿先より下の處裏を表に返し裏の前身と袖とに綿を入れ袖口綿を折り返し次に其上に綿を一枚かけ真綿を引き裏袖と奥袖とを合せて縫ひ裏袖の方に折りをつけ引き返して表裏の縫ひ目を合せ能く引き伸すべし

四、衿の表に綿をくるみ裏を合せて之れを縮け圖の如く總體に綴をなし次に肩當及び掛衿をかく但し綴は間の隔り七八寸針目一寸位とし肩當は後の方を幅一寸程廣くなすべし

夜着仕立上の圖



此他夜着の一層大なるものを脊入夜着と云ひて表裏とも半幅の布を脊の真中に入れ衿肩明は別に裁ち切らすして此布を以て衿肩となすものあり又小なるものを小夜着若くは搔卷かきまきと云ひて丈幅ともに夜着よりつまりたるものありされど其仕立方に至りては何れも前に述べたるに同じく只其寸法及び綿の分量等異なるのみなり又蒲團にも三布四布五布等あれとも仕立方容易なるを以て之れをはぶき只之れ等の寸法及び綿の分量の大凡を左に記載すべし

脊入夜着仕立上寸法
 袖丈 一尺七寸五分 裏袖 二布
 身丈 五尺五寸 衿肩明 四寸
 身幅 一尺七寸五分 衿下 二尺二寸

衿下り 七寸 衿幅 五寸

小夜着仕立上寸法 綿 三貫匁

袖丈 一尺五寸 裏袖 一布半

身丈 四尺八寸 衿肩明 二寸八分

身幅 一尺八寸 衿下 一尺八寸

衿下り 五寸五分 衿幅 四寸五分

衿幅 二寸五分 綿 二貫匁

搔卷仕立上寸法

袖丈 一尺四寸五分 裏袖 一布半

身丈 四尺五寸 衿肩明 二寸七分

後幅 八寸五分 前幅 七寸五分

衿下	一尺七寸	衿下り	五寸五分
衿幅	四寸五分	衿幅	二寸五分
綿	一貫三百匁		
三布薄團			
丈	四尺七寸		
綿	一貫匁		
四布薄團			
丈	五尺		
綿	一貫二百匁		
五布薄團			
丈	五尺		
綿	一貫五百匁		

第十六章 單重

單の重に本重半重の二種あり本重とは並の單衣の下に今一枚下の單衣を重ねたるものにて半重とは胴は上の單衣一枚にて袖衿腰下(二尺七寸程)のみ重を附けたるものなり此は畧様なれとも重の汚れたる時など之れを取りはつすことの容易なると胴は一枚故本重より涼しきとを以て屢着るものには此仕立方を用ふることあり又本重半重共に其裁ち方及ひ標の附け方は並の單衣に同じく只縫ひ方に於て異なるのみなり左に其順序を説明すべし

第一 本重

一袖 上着の袖に袖口をかけ口明を留め袖口きれのある

所まで口明の下を返縫になし次に袖口の奥を表に紵け
附けそれより重も上着と同様に袖口を縫ひ其縫ひ留り
の縫代の處に切り込みを入れ縫代を反對に出して上着
の裏と合せ袷の袖の如く四つ縫になし八つ口の處は二
寸程別々に縫ひ標の通り袖幅の折りを附け上着の八つ
口を紵け次に重の八つ口を折りて上着の折り込に紵け
附くべし

二、身頃 上着の四裾を幅三分位に三つ折りになし三分の
針目にて別々に之れを紵け脊及び脇を縫ひ次に重も上
着と同様に縫ひ脊脇の縫ひ込みは裾口の所を斜めに折
りて之れを綴ちそれより上は能く縫ひ目を合せて袷の
如くに綴ち脇明を留め身八つ口を縫ひ次に袖附の處を

四枚共に糸留をなし上着の身頃と袖とを合せて之れを
縫ひ折りは袖の方に返し次に重の袖を附け折りは身頃
の方に返し上着及び重の前幅を揃へて衽附の處を躡に
てあらく綴ち次に衽の裾及び衿下五寸程を紵け上下の
衽にて前身を狭み一針ぬきに四つ縫になし上着の方に
折りを附け次に相褻の一寸程上より裾口の紵け置きた
る所まで上着と重との衿下を共に紵け次に衽の衿附の
處を能く揃へてあらく綴ちそれより上着の表衿と裏衿
とを揃へて左右の衿先を縫ひ之れを重の表衿と合せて
三枚共に上着の表身頃の方に當て又重の裏衿は重の表
身頃の方に當て上下の身頃を狭みて待針をなし一針ぬ
きに衿を附け重の衿先を縫ひ裏の方に返して縫代を綴

ち衿幅を極め裏衿を一分五厘ひきて紵け次に上着の衿と重の衿との裾口の處角より左右へ三寸五分ばかりの間を耳紵のときの如き針づかひにて針目一寸程になして斜に綴ち置くべし

第二 半重

一、袖 本重に同じ 但し袖下の四つ縫の處は取りはつしに便利なる様上下別々に縫ひ次に縫ひ目を合せて綴ち附くべし

二、身頃 上着は並の單衣の通りに縫ひ重は衿下、裾及び後前の四裾を別々に裾かけをなし脊、脇及び衿を縫ひ上を折りて隠躰をかけ次に重の表裏の衿にて衿の相襷の上を狭み之れを縫ひ衿縮をなし次に上下の脊、脇及び衿の

縫ひ目を上着の縫ひ目に綴ち附け胴の處は折りて紵け附け次に重の衿附を上着の衿附に綴ち附けそれより上着の袖を附け其縫ひ込の上に重の袖附を紵けつくべし

第十七章 比翼

第一 部分縫

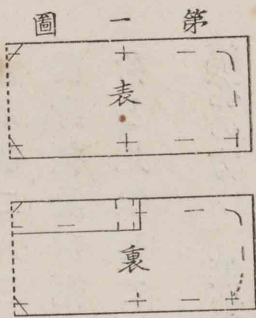
袖 前縫 燧の入れ方、衿の附け方、衿の附け方、

比翼とは胴は一枚の小袖にて袖口、八つ口、衿裾の廻りなど外にあらはるゝ所のみ二枚若くは三枚を重ねたるものにて之れに本比翼附比翼の二種あり附比翼は通常の小袖の下に比翼を綴ち附けたるものにて半重の如く略様の仕立方なれとも取りはつしの容易きか故に場合によりては此

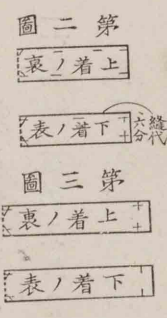
仕立方を用ふることあり又本比翼は其仕立方いたく複雑せるものにて容易に了解し難きを以て先づ其肝要なる部分に就きて部分縫をなすべし而して此部分縫に用ふる布は前に使用せる部分縫用布の外に一尺八寸の袖口ぎれ(しま)二枚を要す

一、袖

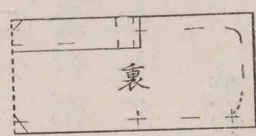
標附け方 二尺五寸の運針用布二枚を取り表裏の袖と見做し裏袖の上に袖口を載せ山丈口明附幅の標を附け(第一圖)次に袖口ぎれ二枚を取り一枚を上着の裏一枚を下着即ち比翼の表と見做し表を中にして各之れを二つに折り山口明縫代の標をつく(第二圖)次に半幅の用布二枚を取り上着の裏八つ口及び比翼の表八つ口と見做し



第一圖



第二圖



第三圖

表を中にして二つに折り縫代及び附の標をつく(第三圖)

但し各部のつめ方は裏袖は附の方二寸ばかりの間に於て斜に三分をつめ又袖口布の上着の裏は五厘比翼の表は一分五厘裏は二分八つ口きれの上着の裏は一分五厘比翼の表は二分をつむべし

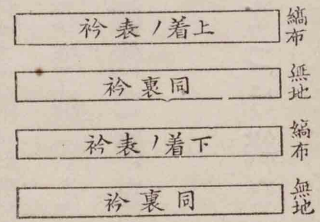
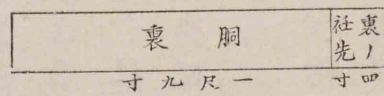
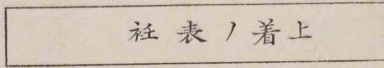
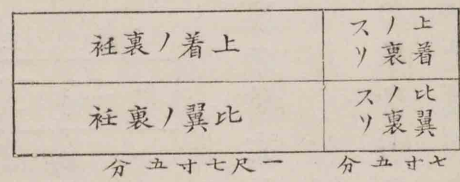
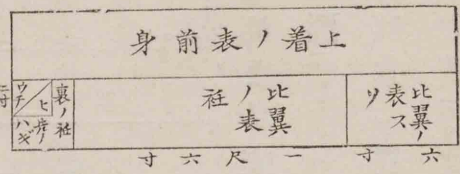
縫ひ方 裏袖に袖口を掛け表裏の袖を縫ひ駢を掛け次に上着の裏袖口及び比翼の表袖口の口明下を縫ひ二枚揃へて其奥を縫ひ之れを裏袖の袖口をかけたる縫ひ目に綴ち附けそれより上着の裏八つ口布と比翼の表八つ

口布との下を縫ひ幅を合せて亦其奥を縫ひ次に比翼の
八つ口明を縫ひ躰をかけ奥の方を二枚共に裏袖に縫ひ
附け(裏袖の表には極めて小針に出す)次に上着の八つ口
明を縫ひ躰をかけそれより上着下着共に表裏の口明下
の縫ひ目を合せて綴ち置くべし

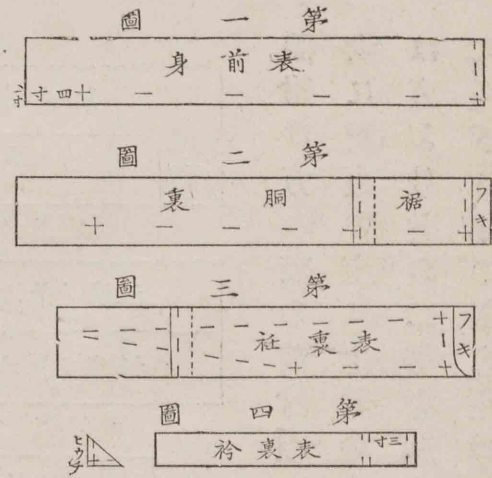
二、前縫 燧の入れ方 衿の附け方 衿の附け方

衣服各部の部分縫は比翼の前縫にて終るが故に二尺五
寸及び二尺三寸の運針用布を圖の如く裁ち切り表裏の
前身衿及び裾の廻りと見做し別に袖口ぎれ四枚を取り
衿と見做して標をつくべし

縞布の方 無地布の方



標 附 け 方 表の前身頃に丈衿下り幅の標を附け(第一圖)
次に胴裏の上に上着の裏裾及び比翼の裏表裾を載せ(表
は裏より衿の二倍を減く)胴はぎの標をなし表に準して
丈衿下り幅の標を附け(第二圖)次に裏衿を二枚揃へて衿



それより表裏の衿丈及び燧布に縫代の標をつくべし(第四圖)
 縫ひ方 表の前身頃に衿及び衿をつけ熨をかけ次に上着の裏裾及び比翼の表裾に燧布を入れ下着の裏燧裾と

先布の上に乗せ縫ひの標をつ
 け次に表衿を二枚揃へ衿の二
 倍をひきて亦其上にのせ丈幅
 相襷幅及び衿附の標を附け(第
 三圖)次に裏衿を二枚揃へて下
 に置き衿先さを其上に載せ
 縫ひの標を附け(部分縫には衿
 先ぎれなきゆへそら縫とす)

衿先とを合せて之れを縫ひ折りは衿先の方に返し縫熨
 をかけそれより上着の裏及び比翼の表裏の衿を凡そ三
 四寸程附け置き上着及び下着の裾を合せ襷を拵へ次に
 下着の裏裾と胸裏とを合せて表裾の燧されのある處ま
 てはぎ此處よりは表裏の裾三枚と胸裏とを合せてはぎ
 折りは胸の方に返し縫熨をかけ上着の裏衿及び比翼の
 表裏衿を燧布の處まで別々に縫ひ縫ひどまりの處は前
 身頃を狭み四枚合せて留をなしそれより衿三枚と胸裏
 一枚とを合せて之れを縫ひ次に衿先布の標の處をそら
 縫ひになし折りは裏衿の方に返し縫熨をかけ衿先の處
 は表裏とも衿先布のある所まで別々に縫ひ次に裏身頃
 の表に下着の表衿を合せて己れの方に裏に上着の裏衿

と下着の表衿とを合せて向ふになし衿先布の縫ひ終りの所六枚合せて留をなし此處よりは衿三枚と衿とを共に縫ひ表の衿下に躰をかけ上着及び下着の裾に綿を入れ假綴をなし次に上着の表衿の縫ひ目を裏衿の附の處に極めて小針に出して綴ち附け衿先に留をなし衿下を縮け衿先を縫ひ衿を縮け仕上をなすべし

第二 裁ち方積り方

一、並幅長さ六丈(凡一匹)の布を以て女服無垢上着並に比翼

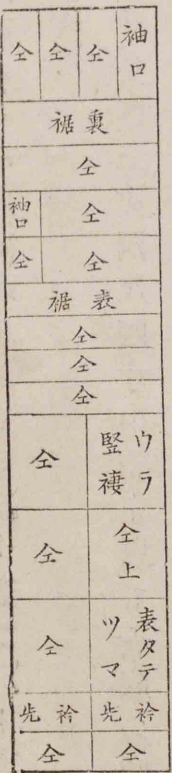
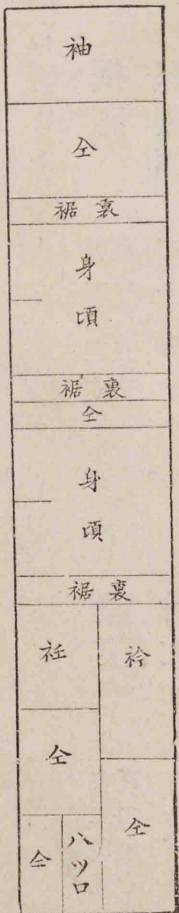
の裁ち方

普通裁ち切り寸法

袖丈 一尺六寸五分
 衿下り 四寸五分
 身丈 四尺一寸
 衿丈 四尺九寸

裁ち方の圖

衿肩明 二寸五分
 裾廻 表一尺三寸 裏一尺五寸
 八つ口丈二尺五寸
 袖口丈 一尺五寸
 豎襖 表二尺四寸 裏二尺六寸
 衿先布 四寸五分



積り方

(袖丈 + 身丈 + 表裾の丈) × 4 + 裏裾の丈 × 8 + 衿丈
 + 裏豎襦 × 2 + 表豎襦 + 八〇口丈 + 袖口丈 + 衿先
 × 2 = 總丈

二幅一尺二寸長さ三丈四尺四寸の布を以て女服の廻無垢
 比翼の裁ち方
 裁ち切り寸法

裾廻	表一尺三寸 裏一尺五寸	豎襦	表二尺五寸 裏二尺七寸
豎襦幅	四寸八分	衿丈	五尺
衿幅	三寸五分	袖口丈	一尺五寸
八つ口丈	上着の分三尺六寸 比翼の分二尺七寸	掛衿丈	一尺八寸
掛衿幅	四寸五分	衿先	六寸

裁ち方の圖

積り方

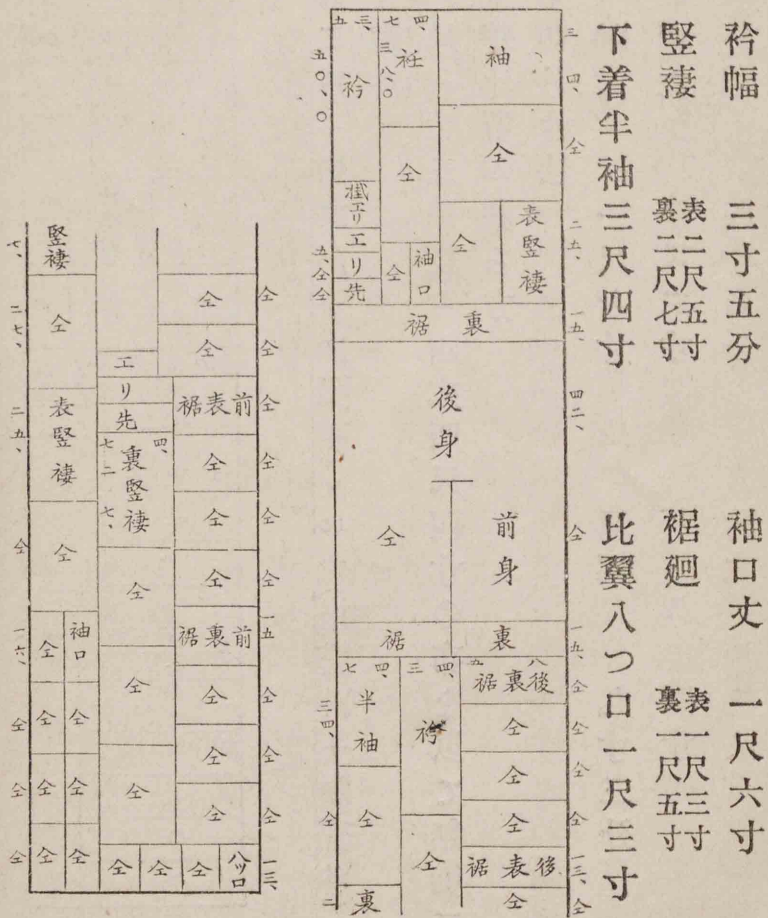
袖口	全	袖口	全	表	全	裏	全	衿	全
全	全	全	全	表	全	裏	全	衿	全
全	全	全	全	表	全	裏	全	衿	全
全	全	全	全	表	全	裏	全	衿	全
全	全	全	全	表	全	裏	全	衿	全
全	全	全	全	表	全	裏	全	衿	全
全	全	全	全	表	全	裏	全	衿	全
全	全	全	全	表	全	裏	全	衿	全
全	全	全	全	表	全	裏	全	衿	全
全	全	全	全	表	全	裏	全	衿	全

(袖口丈 + 掛衿丈 + 裏豎襦) × 2 + (表裾丈 + 裏裾丈) × 8
 = 總丈

三幅一尺七寸五分長さ四丈四尺四寸の布を以て無垢三枚
 重下着比翼の裁ち方
 裁ち切り寸法

袖丈	一尺七寸	同幅	九寸三分
身丈	四尺二寸	衿下り	四寸
衿幅	四寸七分	衿丈	五尺

裁ち方の圖



積り方

袖丈 $\times 4$ + 身丈 $\times 2$ + 裏裾丈 $\times 10$ + 表裾丈 $\times 8$ +
 表堅襖 + 八つ口丈 = 總丈

第三 標附け方

- 一、袖 總べて部分縫に同じ
- 二、身頃 表身頃に小袖の通り標を附け次に上着の裏裾及び比翼の表裏裾を別々に揃へて標を附け(上着より後幅を一分前幅を一分脇の裾口を二分ひく)又表に準して胴裏の標を附け次に裏衽四枚揃へて衽先布の上に載せ繼ぎの標を附け表衽を四枚揃へ衽の二倍をひきて其上に置き標を附け次に表衽を各丈を二つに折りて山及び丈の標を附け次に裏衽の丈を二つに折り衽丈の位を見て

衿先きれを置き繼ぎの標を附け夫れより燧ぎれを四枚揃へて縫代の標をつくべし

但し燧ぎれは上着の方へ附くるものは裏と同しく比翼の方へ附くるものは表若くは胴ぬきと同じ布地を用ふべし又其寸法は凡そ三寸程を可とす

第四 縫ひ方順序

一、袖 總べて部分縫に同じ

二、身頃 表身頃及び胴裏を小袖の如く縫ひそれより裏表の裾廻の脊脇をはぎ胴裏及び裾廻に前幅の標を附け次に前裾の上の衿附の處に表裏とも燧布を入れ下着の裏豎襷と衿先とを合せて之れを縫ひ折りは衿先の方に返し縫襷をかけそれより上着の裏及び比翼の表裏の衿を

凡三四寸程附け置き上着及び下着の裾を合せ襷を拵へ次に下着の裏裾と胴裏とを合せて表裾の燧ぎれのある處まではぎ此處よりは表裏の裾三枚と胴裏とを合せてはぎ折りは胴の方に返し縫襷をかけ上着の裏衿及び比翼の表裏衿を燧布の處まで別々に縫ひ縫ひとまりの處は前身頃を狭み四枚合せて留をなしそれより衿三枚と胴裏とを合せて之れを縫ひ次に裏衿に衿先きれをはぎ表裏共に衿先布のある處まで別々に縫ひ留をなし其他は部分縫の通り衿三枚と裏身頃とを合せて之れを縫ひ次に表豎襷に襷をかけ脇明を留め之れを縫ひ次に袖附の處を六枚揃へて留をなし表袖をつけ折りは袖の方に返し次に裏袖を附け折りは身頃の方に返し袖口に含み

綿をなし裏を出して疊み置くべし

三、綿の入れ方 表の後身を出して下に置き小袖の如く襷綿をくるみ次に衿肩の處より手を入れて裾口と綿とを共に持ち引き返して前身頃及び袖に綿を入れ表を返して表裏の縫ひ目を能く引き合はすべし

但し比翼は口綿にて宜しき故裾通り及び衿下には紵けつくる前に別に入るべし若し比翼にも綿を入れるときは最初比翼にのみ入れ置き然る後前の如く總體に入るゝなり

四、紵け方 すべて小袖に同じ

附比翼

標附け方は本比翼に同じく縫ひ方は先づ通常の小袖の

如く上着を拵へ次に袖及び身頃の比翼の廻りを拵へ之れを上着に綴ち附くべし

第十八章 股引及び半股引

第一 股引裁ち方積り方(袴)

用布 表幅九寸五分長さ一丈五寸 裏八尺八寸 襷先に殘布をはぐ
普通裁切り寸法

丈	二尺五寸	膝上	八寸
身幅	上六寸四分	下八寸	<small>凡四寸の間具直切上は左 右一寸を除き具中八分</small>
胴廻	一尺九寸		
同幅	後八寸	前三寸	<small>上より六寸下りたる處 に於て幅五寸五分程</small>
裾幅	裾口五分	<small>凡四寸程の 間まつすぐ</small>	こむら一寸

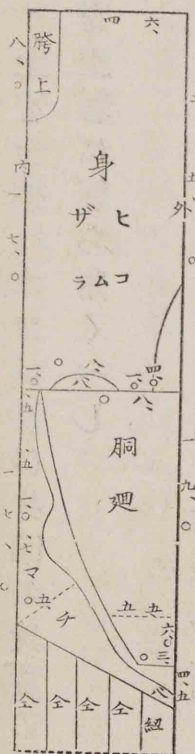
紐丈 膝七分 股五寸 上八分
五尺五寸

但し膝は膝下の長さより縫代及び切上の分一寸を
除き之れを二分して其一部分より一寸程上り
たる所

腓腸は膝より裾口に至る長さ(前の如く一寸を除く)の三分一
下りたる所

裁ち方の圖

表、布丈二つ折り



裏は紐を除くの外すべて表に同じきを以て先づ表を裁ち次に之れを裏布の上に載せちよく若くは篋にてすちを附け標の通りに之れを裁ち切るべし

積り方

表 (身丈+四圍)×2+17, = 總丈

裏

(身丈+四圍)×2 = 總丈

第二 同縫ひ方順序

裏襠の裾口を表より一分出し表を見て並の縫代にて縫ひ裏の方に折りを附け引き返して表を裏の方に五厘返し次に身の裾口も裏を一分出して縫ひ縫代につれぬ様切上の

處に五分間位に切り込みを入れ裏の方に折りを附け引き返して襜と同じく表を裏の方に五厘返し次に身の布を以て外襜を挟み裾口より之を縫ひ(裾口三寸程の間は糸襜とて極めて細く襜を入れ身頃と同じ張りにて縫ひこむらの處は襜を膝の處は身を少しくゆるめ股の處は少しく外襜をはる)次に内襜の方も身の布を以て襜を挟み裾口より之れを縫ひ引き返して縫ひ目を正しくなしそれより胴廻しの斜なる方を以て身を挟み廣き方の後に狭き方を前にして之れを縫ひ次に其真直なる方の裏を一分出して縫ひ裏の方に折りを附け引き返して表を出し前の胴廻しの縫ひ目を八分程交へ(四寸六分程の重り)左を上を右を下にして合せ縫代淺く假縫をなし次に紐をはぎ右の方を四五寸長

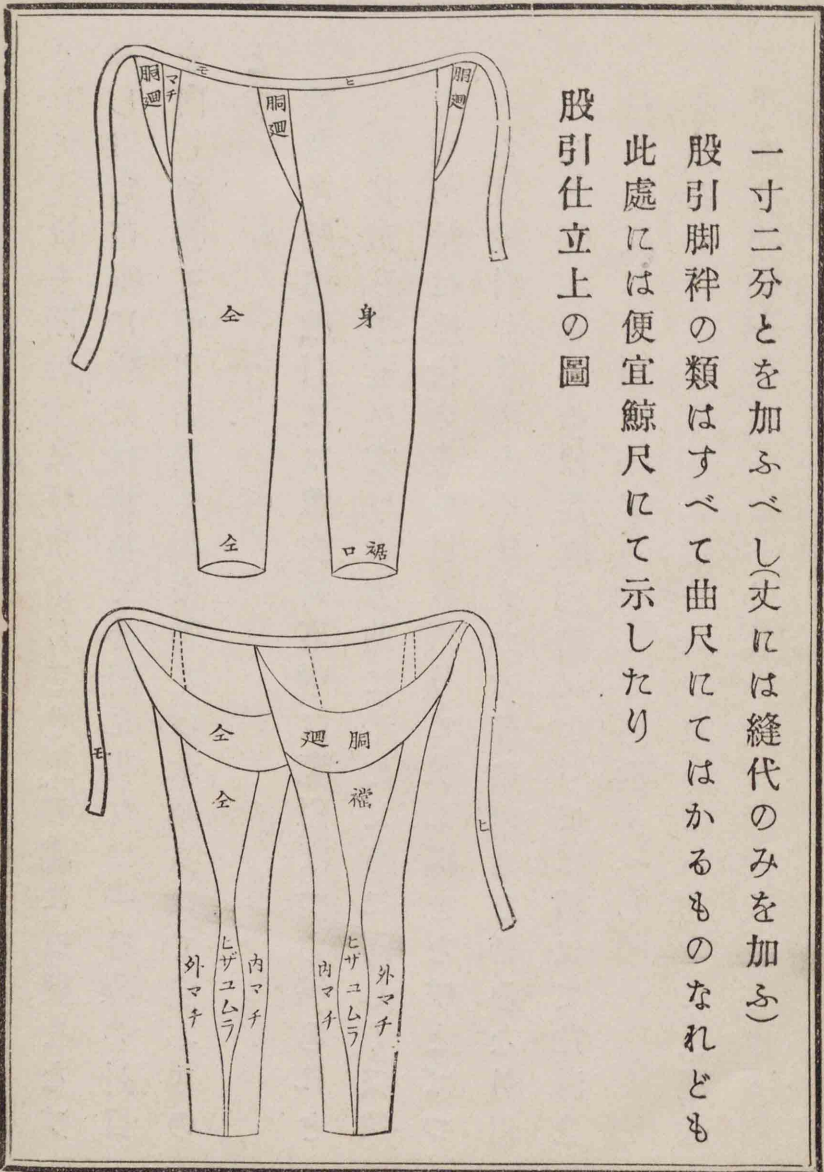
くして之れを附け次に裾口より三寸上の處に口縫をなすべし但し口縫は表には極めて小針に裏には一分程の針目を出して幅五寸程の間を絹糸若くは木綿糸にて縫ふものとす

注意 此他股引には單衣筒裏附、口裏附、ばつち等あれども其裁ち方、縫ひ方は大方前に示したるに同じく只單

衣の時は縫代の裁ち目を折りて伏せ縫をなすとばつちは股引より稍太く仕立つる等の差あるのみなり但し布幅狭きか或は足の肥瘦によりては襜にて加減をなし又其長短は膝下の丈にて斟酌すべし

股引の寸法を極むるには先つ丈をはかり次に股廻、膝廻、腓腸廻、裾口廻をはかり其得數に縫代八分とゆるみ

一寸二分とを加ふべし(丈には縫代のみを加ふ)
 股引脚袴の類はすべて曲尺にてはかるものなれども
 此處には便宜鯨尺にて示したり
 股引仕立上の圖



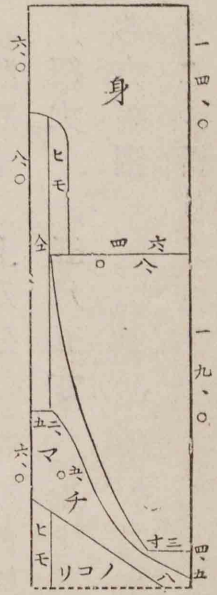
第三 半股引裁ち方積り方(單衣)

用布 幅九寸五分長と七尺五寸
 普通裁ち切り寸法

- 丈 一尺四寸
 - 身幅 上六寸四分 下いっばい
 - 胴廻 一尺九寸
 - 同幅 後八寸 前三寸
 - 襠幅 下二寸五分
 - 股五寸 上八分
 - 紐丈 五尺五寸
- 裁ち方の圖
 布丈二つ折り

積り方

(身六寸 腰圍十寸五分) × 二 = 腰丈



第四 同縫ひ方順序

身頃に外襠及び内襠を入れ縫代を折りて伏せ縫をなし次に胴廻を付け亦縫代を伏せ裾口を三つ折り紵けになし股引の如く前を重ねて紐をつくべし

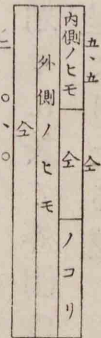
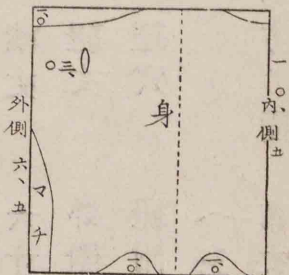
第十九章 脚絆及び足袋

第一 脚絆裁ち方 (袴)

用布 表並幅長さ二尺一寸 半幅長さ二尺
裏並幅長さ二尺一寸

裁ち切り寸法

- 丈 一尺五分
 - 身幅 上いつばい 下七寸五分
 - 繰り 上一寸 端より二寸程の間真直 下一寸 兩端五分程の間真直
 - 襠丈 六寸五分
 - 紐丈 外側の方二尺 内側の方五寸五分
 - 紐穴 紐附の通りに於て外側の端より真中の方へ三寸程よりたる處
- 裁ち方の圖 布丈二つ折り

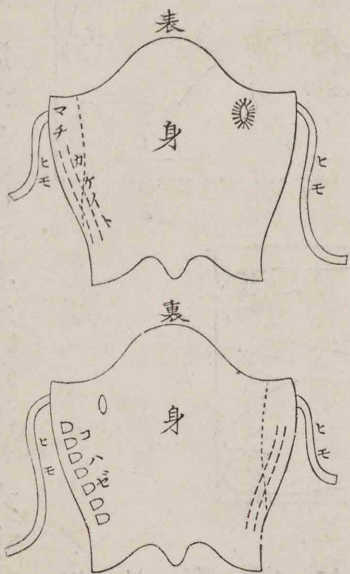


第二 同縫ひ方順序

左右共に内外の紐を紵け(内側の紐は穴へ通すべき方故先きを少しく細く紵け置くべし)次に身の上下及び外側の三方を裏を五厘出して縫ひ外側には上より七分程下りたる處へ紐を挟む(山の處はやゝ糸を張りて二三針毎に返し針をなし次に襠の直眞なる方より幅の廣き方へかけ(幅の廣き方より七分程下りたる處に紐を挟む)裏を五厘出して縫

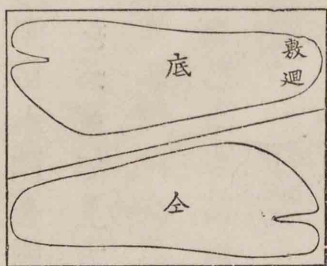
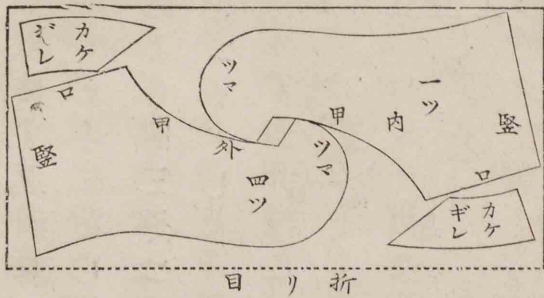
ひ廻し身の内側の表裏にて襠の斜なる方を挟み(襠をやゝゆるめにし)返針にて四つ縫ひになし引き返して其下を紵け穴かゞりをなし外側に小馳を付け(下より二寸程上りたる處より間三分つゝをおきて上方へ七つ程)次に内側に掛糸をつくべし

脚半仕立上の圖



第三 足袋裁ち方

十文 用布 表裏とも並幅一尺二寸づゝ
底半幅四寸七分程長さ六寸五分



用布を縦に二つに折
りて其上に圖の如く
形紙を載せちよゝく
若くは篋にて其周圍
にすちをつけ標の通
り之れを裁ち次に底
布の上に圖の如く底
形を載せ亦其圍りに
線を附けて之れを裁
ち切るべし

注意 足袋をはかるには文尺を用ふ文尺とは文錢の
直經を單位に取りたるものにて其一文は曲尺八分
鯨尺六分四厘に當る而して普通に用ふる足袋の種
類は四文より十三文位までとす
足袋の形を取るには此文尺を用ひて各部の寸法を
割り出すものなれとも甚た複雑なるか故に此處に
は之れを畧せりさればなるべくかたちよき形を撰
びて使用すべし

第四 同縫ひ方順序

掛布の表裏を揃へ其短き方に小馳(大人物は大方三つ小供
物は二つ)を挟みて之れを縫ひ引き返して表を出し内外の
口縫をなし内甲の豎を下方八分殘して縫ひ引き返して表

を出し次に外甲の豎にて掛布を挟み甲をや、ゆるめにし
 て一針ぬきに縫ひ下を九分程残し置き此處に内甲の縫ひ
 残したる處を挟み六枚共に返針にて縫ひ次に外甲の表裏
 にて内甲を挟み二本系にて一針ぬきに之れを縫ひ引き返
 して縫ひ目を正しくなし俣布及び掛系をつけ裏を出して
 底をつく底を附くるには豎の縫ひ目と指のまたとを底の
 真中に合せて上下とも之れを留め次に底を己れの方に甲
 を向ふになし襜先の處は甲を弛めになして左は一つの方
 より右は四つの方より一針ぬきに襜をつけ又廻りを縫ひ
 縫代をかゞり表を出して仕上をなすべし

裁縫教科書下卷終

明治三十四年九月二十日印
 明治三十四年九月廿五日發
 明治四十一年五月十日三十版印刷發行

刷行 (裁縫教科書下卷)
 定上卷金三十五錢
 價下卷金五十錢

明治三十五年七月廿二日
 文部省檢定濟

不許複製

著作者 谷田部 順
 東京市本郷區向岡彌生町二番地

發行者 目黑甚七
 東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地

發行者兼印刷者 河出靜一郎
 東京市日本橋區通三丁目十番地

印刷所 愛善社
 東京市神田區小川町一番地

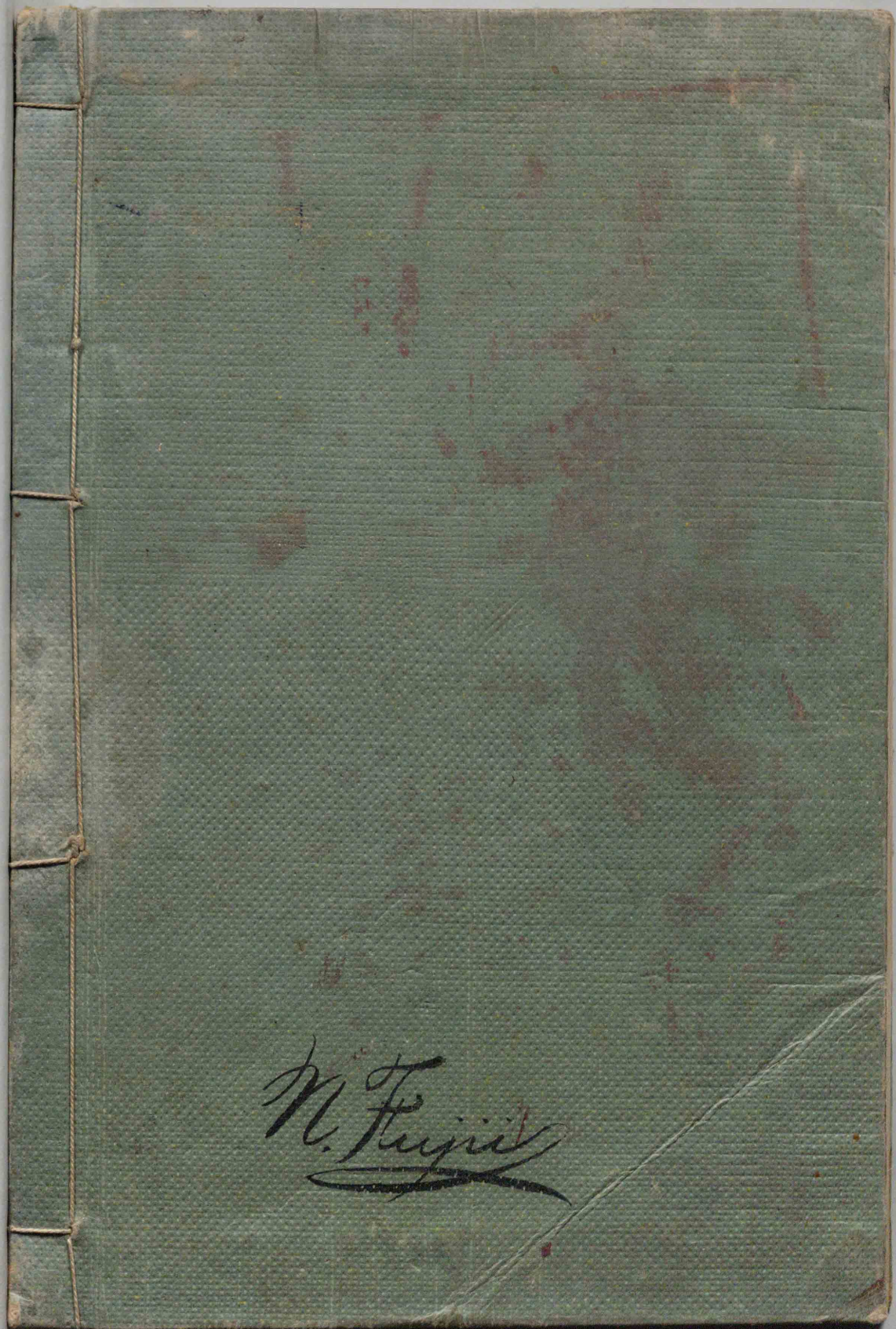
販賣所

東京市神田區南乘物町九拾番地

明治圖書株式會社

電話本局八九二番 本局一六四番
 振替貯金口座 四九一五番

4



W. Fujii